

# 目 次

ロータリーの綱領 ロータリアンの職業宣言 四つのテスト

目 次	1	
プログラム	2	
本 会 議		
写 真	4	
ガバナー挨拶	ガバナー 山田 修平	6
地区協議会に当って	次年度地区研修リーダー 鈴木 雅博	7
2012 - 13 年度共に奉仕の実践を	ガバナー・エレクト 得 居 仁	8
部会別協議会		
会長部会		17
幹事部会		31
クラブ奉仕部会		34
職業奉仕部会		39
社会奉仕部会		43
国際奉仕部会		51
新世代奉仕部会		61
ロータリー財団部会		71
ロータリー米山記念奨学会部会		77
決議 23-34		84

## 2012年地区協議会プログラム

9:00	登録開始	司会：次年度地区幹事長	高橋 孝夫
10:00	点 鐘  国歌斉唱  ロータリーソング「奉仕の理想」	ガバナー	山田 修平
10:05	ホスト・クラブ歓迎の言葉	佐倉RC会長	實川 正道
10:10	次年度地区役員紹介	ガバナー・エレクト	得 居 仁
10:25	地区協議会開催のご挨拶	ガバナー	山田 修平
10:35	地区協議会に当って	次年度地区研修リーダー	鈴木 雅博
10:45	2012 - 13 年度共に奉仕の実践を	ガバナー・エレクト	得 居 仁
11:20	表 彰	ガバナー	山田 修平
11:45	次年度ホスト・クラブご紹介	ガバナー	山田 修平
	次年度ホスト・クラブご挨拶	君津RC会長エレクト	黒岩 靖之
	地区大会のご案内	次年度地区大会委員長	萩元 住明
	地区大会記念ゴルフ大会のご案内	次年度ゴルフ大会実行委員長	石井 定明
12:00	点 鐘  諸事お知らせ  昼 食	ガバナー  次年度地区幹事長	山田 修平  高橋 孝夫
13:00	部会別協議会		
16:00	閉 会（終了次第、部会ごとに閉会となります。）		



本 会 議



受付



会場



ホストクラブ会長挨拶



山田修平ガバナー挨拶





鈴木雅博研修リーダー挨拶



得居仁GE挨拶



表彰



次期ホストクラブ会長挨拶



地区大会の案内



## 地区協議会ガバナー挨拶

国際ロータリー第2790地区

2011-12年度ガバナー 山田 修平

国際ロータリー第2790地区の地区協議会に、多くの皆様にご参加頂きまして、誠に有難うございます。

次年度へ向けての地区三大セミナーの最後で開催されるこの地区協議会は、次年度クラブの指導者に就任される皆様が任務に備えるために開催されます。既に会長エレクト研修セミナーで、各クラブの会長の皆様には、得居仁ガバナー・エレクト（GE）からRIテーマや次年度地区の運営方針等が伝えられております。これを受けて、クラブ会長は次年度のクラブ運営を立案します。既に立案されておられると思いますが、皆様はRIテーマ、地区の運営方針、更にはクラブ会長の運営方針を実現する為に、各委員会をどのように運営するかを立案しなければなりません。

本年度皆様のクラブに公式訪問させて頂きましたが、その際にクラブ活動計画書を拝見致しました。私が受けた印象は、多くのクラブで委員会の活動計画が、大変短い文章で書かれていると感じました。中には、昨年度と全く同じというクラブもありました。

皆様は、これからそれぞれの立場で活動計画書を作成致します。その際には、過去の委員会の計画は余り見ないで、皆様の委員会はどういう役割を担うのかという事をよく研究し、その上で次年度どのように活動して行くかを記して頂きたいと思っております。本年度のテーマの中に継続ということがありますが、これは、昨年度と全く同じ活動をするというものではございません。

ロータリーが衰退してきたとか、新会員が入会しても、ロータリーの事をよく理解しないで退会してしまうと言う事を皆さんもお聞きだと思います。

歴代のガバナーは、言葉は多少違っても、クラブが強化されないとロータリーが衰退してしまう。強力なクラブとなるために、特にクラブ会長はしっかりとクラブ運営にあたって頂きたい、と訴えて参りました。

次年度は皆さんがカギを握っています。強力なクラブとなるためには、どうすべきなのでしょう。従来のやり方をそのまま継続しては、ク

ラブは発展しないと思います。クラブ運営の継続は、毎年全く同じに運営していても、どこかで少し手を抜いたりしてしまいます。そうすると、次の年度では、手を抜いた状態を継続します。さらに手を抜いて行くと、段々楽な方へ、楽な方へとになってしまいクラブに活性が無くなってしまい、結果は会員が退会したりしてしまいます。

公式訪問で感じたことは、会員数の多いクラブほどクラブ運営をしっかりとやっているということでした。会員数の少ないクラブの全部がそうだとは言いませんが、会長挨拶や会長の時間でのクラブ会長の挨拶が、ロータリーに関する話しが殆どないように感じました。また、会員同士の話し合いの中にもロータリーについての話し合いをして頂きたいものです。

毎週の例会は、テレビや新聞で報道されている事柄を解説する場ではありません。クラブ会長の趣味の話を書く為の時間でもありません。と、私は思います。クラブ会長は、仲良しクラブの例会や趣味の同好会の会合ではなくて、ロータリー・クラブの例会であると言う事を、強く認識すべきだと思います。クラブ会長は、例会での会長挨拶ではロータリーの話しをして下さい。昨年度のPETSで、本年度のクラブ会長にそのようお願い致しました。

毎月週報を送って頂いておりますが、私は一番初めに読むのが会長挨拶です。幾つかのクラブ会長が毎週ロータリーの話しをして頂いております。しかし、そうでないクラブ会長が圧倒的に多いように感じています。

次年度のRIテーマや、地区の方針につきましては、得居仁GEから詳細にわたってお話があります。皆様はこうした事を踏まえて、次年度のクラブ運営にあたって頂きたいと存じます。

クラブの会員は、次年度皆様の力を大いに期待しております。皆様の年度が素晴らしい年度になりますように、皆様のご活躍を期待致します。



## 地区協議会に当って

国際ロータリー第 2790 地区

2012-13 年度地区研修リーダー

パスト・ガバナー 鈴木 雅博

桜の花に代わって自然の緑が美しく目にしみる此の時期、我々ロータリアンにとっては、上質な奉仕の新しい方向を知る期待で心ときめく頃でもあります。

今年度は国際ロータリー会長に田中氏が就任、ロータリー運動の究極の思想を賢く実践する我が国ロータリアンを代表して、ロータリー運動の根本を貫かれるものと、大きな期待を持って居るところです。

さて、国際ロータリー第 2790 地区に置きましたは、2012～2013 年度に得居仁氏がガバナーを務められます。得居ガバナー・エレクトは格別に深い造詣を持たれる方で、お人柄から法曹界はもとより各界各層から絶大な尊敬の念をもって信頼を得て居られる方です。ロータリー運動に置きましても、ポール・ハリスが思い立ったロータリー運動の発生の要因、ロータリー運動の根本の考え方を確りと認識され、ロータリーの思想の基本として其の根幹を司る『職業奉仕』の思想を大切に於てロータリー運動に取り組んで居られます。近時の、ロータリーの趨勢と見られる、コマーシャル主義による会員獲得や奉仕事業一辺倒とは異なり、ロータリーの本筋・ロータリーの信念を貫かれて居られます。私は、得居ガバナー・エレクトに総てを托し、得居ガバナー・エレクトの御指導に全幅の信頼を持ってロータリー運動に関わって参りたいと思います。

御多用の中、本日ご出席戴いて居りますパスト・ガバナーの皆様には、ご専門の立場からの御指導を戴く事となりますが宜しくお願ひ申し上げます。更に、ガバナー補佐に御就任予定の皆様には、各々の地域性を生かしながら、得居ガバナー・エレクトの御意向を良く御理解戴き、ガバナー・エレクトを補佐し地区運営を滑らかにし得居ガバナー・エレクトの御活躍を盛り立てロータリーの上質な思想の普遍を実現する事によって、究極のロータリーの奉仕の実践に繋げて下さい。

又、地区委員の皆様には、各々担当される奉仕

部門について、奉仕のエキスパートとして地区内ロータリアンのお手本をお示し下さる事となり、地区ロータリー運動の指針を示される御立場として大変重要な役割を受け持たれる事となりますので、深い御造詣をもって宜しく御指導をお願いいたします。

会長エレクトの皆さんは、各クラブの舵取りをされる訳ですが、得居ガバナー・エレクトの御挨拶の中から、ガバナー・エレクトの素晴らしい御意中を良く御理解戴きクラブ会長としての年度を理想のロータリー運動・本当の意味のロータリーの奉仕の実践をしてくださいます様に心からお願ひいたします。

奉仕を標榜する組織や団体が数多く在る中で、100 年以上の歴史を積み重ねて来ているのは並大抵のことではありません。ロータリーの奉仕の本質が上質で高尚な品位と思想に基づく精神性に依るからであります。世間一般で単純に奉仕行為と言われる、労力提供や資金の拠出によるものを前面に出し、この様な行為や事業の量をもってロータリーを評価し、或いは又商業感覚での闇雲な会員獲得に走っていたら、ロータリーの思想や品位の保持は危うく、100 年の歴史を重ねる事は不可能であったでしょう。幸せにも先人の英知は、ポール・ハリスと三人の仲間の始めたロータリーを深い考えによる心で、其の目指す所を理解し賢明な判断によって受け継いで来ました。

これからのロータリーの存続の鍵は、今、此処に居る私達が握って居ると考え、ロータリーの上質な思想から発生した『職業奉仕』の理念を確りと理解し把握してロータリー運動に携わって行かなければならないと考えます。得居ガバナー・エレクトの御高見による素晴らしい御指導を戴き、御出席戴いて居ります地区内各クラブのロータリアン皆様の賢明な御協力で、素晴らしいロータリーを御育て戴き、皆さんの身の回りから地域社会へ、そして世界へ向けて上質な思想を拡げてくださる様お願ひいたします。



## 2012 - 13 年度共に奉仕の実践を

国際ロータリー第2790地区  
ガバナー・エレクト 得 居 仁

### はじめに

山田修平ガバナー、研修リーダー鈴木雅博パスト・ガバナー、研修委員崎山征雄パスト・ガバナーのご指導のもとに、パスト・ガバナーの皆様、関口徳雄ガバナー・ノミニー、そして次年度ガバナー補佐、地区委員長、地区委員各位のご協力を頂き、次年度会長、幹事をはじめとする地区内クラブのリーダーの皆様のご出席の許に、ここに2012年地区協議会が開催されますことを感謝申し上げます。

また、ホストクラブとして開催にご尽力いただきました佐倉ロータリー・クラブの皆様にご心より御礼申し上げます。

来たるべき2012-13年度に、ガバナーとして、皆様とご一緒に「奉仕する」機会を与えられましたこと、身に余る光栄でございます、感激いたしております。

元より皆様のご協力なくしては到底その任を全うすることができません。どうか1年間私に皆様のお力をお貸しくくださいますようお願いいたします。

本題に入ってまいります、本日の私のご挨拶は、3月30日に行われました2012年会長エレクト研修セミナーでのご挨拶と一体をなしておりますことをご承知おき頂きたいと存じます。

### 2012-13 年度 RI テーマ

#### 「奉仕を通じて平和を Peace Through Service」

1982-83年度向笠廣次元会長以来30年ぶりの日本からの会長となる田中作次 RI 会長エレクトは、2012-13年度 RI テーマを「奉仕を通じて平和を Peace Through Service」とされました。

八潮ロータリー・クラブに入会した後に、例

会で職業奉仕についての話を聞いてから、自分が少しずつ変わっていった。収入や売り上げを増やすこと、自分の会社をほかの会社よりも良くすることだけでなく、人として、職業人として、もっとよい、もっと高い目的を持って人生を送りたいと思うようになった。そしてそのために、ほかの人たちの役に立つことが、人生で最も大切だと思えるようになり、更に、どんな些細なことでも人を助けることが「平和」につながることに気づいた。「平和」は人によって様々な意味を持っているが、どのような意味においても、ロータリーでそれを実現することができる。国や民族間の友情と寛容を推進することで、ロータリーは、最も伝統的な意味での「平和」、互いに理解し合う後押しをしてくれる。ロータリアンは、自分よりも、他のひとのニーズを重視する。「超我の奉仕」という言葉は、自分のためだけではなく、社会全体のためを考えよと教えてくれる言葉である。そうすることで、より平和な世界を築くことができる。

そこで、私は2012-13年度のロータリーのテーマを、「奉仕を通じて平和を」と決定した、とテーマ講演で述べられました。

### 田中 RI 会長エレクトからの3つの要望事項

田中 RI 会長エレクトから3つの要望がなされています。

第1は、ロータリー戦略計画3つの優先項目である「クラブのサポートと強化」「人道的奉仕の重点化と増加」「公共イメージと認知度の向上」に力を注ぐこと、

第2は、2012-13年度ロータリー世界平和フォーラムの推進と出席、第3は、「奉仕を通じての平和」の精神をもってロータリーの究極の目的である平和な世界に向けて邁進すること、であります。

要望事項第2のロータリー世界平和フォー

ラムにつきましては、ベルリン、ホノルル、広島3都市での開催が決定され、広島では「平和はあなたから始まる」のサブタイトルの下に2013年5月17日、18日に開催されます。詳細は本冊子9、10頁をご参照ください。

後日各クラブに、開催費用の分担負担とフォーラムへの参加についてのご協力をお願いすることになります。その節はどうぞよろしくお願いいたします。

### ロータリーの綱領

英語の原文「Object」「目的」が「綱領」と訳されて、国際ロータリー定款第4条に規定されています。

「綱」とは、大づな、つなぐ、まとめる、を意味し、「領」は、えりくび、すなわち身体の枢要部、最も大切なところ、を意味する「文字」でありますから、「綱領」とは、単なる目的に過ぎるものでなく、大づなで、つなぎ、まとめられた、ロータリーの最も重要なところ、つまりロータリーが、目的、目標とするが、同時にいつまでもこれを守り通し、守り続けていかなければならないものであることを意味していると考えています。

「綱領」は、「ロータリーの目的は、有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し・・・」と宣言しています。

ここから明らかになることは、ロータリーの目的は、奉仕の理想という基本理念の上に立って、相手方に対する思いやりの心をもって事業が行われるようにすることにあるとするもので、要約すれば、「ロータリーの目的は職業奉仕の推進にある」ということになります。

### 地区運営の方針

ロータリーの地区の活動ならびにその組織は、個々のロータリー・クラブがロータリーの綱領を推進するのを助けることを唯一の目的

とするものであり、また地区ガバナーは、地区内クラブに対する指導と監督をおこなうことで、ロータリーの綱領を推進する任務を課せられているのでありますから、私の任務はロータリーの綱領の推進を図ることにあり、また従って当然に、私の次年度地区運営の方針も職業奉仕の推進を目指すものであります。

地区委員会組織を、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、新世代奉仕の5つの奉仕の分野（Five Avenues of Service）を基準とした構成とし、RI 新世代プログラムに従って、青少年交換を新世代奉仕に所属させました。

これまでの地区委員会の活動は毎年大変に活発であり、かつ有意義なものでありまして、後に続く者として心からの敬意を表する次第であります。

私は、単年度制をロータリーの最高の長所であると考えており、ロータリーの奉仕活動に専門家（プロ）は不要であり、仮に専門化しないと地区委員会が活動できないのであれば、むしろそこに問題があると提示いたします。

組織はどのようなものであっても、必ず官僚化し、継続性と一貫性の美名を隠れ蓑として、先例墨守、前年踏襲の弊害を齎し、組織を衰退させてしまいます。

これまでの地区委員会がそうであったとは決して申しませんが、近い将来に予想される地区委員会の官僚化を防ぐために、思い切った地区委員会委員の交代を図り、更に、官僚化のもう一つの弊害である組織肥大化をこれまた事前に防止する警鐘の意味を込めて、地区委員会委員数を大幅に減員いたしました。

地区委員長と委員各位には、私の意とするところを諒として、ご就任して頂き、ご協力頂けることに衷心より感謝申し上げている次第でございます。

地区委員会委員の減員により、地区委員会が主催する奉仕活動が人手不足となることが生ずることが懸念されます。かかる場合には、会長エレクトをはじめとする皆様方全員が、地区委員会の存在目的と活動が、専ら個々のクラブのロータリーの綱領の推進を手助けするためのものであることを再認識して頂き、地区委員会から協力要請のあった場合には、どうぞ惜し



みのないご協力をくれぐれもよろしくお願い申し上げます。

また、ガバナー自身とガバナー事務所の経費を出来るだけ節約する予算案を策定しました。

このようなことによる予算削減の効果として、次年度は地区委員会が開催するセミナーでは、会場費や資料代に充当される登録料をクラブや出席される会員にご負担頂かなくとも良いことになるものと存じます。

## 要望事項

### 1. 職業奉仕の更なる推進

私の地区運営方針が、職業奉仕の推進を目指すものであることをお話ししました。

皆様のクラブ定款第4条にも、国際ロータリー定款と全く同じように「綱領」が規定されております。

クラブの目的である「綱領」の推進、すなわち職業奉仕の更なる推進を強力に図って下さいますようお願いいたします。

田中 RI 会長エレクトも、「事業を成功させるには、顧客の満足を追求する以外にないという結論に達したのです。事業が成功すれば、自分も幸せになれる。しかし、それは事業が成功しているからではなく、人を幸せにしてあげることができたという認識があるからです。」として、ご自分の今日あるのは職業奉仕実践のお蔭であると述べておられます。

### 2. クラブ会員の研修による「クラブのサポートと強化」

既にガバナー補佐を通じ、また会長エレクト研修セミナーにおいて、新たに研修委員会を設置するか、研修を担当する委員会を指定して下さいようお願いしました。

研修によって、クラブ会員の職業奉仕理念の理解を深め、今以上に職業奉仕の実践を極めていくことを目指して下さい。

そのために、クラブ会員の研修を1年間、継続して、複数回行って下さい。

クラブ会員が日々職業奉仕に励むことによ

り、高潔性があり、品格・徳性を備えた地域のリーダーとなっていき、クラブが強化されます。

「綱領」すなわちロータリーの目的である職業奉仕の推進を図ることが、田中 RI 会長エレクトの要望事項第1、ロータリー戦略計画3つの優先項目の1つである「クラブのサポートと強化」に直接結びつきます。

「職業奉仕に生きること 話し合い 語り合おう」をテーマとする、分区単位でのガバナー補佐主催のロータリー情報研究会と、それに先立つ2分区ずつのクラブ職業奉仕委員長セミナーが、クラブ会員研修に大いに役立つものとなると確信しております。

### 3. ロータリーの公共イメージと認知度の向上

ロータリアン一人ひとりがロータリーの広告塔であり、地域社会の人びとが接するロータリアンが、ロータリーの公共イメージと認知度を形成します。

職業奉仕の実践により、ロータリーの立派な広告塔となる徳性と品格を備えた職業人・実業人であるロータリアンを一人でも多く生み出して、皆様のクラブの全てが、田中 RI 会長エレクトの要望事項第1、優先項目の3つ目であるロータリーの「公共イメージと認知度の向上」を果たすこととなるよう希望いたします。

### 4. 「新世代奉仕に力点を置いての人道的奉仕の重点化と増加」

職業奉仕、クラブ奉仕、国際奉仕、社会奉仕、新世代奉仕のどの奉仕活動の実践も、田中 RI 会長エレクトが定義する「平和」である、「心の平安」や「家族の幸せ」「満足感」を、また「人間の基本的なニーズが満たされた安全な状態」を齎すものであることに異論はないであります。

皆様のクラブにおいても奉仕活動の更なる活発な展開を図って、田中 RI 会長エレクトの要望事項第3の、「奉仕を通じての平和」の精神を以て平和な世界に向けて邁進するようして下さい。

なお、ここで、皆様のクラブの奉仕活動が、前年踏襲を主たる理由としてだけで行われていて、マンネリ化する弊に陥っていないかを検



証してください。

もし、然りとすれば、勇気をもって終結させるか、大幅な改善を図って下さい。このこともクラブ強化に結びつきます。

私は、未来の希望を担っている我が国の青少年が、市場原理主義、グローバリズム、ボーダーレスの大波に翻弄されてしまって、将来への夢を描けなくなってしまっているのではないかと危惧しています。

若者が未来に向けて明るい希望を抱くことができるようにし、また私たちロータリアンが彼らの模範となり、職業奉仕の大切さを知ってもらうことによって、新世代の健全な育成を図ることが、我が国の、そしてロータリーの輝く未来を招来いたします。

田中 RI 会長エレクトの要望事項第 1、優先項目 2 つ目の「人道的奉仕の重点化と増加」に向けて、新世代奉仕の常設プログラムに加えて、一般プログラムとして、社会奉仕委員会とのクロス・プロモーションによる新たな奉仕活動を立案し、実施して下さいますようお願いいたします。

## 5. 委員会の枠を超えたクロス・プロモーション活動

2007年7月のインターアクト、ロータリーアクト、RYLA、青少年交換4委員会による「RI 青少年プログラム合同会議」を始まりとするものでありますが、異なるものが提携することにより、それぞれが活性化し、新たな価値を生み出したクロス・プロモーション活動は、ただ新世代奉仕に留まらずに、5つの奉仕の分野の委員会すべてに適用されて然るべきであります。

私は、地区委員会に対して、「第2790地区委員会クロス・プロモーション」による活動を要請いたしました。皆様のクラブにおいても、異なる委員会が垣根の枠を超え、相互に提携して行動することにより新たな価値を生み出してくれるであろう、クラブの委員会クロス・プロモーションの実施を是非試みてみるようお願いいたします。

## 6. 各クラブ純増1名の会員増強

組織の自然衰退、弱体化を防ぎ、かつクラブの強化・活性化を図る意味からも、1名純増の会員増強に力を尽くしてください。

田中 RI 会長エレクトが述べられたように、「ロータリアンになるよう誰かに声をかけるとき、ロータリーが入会にふさわしい素晴らしい団体であり、ロータリーのおかげで幸せになれることを説明し、勧誘を行うのは、入会者のためであること、私たちはみな、ロータリーから恩恵を受け、ロータリーを愛しているからこそ、入会者を通じて、自分と同じ幸せを人々にも味わってもらいたいと思っているのだ」と、いつも、そしてどこでも、思い浮かべながら、皆様方クラブのリーダーが先頭に立ち、クラブ会員一人一人が会員増強に努め、励んで下さい。

## 利己と利他との調和（欲望の自己制御）を

1992年にポンド売りを浴びせかけてイギリスに、また1997年には同様にアジア諸国に通貨危機による経済の混乱を生ぜしめたといわれながら、巨額の富を得る一方で、1979年から2011年までに80億ドルもの大金を慈善事業に寄付しているヘッジ・ファンドのマネージャーであったジョージ・ソロスは、「企業家として『稼ぐが勝ち』という信念を大切にしています。社会のために何らかの貢献をしようと思った場合、自由に出来る資金を自らの手で稼ぎ出すということは大事な発想です。勿論稼ぐに当たっては法を守らなければならないことは言うまでもありません。法の抜け穴をくぐっていくら利益をあげたとしても、それは評価に値しません。」と述べています。

社会貢献するには稼ぐしかない、稼ぐに当たっては法律さえ守っていれば良いとして、社会貢献を免罪符にして、法律に反しさえしなければどんな稼ぎかたをしても良い、稼げば稼ぐほど社会貢献できるのだ、とする彼の生き様は、私たちロータリアンの目指しているところと対極にあります。

ポール・ハリスは、「ロータリーは宗教でもなければ、宗教に代わるべき何かでもない。そ

れはただ古くからある道德観を現代生活、殊に職業生活において実践しようとするものなのだ。」と言っています。

職業を遂行するに際しては、資本の論理、法による規制に従って行うだけでは不充分であって、法以上の高い次元にある道德律に従うべきであるというのです。法律は最小限の道德であり、道德は法律以前に既に古くから人びとの心の中に「道德観」として存在している、自分自身の良心であります。

“ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は、奉仕—「超我の奉仕」の哲学であり、これは「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な

倫理原則に基づくものである。”と決議23-34は高らかに宣言しています。

無限に増殖していく人間の本能である欲望に手綱をつけて、「欲望を自己制御」することが、「利己と利他との調和」を図るロータリーの「超我の奉仕」の「人生哲学」であり、「利己と利他との調和」こそが、人と人との間柄、職業人・実業人とその相手方との関係を律する実践的倫理基準の偉大な原理であります。

私たちロータリアンは、例会において、親睦を通じて、心を磨き、自己研鑽を遂げ、また道德心を高揚させて、自らの徳性と品格を高め、更に自己研鑽のエネルギーを奉仕の心として、それぞれがそれぞれの職業の質、職業倫理の向上を語り、「利己と利他との調和」を求め続けていく、それがロータリーなのだと、私は考えています。

**When Wealth is lost, nothing is lost.**

**When Health is lost, something is lost.**

**When Character is lost, everything is lost.**

富や財産をなくしても、(あなたは)何も失ってはいないのです。  
健康を損なった(失った)とき、(あなたは)何かを失うことになるのです。  
徳性・品格をなくしたとき、(あなたは)全てを失うことになるのです。

(1991-92年度ラジェンドラ・サブーRI元会長が、ときの国際協議会閉会の辞で引用した詩句)

## 生かされている

私は、丁度2年前の4月、原因不明の急性肝炎と血小板の激減という一種の奇病にかかって生死の境を彷徨いました。

意識が混濁した状態で、知人の医師の紹介で順天堂大学御茶ノ水医院に緊急入院しました。入院と同時に延命措置をとるかどうかの確認を求められるほどの深刻な状況にあったようです。

このような切迫した中で、原因が不明であることもあって、家族の者は助からないだろうと

覚悟を決めたそうでありました。

原因不明の手探りの状況の中で、医師達は可能な限りの処置を施し続けてくれました。治療方法を決定するために夜を徹しての会議をしてくれたこともあったようです。担当医は、新婚間もない女性医師でしたが、危機を脱するまでの間は毎日病院に泊まり込んで、またその後は退院するまで1日も休みを取らずに、治療に当たってくれました。

看護婦さん達は、昼夜、短いときには15分

おきに、点滴、血圧、体温測定等の看護に一生懸命に尽くしてくれていましたが、それだけに止まらずに、いつも優しく、私に、助かろう、生きようとする意欲を起こさせるように、様々なケアをしてしてくれていました。

家族の励ましと、このような治療・看護の甲斐があつて、意識も戻り、少しずつ快方に向かい始めました。

危機を脱したときに、准教授から順天堂大学を紹介してくれた知人の医師に、「奇跡です。」との連絡が入ったそうです。

ロータリアンではありませんが、順天堂大学御茶ノ水医院のお医者さんと看護婦さんからの「職業奉仕」実践の恩恵を受けて、私は、死から奇跡の生還を果たせたのです。

「職業奉仕」は奇跡を起こして、助からない筈の命を救うことも出来るのです。

私は、ロータリーが説き続けている「職業奉

仕」は、ロータリアンだけが行っているものではないことを知ることができました。

そしてまた、ロータリーの「綱領」が推進する「職業奉仕」が、尊い、気高くて崇高なものであることを改めて認識し、その素晴らしさ、大切さを、生きていられることの喜びとともに、噛みしめています。

このご恩を世の中にどうやってお返ししていったらよいのか、考え続け、それを実行していくことを、私のこれからの人生の責務として背負い続けていく覚悟であります。

「職業奉仕」は決してロータリーだけのものではなく、私たち人間が何よりも大切にしていかなければならない、人としての生き方、人として生きていく姿勢、というべきものでありましょう。

以前、このような詩を聞いたことがあります。

## 『人が生きると言うこと』

人が生きると言うことは

誰かに借りをつくること

誰かにしてもらったように

誰かにしてあげること

人が生きると言うことは

誰かと手を繋ぐこと

そして、手の温もりを

忘れないでいくこと

めぐり合い、愛し合い

別れた後に悔やまないように

今日、明日を生きよう

人は一人で生きて行けない

人は一人で歩いて行けない



# 部会別協議会

---



## 会長部会



パスト・ガバナー 齊藤 博  
ガバナー 山田 修平  
2012-13 年度地区研修リーダー  
パスト・ガバナー 鈴木 雅博  
2012-13 年度地区研修委員  
パスト・ガバナー 崎山 征雄  
ガバナー・エレクト 得居 仁  
ガバナー・ノミニー 関口 徳雄

### 1) 山田修平 G 挨拶

午前中の全体会議では時間が大幅に遅れ大変失礼しました。午後からの会長部会、皆さんのクラブでは皆様にかかっていますので次年度1年間クラブを活性化するために頑張ってください。それでは会長部会をはじめたいと思います。

宜しくお願いします。

### 2) 鈴木雅博 P G ・研修リーダー 挨拶

次年度会長のみなさん、ガバナー補佐の皆さんお疲れ様でした。大変長い協議が終わりました。いよいよあなたたちのスタートとなります。山田ガバナーもおっしゃっておりました。2、3年前の計画をそのままやって全てが終るというわけではありません。どこにいくら寄付した、どこにいくら協賛したとってこれで1年間やっても何も残りません。どうぞみなさんの地域を良く見て、活動の起爆剤としてぜひ皆さんの地域に根差した社会奉仕活動を立ち上げてもらいたい。いつも献血をやっているわけにはいきません。これはすでに地域に根付いたものです。ロータリーが立ち上げたわけですが、すでに地域として組織として動いているわけですから何か新しく立ち上げてもらいたいと思います。

そしてもう1点はGEもおっしゃっていましたがクラブの研修委員会をしっかり立ち上げたい。ぜひ、会として会長含めた中で研修委員会を立ち上げていただいてロータリーそのものを勉強してほしい。

皆さんの1年間のご健闘を心よりお祈りします。ご苦労様でした。

### 3) 関口徳雄 G N 地区予算(案)承認の件

全会一致で承認

### 4) 崎山征雄 P G 講話

会長E、幹事E、の皆様の年度は本日の地区協議会の内容で運営されます。田中作治次年度RI会長の方針をうけた、得居GEの会長エレクトへの次年度の活動方針と、各地区奉仕委員長の活動発表のように、今年度は2790地区は、新たな変革を取り入れた年度になり、かつこれからの当地区の組織発展の礎の年度にしなければなりません。会長Eの皆様はRIの唯一の正会員としてのクラブ運営を長期計画の下、重点事項中心に実施し、クラブの質を高め、会員拡大増強へ向けてより一層の努力をお願いします。本日の冊子を一年間のクラブ運営、地区運営のバイブルと思って内容をよく読み理解し、実践してください。

さて、ロータリーは金のかからない、楽しい集いなのですが、2000年以来ロータリーは改革、活性化という名のもとに様々な組織の建て直しと、よりボランティア活動への参画のため様々な事を行い、何かと混乱してきました。そのためか、最近どうもわざわざ難しく考え議論して、あれが分からんこれが分からんとの声が聞こえますが、皆でよってたかって難しくしているのではと危惧します。いわく、私たちは固

定観念、偏見を多かれ少なかれ持っており、それが地域規模、社会規模、世界規模で広がったものが地域間の紛争、世界規模での戦争へ繋がりますとか・・・だからロータリーは広く世界平和の為に、日本と海外との架け橋になって、お互いの国の平和と友情を育むとか・・・。

あえてロータリアンの定義をするならば、グローバルなロータリアンとは様々な方々と一緒に様々なテーマで協同作業をできる人で、相手の話を聞き、自分の考えで説得できる人、自国の文化を理解し、他国の文化、宗教を理解し、多様性、論理的思考力、コミュニケーション能力を持つ、幅広い教養を身につけた方となります。そのためには各種セミナー、フォーラムへ積極的に出席して Leadership を身につけ、スキルを身につけなければなりません・・・とか・・・

うるさい限りです・・・どうですか自信ありますか・・・そんな事はない・・・

ロータリーは週一回集まって一緒に飯を食って、異業種の仲間と情報交換し（これがクラブサービス：クラブ奉仕。出席する事、SA（サービスアテンダントではない）サージャンアットアームの存在）、自分の仕事を誠実に、顧客の要望に忠実に、高い道德規範律を持って成し遂げて、役立てて正当な報酬を得る（これがボケーションサービス：職業奉仕）。そして利益が出たら、一部を社会に、世界に、青少年に還元するボランティア活動をする。ただこれだけの事。⇒社会奉仕⇒国際奉仕⇒新世代奉仕・・・

これで五大奉仕を達成できるのです。簡単でしょ。

次年度得居GEは本日、この全ての事に丁寧に皆様に RI の情報をお伝えしています。どうかエレクトと共にすばらしい一年を過ごしてください。

さて話はこのくらいにして、本日は皆様に見ていただきたいものがございます。最初に今年の国際協議会の様子など田中 RI 会長Eを中心にご紹介します。

.....

⇒次にこれから1年間クラブと地区でリーダーとして活動しなければならない皆様が必ず知

っていないなければならない一般教養としての RI のこの100年間の歴史を見ていただきます。現状の RI の理論、理念、活動状況、本年度の方針は得居GEが、財団は織田PGが、米山は平野委員長が、五大奉仕は杉山、海寶、中山、村岡、津留の各委員長からきちんと説明がなされる事と思います。

⇒そこで此処までにいたる100年余の歴史を簡単に振り返ることにしましょう。

歴史は全て事実です。「歴史とは人間そのもの」であり「ロータリー史とはロータリアンそのもの」だという事を認識するから、不確定な未来へ自信を持って前進できるのです。誰にも未来はわかりません。しかし過去の延長線上を見ることが出来るからわずかな自信を持って一步を踏み出す事が出来るのです。

皆さん、自信を持って我々の世界を素晴らしいものにすると思えるロータリーの奉仕の精神を一年間前進しましょう。

ご清聴ありがとうございました。

増強について・・・

人の世の「幸・不幸」は人と人との出会いから始まると言います。クラブの仲間は「良い出会い」から始まった友人です。ロータリーの絆は、会長、幹事を中心にした「クラブ会員の絆」づくりが何より大事です。そのためには優れた人材にのみに門を開く、「入りたくても入れないロータリー・クラブ」を目指し各委員長と連携し、例会の充実をはかり、卓話の充実にも力を入れてください。

ロータリーで大事な事、クラブ奉仕が力強くしっかり地中に根を張り、その上に職業奉仕の太い幹があり、その栄養が花となり実となったのが社会奉仕であり、国際奉仕であり、今年度から加わった新世代奉仕です。大きな果実は奉仕の結果として表現されています。だからこそクラブ奉仕と、職業奉仕が、ロータリー・クラブの本質と言われてきたのです。

それをあらわしたものが皆さまご存知の「ロータリーの樹」。大きなしっかりとした樹にする為にも増強が必要です。ロータリアンに最も大事なことは「善意と友情」「寛容の心」と言われています。ポールハリスは語



録の中で「一種類の花、一つの色ばかりの花壇になんの面白みがあろう、いろいろあってこそ人生の薬味がきくというものだ。」と書いています。いろいろな考えの人も、ロータリーの友人として上手にまとめる事が会長の手腕でしょう。2790 地区に 84 の大きな花を咲かせてください。

ロータリーの奉仕とは決して抽象的な事ではありません。花の美しさを議論するより、会長自らの手で率先して美しい奉仕の花を咲かせる事が、今まで多くの輝かしい花を咲かせてきたクラブに誇りある新たな花を加えることで、すばらしく大きな花束になれる。

2002 年 7 月に D L P が義務付けられました。地区運営の効率化を念頭においたガバナー補佐制度、クラブへの支援体制の強化、指導者の継続性の体制創りなどです。そして 2004 年には C L P が「推奨」されました。以来 C L P をめぐって日本の 34 地区で各種、議論、検討がなされていますが、その道具、手段としてのクラブ活性化に向けた内容、理念、行動方針が理解され、必ずしも 5 常任委員会形式優先でなくともクラブの実情に合った委員会編成でよいとの考え方が定着してきました。今年度は五大奉仕となります。地区とクラブの委員会の整合性の問題もその中身内容を理解して頂き、ご判断頂きたいと考えます。

ここ数年、地区委員会編成が C L P を中心にして、毎年変わってきています。しかし、ここで皆様が混乱しては困ります。

C L P は目的ではありません。ロータリーを活性化し、増強をする為の、道具のひとつと、そのように理解してください。

C L P について 2008 年 1 月のサンディエゴ国際協議会でレイ・ヒギンボサムが強調されたのは、C L P とはそのクラブ活動の継続性(長期計画の策定)の確保と管理運営部門の効率化で、全員参加意識の向上をはかり、奉仕ポテンシャルを高める事が出来るなら、その委員会構成はクラブの総人数によってその形態を標準委員会方式を参考に様々な形に設置できる。「早い話がクラブの活性化がよりよく維持され拡大するのなら、委員会

は今迄の委員会構成でも良い」と説明されたのです。

## 5) 齊藤博 P G 講話

皆様はこの度、明年度のクラブ会長として 1 年間ご奉仕くださることになり、誠にご苦勞様です。我が 2790 地区の前進のため、お力添えの程宜しく願ひ上げます。

ロータリーの綱領にもあります通り、ロータリーは人の上に人を作らず、人の下に人を作らず、幹事さんは偉い、会長さんはもっと偉いというのではなくて、みな、各々役職の分担に過ぎない。ロータリーの精神世界の一つの機能を継承し、活力をもって発展させて行くことが、皆様の任務であろうかと愚考するものであります。

ロータリーは決して難しいものではなく、また格式ばったものでもございません。

地域の中で、他人への思いやり、助け合いから人間関係を良好にして、明るい幸せな住み良い世の中を作ろうとするものでございます。住みよい世の中と言うものは、一応衣食住が豊かで環境も良い。そして人心が安定していることと言えると思いますが、衣食住や環境については、既に種々の団体機関が出来ておりますので、ロータリーが受け持つのは、「人心の安定」であろうと存じます。その為ロータリーではロータリー精神を、その手段、手立てとしております。

そのような活動に生き甲斐を感じずる職業人が集まって、お互いにロータリー精神を学び合い、親睦によって己の心を磨きながら、そのエネルギーを転化しよう。住み良い社会づくりに持ってゆこうとするのが、ロータリー運動でございます。

此の人々の集まりが、ロータリー・クラブであり、世界のロータリー・クラブの連合体を国際ロータリーと申します。

ですからロータリー・クラブと言うものは、地域にロータリー精神を普及しようという拠点でありますし、普及に精進しようとする人々の研修の場であります。

こうしたロータリー運動は、世界 200 以上の国に広がりました。此の運動を、全世界のロータリアンが一緒になって実践することによつ

て、人々が善意によって統一される事ができるならば、今までの忌まわしい戦争という悪因縁を断ち切ることが出来るだろう。こうして世界平和を確立しようとするのが、ロータリー運動の最終目標でございます。ロータリーは決して格式ばったものではございません。

そこで会長をお務めになりますうえでの資料として、実践的な面を若干申し上げたいと存じますが、初歩的な事項でございますので、ご承知の方はお聞き流し下さるようお願い致します。

会長は President と申します。President という名詞は Preside という動詞の名詞化でありまして、Preside とは司会する、統括するという意味なので、President というのは会合を招集し、主催し、リードする人で、これが会長のお役目でございます。ロータリー・クラブでは、例会を、協議会を、クラブフォーラムを主催し、あらゆる会合の議長を務める。これが手続要覧 262 ページ、クラブ細則第 4 条役員の任務、第 1 節に明確に記されております。

クラブと申しますものは、社交クラブと呼ばれる社会構造の中で機能しているものでございまして、ロータリアンと呼ばれる極めて脆弱な糸で結ばれている人間集団でございます。多少の結束力の統制強化はあったとしても、それでもなお、会員の主体性を最も尊重する。一人一人の行動・自主判断を十二分に尊重しながら、全体的な調和を達成させて行かなければならないのが「ロータリー・クラブ管理」の大変難しい処でございます。

皆様は一昨年 12 月に会長ノミネーとして指名されて、昨年 7 月より会長エレクトとして今日まで来ているわけですから、心積もり、又ある程度のご計画は多少お有りと思いますが、先ず第一に 7 月より会長になられることについて一番大事なことは、今までは単なる会員であったわけですが、いよいよ自分のクラブの代表権者・指導者になると言うこの機会に、自分のクラブの現在迄の姿を白紙に戻して、客観的に眺めて戴きたい。自分のクラブはこんな良いところがある。又こういう欠点もあるということ、7 月までに十分にクラブの長所短所を認識して戴きたいと思っております。

第二に次期会長になられる為に大事なこと

が 4 つございます。

1・は、「ロータリーとは何か」という基本問題であります。これは馬鹿らしい話とお思いでしょうが、分かったようで分かっていないのです。これが分かっていたら、ガバナー・ノミネーを遠くアメリカまで集めて研修をする必要は無いのです。「ロータリーとは何か」ということを、会長になられる前に基本的な問題として考えてみると言うことが、大事だろうと思っております。

諸々の協議会でロータリーの原理を学び、実践を学び、そしてロータリーの心を学ぶことによって、リーダーとしての不動の心が出来ると思っております。

2・は、どのクラブでも同じではないということでございます。各クラブとも今日までの生き方、考え方、会員の構成総て違います。ですから他のクラブの状態を見て参考にすることは結構ですが、やはりそれぞれのクラブは伝統・歴史・構成する会員の姿が皆異なりますので、自分のクラブを認識して、それに見合った指導をすることが大事でございます。

3・には、皆さんの年度には、何を目標にして考えるのかということ、今のうちに決めておかれることが大事です。目標なしではクラブの会員諸君も、どちらに向かって進んで良いのか分かりません。親睦、奉仕活動、拡大等、色々あるかと存じます。ご就任までに充分考えておかれたらと思っております。

4・には、クラブを構成している人々の中で、自分がどんな存在であるかということを知っておく必要があります。自分は会員の中で年齢的に若い方か年配の方か、他の会員に比べて職業や社会的地位が、安定しているかどうか、若し派閥などがある場合は他の人から見て、自分がどんな立場にいるのかということ、腹の中で心得ておくことが大事でございます。

そこで、どんな型の会長になるかと言うことなんですが、指導者としての形には三通り考えられます。

イ・「委任型の指導者」。

クラブには、理事会・委員会がございます。活動の大半はこれらの機関が担当しておりますが、それらの議長は会長であります。

これらの人に総て委任する、これが委任型で

あります。自分の職務権限をクラブの皆様委任している会長は、余り目立つ様な事は無いかもしれませんが、仕事では立派な成績を上げることが出来るのではないかと思います。クラブは、横の関係で結ばれたチームでありまして、そのチームで動いていると言うことになるならば、余り細かいことに口を入れずにいた方が、クラブが円滑に行くという考え方が、この委任型の指導者であります。

#### ロ・「調停方の指導者」

譬えロータリーの中の集まりであっても人間同士の集まりですから、時にはストレスや緊張がクラブ内に起きまして、対立を生むような場合もあります。こんなときに進んで調停を買って出る会長は、クラブの平和の為に大きな力になる。紛争を解決してクラブ内の親睦と融和を取り戻そうという会長さんは、その実現を見ずして任期満了と言うことがあるかも知れませんが、しかしその会長さんは、後任の会長の為に新しい道を切り開いたこととなります。又拡大等で問題が起こった時にも、地区とクラブの連携も再強化することが出来るわけであり

#### ハ・「補完型の指導者」

会長の1カ年という任務は、利点のある反面、欠陥もございまして、その一番大きなものは継続性を欠くということでございます。

前任者の行ったことを基にこれを生かして、足りない点を補っていくことを考える会長さんは、又後任者にも更に強力にしたクラブを引き継ぐことが出来るのであります。ですから新しい会長になったから、ここで新しい構想で進めよう。これも結構ですが、しかし、クラブ会長は変わりますが、クラブは永遠の生命を保っております。前任者のやったことをひっくり返してしまう。全然そこで立ち消えになってしまう事では、クラブの一貫性は望めません。従って前任の会長のやられたことの中で、これは良いと思われまます事がありますれば、これを引き継いで行くことが必要になって参ります。或る年度に一つのプロジェクトを始めて、それが出来上がらぬうちに又新しいプロジェクトを発足させて、前のプロジェクトを犠牲にしてしまう。こういうことがありますと、クラブの中の行動力と熱意の大きな損失を来すことになり

ます。前年度に始めたプロジェクトが良いもので、未だ完成しないものがあるならば、これを引き継いで更に発展させて行くと言うのが、この足らざる所を補う「補完型指導者」であります。

只今申し上げましたように、クラブの会長としては、委任型の指導者になるのか、調停型・補完型の指導者になれるのかは、皆さんそれぞれお考えになられることでして、何も此の中の一つで無ければならないというものではございません。一つでも又組み合わせた形でも結構です。各々ご自身でご判断戴きたいと存じます。

こうして私がお話申し上げております事柄は、皆先輩ガバナーから教えて戴いた事ばかりでございまして、それに多少私なりに補足したものです。以前当地区は第349地区と申しまして、埼玉と合同の地区でした。処が埼玉の人口が飛躍的に増加しまして、ロータリー・クラブの数も増えたので、1972年の藤城ガバナーの時に二地区に分かれました。当時のガバナーは優秀な方が多く、印象に残る敬愛する先輩ガバナーには「青山幸高」と言う方がおられました。美濃国、今の岐阜県郡上八幡に存在しておりました戦国末期の名家のお殿様の後裔で、陸軍士官学校卒業の後、終戦で東大に再入学し、ご卒業後競馬の馬の運送会社の社長をお勤めでした。私が会長エレクトの時のリーダーで、本日のお話の骨子は、そのときメモしておいたものでございます。几帳面な厳しい方で、その後、ロータリー財団の委員会でご懇篤なご指導を戴きましたが、20年後、佐川ガバナー年度に亡くなられました。偉大なロータリアンでした。

今一人は小原美紀ガバナー、私が分区代理（ガバナー補佐）を務めさせて戴きました年度のガバナーで、銚子クラブに所属する弁護士さんでした。

ガバナーにノミネートされてからの1年間は、週に二度、銚子から東京・芝公園の「ロータリー文庫」に通い詰めて、日本の歴代のガバナー月信、初代が米山梅吉、二代井坂孝、三代村田省蔵、四代朝吹常吉、五代佐藤昌介、六代里見純吉と続くのですが、それらの方々の諸文献に全部目を通し、ロータリーの本質を体得されてガバナー年度を迎えたという、ものすごい勉強

家でした。

リーダーというものはこのくらい努力しなければいけないのですね。因みに私をガバナーに推挙くださった方はこの小原氏で、お話を伺いにご自宅に参上しますと、帰りに列車で使うようにと、ビール一缶と枝豆の包みを持たせて下さると言う、細かい心配りのある方でした。土屋ガバナー年度に黄泉へと旅立たれました。

本日も参加の方々の中から、きっと何年かの後に、ガバナーをお努め戴く方が必ず出ると存じます。そういうことで、心してお話致さなければと存じております。

次に具体的な点について申し上げます。ロータリー・クラブは何をする団体なのか。手続要覧ですがお立場、これからは興味を持たれて御覧戴くほうが良からうかと存じます。大事なのは「手続要覧」の黄色の方でございまして、その他の処は其の都度ご覧になれば宜しいのですが、唯、英米法に則ったもの、例えばロバート式議事規則を基にした会議体の運営等、原理を知らないと大変難解なものでございます。クラブ運営上最も参考になるのが、1923年セントルイス大会で決議された「決議第34号」でございまして。これを充分にお読み戴けば、事務手続きを除いて他に参考になる大したものはないと存じます。2010年版手続要覧の114～116ページに記載がございまして、1～5までが総論で、6が各論となっております。大略を申し述べますと、

第1は、奉仕の哲学

第2は、奉仕の実践をする会員の団体がクラブであること。

第3は、国際ロータリーの存在目的。

第4が、時代に適応する為に必要な事項として、クラブの団体行動の在り方。

第5が、クラブの社会奉仕活動はクラブが自主的に選ぶことについて、絶対的な権利を持つ。そして、国際ロータリーはクラブの社会奉仕活動を命じたり禁止したりすることは絶対にしてはならないこと。

第6に、a～gの7項目のクラブの社会奉仕活動は、実践課題であるとして、クラブの団体奉仕のやり方を示しております。

此の中で特に大事なものは、114ページの中ほ

ど2) 本来ロータリー・クラブ・・・と始まり、ロータリー・クラブの機能が記されております。ロータリー・クラブは4つの機能を持つ社交団体であります。

第1に、ロータリーの哲学をロータリアンに親睦活動を通じて教え、団体に学ぶこと。

第2に、その哲学を、地域に、総ての職業人に宣言する。

「職業倫理訓」は1980年の規定審議会で、国際ロータリー細則第16条から削除されましたが、国際ロータリーレベルで議論するなよ、クラブ単位で管理するように、と言うことでありまして、「職業倫理訓」を地域の総ての職業人に対して提唱しなければなりません。

「全分野の職業人を対象とするロータリー倫理訓」、これは1915年のサンフランシスコで開かれた国際大会で議決されたものでアイオワ州のスー・シティ・ロータリー・クラブが、2年の歳月をかけて起草したものであります。ロータリーの職業観の宣言であると同時に、資本主義社会の自由競争の中で、ロータリーの奉仕哲学の、職業的生活への適用を記したものであります。

1922年国際ロータリーになって、旧国際ロータリー細則第16条に「道徳律」の規定を設けたのです。よってこれは、各クラブに対する拘束力を持つに至った。

処が第6条に「完全なサービスを尽くして企業経営を行え。もし疑念の生ずる場合は、当該責務上妥当な範囲を超えてまでも（損をしてでも）、サービスを行うべきこと」と言う項目がありまして、これは表現が崇高すぎる。

又第11条に、「総ての人にしてもらいたいと欲することを人に対しても行えと言うGolden Rule 黄金律の普遍性を信じ」と言うキリスト教の文言がございまして、各々自治権を持つ各クラブ間で意見が合わず、これをいちいち国際大会で問題にされるのは迷惑だということで、1980年の規定審議会で削除されたわけです。つまり道徳律を、拘束力のある「国際大会決議」としてクラブに押し付けることはしない。各クラブで自由に「職業倫理綱領」をおつくりなさいと言うことになったのです。

あの素晴らしいものは、なかなかできません。

実質的内容のもつ価値観は否定されたわけでは御座いませんから、各クラブが職業奉仕の実践を推進させるのに、此のくらい適切なものは無いと思います。因みに蛇足ですが決議 34 号は、1923 年のセントルイス大会で決議されたもので、これは真面目にクラブを拘束するものがあります。

第 3 に、ロータリアンはクラブを離れた場所で、ロータリーの哲学を世の為人の為に、千差万別な社会状況のなかで実践して戴く。ロータリーの奉仕の理想、奉仕の心を地域社会で実践してもらおう。

第 4 に、クラブは任意の事例を捕らえて会員の教育作業、地域の人々の公德心の育成のために、クラブの財源の許す範囲内で、奉仕の実践プログラムを企画立案する。

ロータリー・クラブは、この 4 つの機能しか持たないんです。

ロータリーの理論を教える。地域社会で「職業倫理訓」を宣言する。

理論を習得したロータリアンは、実践すること。クラブは補足的に会員の教育、地域の教育の為の事業計画を企画立案する。これだけでございます。

そこで、ロータリーを理解するには、

第一は、ロータリーの理想を理解する。

第二は、運動体としてのロータリーを管理する管理論を習得する、此の二点が必要でございます。

で会長として必要な管理に就いて申し上げますと、管理とは制度の核心を守ることでありまして、全て組織体の中では、管理上、審議系列、執行系列、審査系列の三つの系列に分かれます。会社で申せば、役員会は審議系列に属し、株主総会は審査系列となります。

ロータリーでは審議系列、即ち原理原則の定律を行う機関、これは理事会であります。

執行系列は、クラブ内部の事を総て取り仕切るところの幹事、クラブ幹事が執行系列に属します。

審議系列は、総会又は臨時総会的例会であります。組織の中で紛争が生じた場合に、その紛争を解決する機関でありまして、一旦決められたものを、修正、変更、取り消す場合は「3 分

の 2」の多数決が必要であります。

ロータリー運動の中で主体はクラブでありまして、国際ロータリーではございません。各クラブは「理事会」を中心に、自治権が与えられております。

標準クラブ定款第 10 条理事及び役員、第 1 節「本クラブの管理主体は、細則の定めるところによって構成される理事会とする」（手続要覧 P・252）で、幹事は、執行権限を持っております。理事会は審議権がございます。

この両方に二股架けて居るのが会長職でございます。あらゆる委員会の職権上の委員（262 頁クラブ細則第 4 条第 1 節）でありますから、どの委員会に出て戴いても良いし、委員会活動を手伝って戴いても良い。高い指導性が望まれるのでございます。そういう訳で会長がどの程度ロータリーを思想的に認識しているか否によって、そのクラブの奉仕の質が左右されることとなります。

会長は、そのクラブの存立根拠でなければならぬ。同時にロータリー思想の、そして制度の本質を邁進する専門家でなくてはなりません。

即ち会長は文化概念を担当し、幹事は諸々の世俗の概念を担当する。こうして二頭立馬車によって、クラブは管理運営されてゆくのでありまして、此のお二人が、クラブの代表者でございます。

此のようにしてクラブ内部では、クラブの事務管理は幹事が、原則の決定については理事会、ロータリーの原理論の提唱は会長が行います。現場の管理は S・A・A が行うということで、各々の権限、機能の配分がございまして。幹事は決して会長の女房役ではありません。時には会長より、クラブの活動が円滑にゆくための執行権を持った、最高の役職であります。

各種の委員会は非決議機関で諮問機関であります。理事会は決議機関でございます。ここで決められたことは、会員を拘束致します。因みに決議とは、団体意思の事を法律上「決議」と申します。

これには

- 1) 案件の事前通告、5～10 日前に事前に通告すること。
- 2) 定足数が必要で、理事会では過半数の賛成

によって議決されます。

3) 理事会で決めた団体意思をひっくり返すには、4分の3の定足数が必要となります。

諮問とは、一定の機関に対して意見を尋ね求めることで、その機関（委員会）の決定した事に対して諮問した諮問権者は、その決定に必ずしも拘束されないものを、諮問と申します。

で自治団体を構成する要素は三つございまして

第1は、政策決定の自治；グループ活動をする訳ですから、目標を定めて執行する。国で言えば国会に相当致します。

第2は、執行の自治；決められた準則は執行されなければならない。内閣に相当致します。

第3に、紛争解決の自治；裁判所、司法権に相当致します。

これらを、各々別個な独立機関として存続させるよう立法・司法・行政の三種類に分け、相互間の抑制と均衡によって自由を確保しようというのが「三権分立」でございますが、ロータリーにも此の原理に基いて、組織管理を行うようになっております。

此の中から1) 奉仕哲学の解明、2) ロータリーの拡大、此の2つをクラブの完全自治権から一部取り出して、これを行行使する団体として、1912年「国際ロータリー連合会」が出来まして、1913年には「情報の媒介」を行うことも付け加えられて、1922年「国際ロータリー」が創設されました。

即ち国際ロータリーとは、1) 奉仕哲学の解明、2) ロータリーの拡大、3) 情報媒介の三つの事項について、権限の移譲を受けた制限的自治団体であります。同時に各クラブと国際ロータリー理事会とを結ぶガバナー制が出来まして、相互は直結方式で結ばれているのでございます。

で、ガバナーは国際ロータリーの役員として、各クラブに対して、直接監督権を行使する。即ち、奉仕哲学を解明し、指導と助言を行う。ロータリーの拡大を地区全体で行う。これがガバナーの職務であります。この助言の内容は「奉仕哲学の解明」と「綱領の推進」でありまして、各クラブに対して「ロータリーの理念」を提唱する義務があります。ロータリーの拡大は、国際ロータリーの専権事項であります。

又ガバナーの直接監督権の内容は

1・一業五会員制、又職業分類の定率10%ルールが守られているか。

2・各クラブが毎週、定期的に例会を開催しているか否かであります。

これに違反したクラブは、懲戒権を発動してでも、国際ロータリーの秩序を維持する。

これ以外のことは、各クラブで、どうぞご自由にやって下さいと言うことでもあります。

そこで頭に入れておかなければならない事は、国際ロータリーからクラブへ、ガバナーを通じて色んな事を言って来る。此の時、会長・幹事さんは、今日言って来たことは国際ロータリーの直接監督権に属する事柄なのか、それとも指導助言事項なのかとすることを白黒判断が付けられるようにしておかなければならないと思います。とにかく「一業五会員制の原理的適用、毎週例会の開催と、そして拡大」、此の三つ以外は何を言って来ようと、それは指導助言事項でございまして、クラブを拘束する権限はありませんし、とりわけ奉仕の実践については、各クラブの絶対的自治権と言うものは、「決議 23-34号」によって示されているもので、特にこの辺は注意されるべき所であります。ロータリーのルールを学び、ロータリーの心を知る。これがロータリアンとなる第一歩であります。（手続要覧 114 ページ社会奉仕に関する決議 23-34）

因みに地区とは、効果が上がっているかどうかをガバナーが監査する為に置かれたもので、事業主体ではございません。

ここで国際ロータリーのプロジェクト、ポリオプラス計画はどうなんでしょう。

決議 34号の4)の後段で、ロータリーの事業はそれは補足的な教育事業だから、単年度で終わらなければならない（会計年度内完了）。

又5)に国際ロータリーは、各クラブの奉仕の実践に関して、命令する権限を有しないとあります。従ってポリオプラスは、決議 34号に違反していると批判する方が多いのです。

但し3)のC項に「国際ロータリーは、グローバルな情報媒介機能を持つ」とありますので、このグローバルな情報の中から問題点を指摘し、各クラブに流すことが出来るとありますので、これを命令と受け取らないで、RIがグローバルなニードについて、「ポリオ撲滅」があり

ますよ、という情報媒介機能の一つと受け止め、謙虚に学ぶ姿勢を持つべきと思います。

最後にクラブの管理運営の考え方に付いて申し上げますと、ロータリーは創立 100 年を経まして、1905 年の創立以来今日まで、その間のロータリーの歴史を振り返って見ますと、ロータリーもかなり変質をしております。殊に 21 世紀に入ってからには激変しております。100 年を顧みまして、ロータリーの本来あるべき姿は一体何か、つまりロータリーの核にあるものは何かという原理の姿を眺めますと、「ロータリーは親睦のエネルギーを世の為、人の為に放流するもの」、即ち「親睦のエネルギーを、奉仕の為に放流するもの」である。此のように言われております。ロータリーには「親睦」と「奉仕」という二つの基本概念がありまして、「親睦無くして奉仕なし」とも言われておりますように、親睦と奉仕と言うものは密接に絡み合いながら、ロータリーは 1915 年にサンフランシスコの国際大会におきまして、「全分野の職業人を対象とするロータリー倫理訓」別名「ロータリー道徳律」を採択致しました。ロータリアンの個人倫理と言うものを確立した訳であります。

それ以降ロータリーは原理運動として隆々と栄えて来たわけであります。

処が昨今、このロータリアン個人倫理に陰りが見えて参りました。

最近の国際ロータリーは、理論提唱の面を見ましても、理論を提唱することよりは、むしろ「弱者救済」、所謂「人道主義的」な奉仕活動とか、ロータリー財団・ロータリーの拡大、会員増強、こういう点に重点が置かれているかのように見受けられるのでございます。確かにこれらの問題も、ロータリーとしては避けて通ることはできないのですから、これを実践するのは結構なんです。がしかし、ロータリーの組織原理の面を見ますと、ロータリーが 21 世紀に入った 2001 年の規定審議会に於きまして、一つの職種から一人だけ会員を選ぶという「一業一会員制の原則」が廃止になりまして、ロータリーの組織の「核」が崩壊致しました。実は「一業一会員制の原則と、規則的例会出席の原理」、この二つの原則は、ロータリーの「核」にある原則なんであります。1905 年 2 月 23 日

に、ポール・ハリスが三人の友達に語り掛けまして、一つの職種から一人だけ会員を選ぶと言う「一業一会員制の原則」を決めたのです。

其の訳は、資本経済社会は、自由競争社会であります。従って同業者というのは、お互いに心を開いて親しくなるということが出来ません。「俺の潰れる前に、相手が潰れて欲しいな」と言う、訳の分からない感情の虜になる。こういう状態ではクラブの中で、到底仲良くすることは出来ないわけで、クラブの中の親睦と言うものはあり得なくなるわけです。

そこでポール・ハリスは、クラブの親睦を守るために同業者を排除して「一業一会員制の原則」を採用しました。親睦を護るために、ハリス自身が打ち立てた原則でありまして、この原則がロータリーと言う組織の原点なのであります。「一業一会員制の原則・例会出席」はロータリーの「核」にある原則であります。

処が 2001 年の規定審議会におきまして、国際ロータリーの理事会の提案になる 01-148 号議案により、「一業一会員制」が廃止され、「一業多会員制」に移行致しました。こうなるとクラブの中に当然、同業者が沢山入ってくる。その結果、何物にも替え難い、金銭では購えない大切な「クラブの親睦」と言うものが失われてしまうのです。これでは「親睦無くして奉仕なし」と言われる、その親睦が崩壊致しまして、ロータリーの奉仕はあり得ないと言う形になります。

まさにこの提案は、如何なものかと思うわけで、現に「一業一会員制の原則」の廃止によりまして、ロータリーに幻滅の悲哀を感じて、ロータリーを去って行く人が沢山いるわけです。特にロータリーに熱心な方程、やめて行くようで、これが「会員減少」の大きな原因であることは明らかであります。

或る先人のロータリアンが申しました。「ロータリーにあつては奉仕家は、まず奉仕のギアを廻してはならぬ。第一に親睦のギアを廻し、その動力を奉仕のギアに伝えなければならぬ」と申しましたが、蓋し、名言と申すほかないと存じます。

社交クラブと言うものは、一方では個人の自由独立を求めながら、それでいて、人と人との間柄においてのみ、己を確認出来るという人間どもの心の拠り所であります。従ってクラブと

言うものは、何よりも友愛・親睦を大事にします。ロータリーと言うクラブは、職業人が集まって親睦のオアシスで心を洗い、奉仕の心を育てる。そしてより良い人生の生き方を学ぶ処であります。

“今や我々は人類全体の為に奉仕を”と言う高邁な理想を掲げるだけで、果たしてクラブに会員は集まってくるのでしょうか。クラブと言うものはもっと生臭い、日常生活の中のオアシスであったはず、血の通わない心の拠り所を失ったクラブは、間違いなく衰退します。

あるスイスの片田舎で、おばあさんがザルの中に羊の毛を入れまして、きれいな谷の水に打たせておりました。

そこへ牧師さんが通りかかりました。「おばあさん、あんたは日曜日毎に教会に来て私の説教を聞いてごさる。定めしええ話を沢山覚えたろう」と聞きました。おばあさんは「処が牧師さん、もう覚えるそばから皆忘れてしまいます」。牧師さんは「せっかく覚えてほしい話を忘れてしまうと困るじゃないか」。おばあさんは「でも牧師さん。此の羊の毛を見て下さい。ザルの目からは水がどんどん逃げていきます。でもご覧ください。羊の毛はこんなに綺麗になっております」こう返事をしたと言うお話でございます。

ロータリーの理想は高く、理念は崇高なものでございます。我々は何時色々教えられますけれど、聞かされるそばから、皆忘れてしております。しかし、たとえ水が流れてしまっても、必要なことは、このロータリーと言う水の中に、自らの身体を侍ることであって、常に、その中に自分が浸ることでもあります。ロータリーそのものに、なり切ることであるとするならば、やがて自分の体も清らかになる。それがやがて周囲を明るくし、ひいては世界の平和に通ずる道ではなかろうかと思うのでございます。

会長となられる皆様におかれましては常に今社会が、ロータリーに求めて居るものは何か。そして同時に、会員がロータリーに求めて居るものは一体何か、と言う両面に思いを巡らしながら、形式張らない、情緒あふれる心からなる親睦が、ロータリーを育ててゆくうえに欠くこ

との出来ない要素であると言う認識をもって、運営されますようお願い申しあげまして、話を終わらせて戴きます。

ご清聴有難う御座いました。

## 6) 得居 仁GE要望・連絡事項

1 会長エレクトとクラブに対する要望やお願い事項は、PETS と本日のご挨拶で申し上げておりますので、繰り返しません。それぞれの配布冊子で再度ご確認くださいと存じます。

地区協部会別出席登録に研修委員会として登録のあったクラブが84クラブ中21クラブでした。研修委員会を設置することなく、クラブ会員研修を担当する委員会が指定されているクラブが他に多数あるものと考えておりますが、会員研修について未決定のクラブがあるようでしたら、早急にお決めくださいませ、新年度早々からのクラブ会員研修の実施を是非ともお願いいたします。

2 (1) 新年度から地区HPを改訂いたします。

使い易さ、見易さを目指しますが、クラブサイドからのご意見、ご批判をご遠慮なくG事務所にお寄せくださいますようお願いいたします。

地区内会員皆様全員のHPであるとお考え下さいまして、良いお知恵があればどうぞお貸しください。

(2) ウェブサイトを通じて、クラブ情報の提供と地区協参加登録をお願いしました。

クラブサイドからの反応、レスポンスが、GE事務所が想像していたよりも迅速、かつ的確であったと聞いております。

新年度に入りますとクラブ奉仕委員会がクラブにアンケートを実施すると聞いております。

これらを含めて、ウェブサイトを通じてのG事務所とクラブの連絡が1年間を通じて円滑に進めば、地区のIT化実現の第1歩に大きく踏み出すことが出来ます。

新年度、最低限何としてもこれを実現したいと強く希望していますので、どうかご協力をお願いいたします。



3 公式訪問について 冊子 89 頁以下をご参照ください

(1) 1 日 1 クラブのみを公式訪問いたします。時間配分の原則を 89 頁に記載してありますが、ガバナー補佐と協議して決めてください。

服装は、7 月～9 月の間はクールビズで訪問いたします。

公式訪問終了後の懇親会は、84 クラブを 1 日 1 クラブずつ公式訪問するという過酷なスケジュールから、ご辞退申し上げます。

会員の皆様と、充実した、ロータリーについての語り合い、意見交換することを強く希望していますので、夜例会の場合の交通事情を考慮して頂くことはお願いいたしますが、クラブ協議会の時間を延長して頂いて結構です。ガバナー補佐とご相談して下さい。

公式訪問の際のお土産も固くご辞退、お断り申し上げますので、どうぞよろしくお願いたします。

(2) ガバナー公式訪問の 2 週間前の例会に、ガバナー補佐にガバナー補佐公式訪問をお願いします。

ここでガバナー補佐が得られた情報を基礎資料に使用してガバナー公式訪問を行います。

ガバナー補佐の公式訪問報告書は書式を作成してガバナー補佐にお送りします。この報告書に関しましてはもう少しお時間をお貸ください。

(3) 原則として、ガバナー補佐公式訪問 1 週間前までに、クラブの定款、細則、予算、決算の掲載されたクラブ活動計画書を作成して、ガバナー補佐、G 事務所、GE 事務所、GN 決定後は GN へお送りください。

4 (1) ガバナー補佐、地区役員が、その任務遂行のためにクラブを訪問する際の MU フィーの支払いを免除して下さい。

(2) ガバナー補佐、地区役員は、その際にニコニコ BOX への寄付をいたしませんこともご了承ください。

(3) その際に、名目を問わず交通費等の支払いとお土産等一切のお心遣いは不要として下さい。

(4) 尚、ここで任務の遂行と申しましたのは、ガバナー補佐公式訪問、ガバナー補佐クラ

ブ訪問、地区役員の役員としての例会出席、卓話、R 情報研究会等の研修会出席等を意味しております。周年行事への参加はこの限りではありません。

疑問が出てきたときには、早目にガバナー補佐を通じて G 事務所にお問い合わせ下さい

## 7) 質疑応答

Q 1 : 上総 RC 会長 エレクト 真田 雄司

研修委員会のことについてお尋ねしたいと思います。私たちのクラブでは昔からロータリー情報委員会という研修の内容も含めるような性質の委員会があったんですけども、このたび GE の方からそういうお話があったんですが、GE のお考えになる研修委員会が研修する対象、私たちのクラブではもう 10 年経ってしまして、ほとんど会長経験者が多くてどなたにどういったことを教えればよいのかマニュアルのようなものがあれば教えて頂きたいと思います。

A 1 : 得居 GE

私はロータリーの研修は学校の授業といったようなものとは違うんだと思うわけです。さきほど私が、公式訪問に行きまして皆さんとロータリーについて語り合いたい、こう申し上げたわけなんですけど、私は私なりのロータリーについての考え方を持っていますし、またクラブの会員の皆さんもそれぞれ皆さんのお考えがあるだろうと思います。これはいつでしたかお話ししたと思いますが算数のようにどれが正しい、どれが間違いと決められるものではないだろうと思います。クラブ研修について何をやればいいのかという、ひとつにはロータリー情報を通じての研修ということも大いにありうると思うんですね。ただしこの情報の意味というのがいささか誤解されている、新たなものというのが情報だと考えられている向きもあるように感じております。このロータリー情報というのはロータリーの理論あるいは理念といったようなものについて、ご存知の方がご自分にあるものを伝えるというのがそもそものロータリー情報委員会だろうと思うわけですが、では同じような方が 10 人おられる場合にお互いに同じこと教えあってもしょうがないじゃないかと。それはおっしゃるとおりですので、そこで

例えば職業奉仕について、10人が10人との考え方が一致するということはないのではないか。私が持っている職業奉仕像について、当然違うのではないか、またある部分では一致しているようだとか、そのような切り口からそれぞれの職業奉仕というもののあり方について考える、こういうものも研修だろうと考えておりますがいかがでしょうか。

(崎山PG)

クラブ研修委員をぜひ1人任命してくださいと言っていますのは、要するに基本的なベーシックなことを教える人がいないとみんなわかんなくなっちゃうよということ。ですからさきほどパワーポイントで教えていたのは、一番大原則的にはロータリーの歴史、ここから始まって、いま何があるか。この大原則を見据えている人がいればいいこれがロータリー情報だと。

一番適格なのは会長ですよ。パスト会長がやるべきことはSAAなんです。SAAというのは、鬼軍曹とも言われるように、例会を仕切る人です。そういう方が定期的に、ロータリーの歴史なりなんなりを繰り返し教えて頂く、考え方を強制するのではないですよ。基本的な過去の歴史からはじまって今に至るものをレクチャーするというのをクラブ研修委員には期待してほしい。それと我々地区研修委員が連動することで一本の道が通ると思っています。そういう方向性でぜひクラブ研修委員会の中で一人そういう方が居れば、非常にすっきりした形のロータリーというものができると思います。

(質問者)

ありがとうございます。私ども第4分区には幸いにも秋山ガバナー補佐という優秀なガバナー補佐がいらっしゃるということで、またわからないことは秋山ガバナー補佐を通じて教えて頂きたいと思っております。ありがとうございました。

Q2：大多喜RC 会長エレクト 諏訪 武士

さきほど山田Gへの活動計画書のご送付についてのお話がありましたが、ここ数年毎年若干何名かのPGの方から個別に活動計画書をくれよというご案内を頂戴しております。併せます

と結構な数になります。よって、このへんをガバナー事務所で集計いただき、必要な部数をガバナー事務所でお配りいただくか、閲覧いただくか、あるいは必要箇所についてコピーを回していただくか、そのような手続きを含めて頂かないと、延々と毎年増えていくガバナーが1冊くれよと言われてますと果たしてそのうち会員を数倍するような冊数が必要になってしまうというふうに思うのですが、その点を考慮して頂けませんでしょうか。

A2：得居GE

私も過去のPGが活動計画書を送ってもらっているということは初耳でございまして、それをガバナー事務所がお配りするということになりましても、私は今年エレクトの時にいただきましたらダンボールいっぱいになります。これを、全84クラブのものを送るとするのは大変な費用になってしまいますので、その辺は検討課題ということでお約束いたします。ご趣旨はよくわかりました。

Q3：勝浦RC 会長エレクト 古川 範男

全般に会議を通して、あるいは日頃のロータリーの活動を通じて思うのですが、ロータリーの綱領とか皆さんのおっしゃることは素晴らしいですね。しかし私、新聞記者とかテレビのプロデューサーを経験したことから世間の常識とか動向には敏感な方でして、そういうところから感じるのは、会員数の減少にも現れているようにロータリーのプレゼンスはどんどん落ちていくとを感じるわけです。どうしてこんなに素晴らしいことを言い、やっている組織がプレゼンスが小さくなっていくのか。私は2つあると思うんです。

1つにはロータリーはシカゴで始まりましたからアメリカ生まれ、アメリカ育ちで、その応用、発展していると思うんですが日本というのは壮大な実験場という風に言えると思うんです。海外からいろいろなものを輸入して独特の文化文明を作ってきたわけです。アメリカもそうですね。いろんな雑多なものを輸入して独特のものを作ってきた、この根底に何があるかということ、ロータリーの精神にもあると思いますがやはり日本人の美意識だと思う。いろんな

ものを良くして行くという。日本人がもっている世界に誇れる美意識というものをもち世界に誇れるように具現化していくことはできないであろうか、ということがひとつです。

それからもうひとつ、日頃感じるのは政治との距離です。例えば、いま失われた 20 年と言われているのですがこの最大の原因は政治にあると思っています。この 20 年間何を失ったのか、しかし失ったというよりも確かな政治家を育ててこなかった。いい加減な選挙を我々がしてきたおかげでとんでもないことになっている。経済人や我々が一生懸命苦勞して作り上げてきたものを一瞬で葬り去るような政治のあり方があるわけですね。こういう状況で「政治はタブーだよ」とお茶を濁していいのかという気がする。これは、距離の置き方をきちんとした上で、どこを応援するかそういう次元の低い話ではなく同じ職業奉仕として、政治とはこうあるべきだと、あるいは日本の政治はこうあって欲しいという健全な要求などもっと声を出していいのではないかと思う。そうすれば、世間からもロータリーはそういうことを考えているのかと、こういう団体だとわかってもらえる。

大阪では橋下君が多くのルサンチマン、持たない人、弱い人を掬い取ろうとしている。なぜロータリーがそういうルサンチマンを吸収できないのか、政治との関わり方に問題があると思う。これは地区で言うべきことかどうかわかりませんが、一人ひとりのロータリアンが真剣に取り組む必要があると思う。

また、全然別の話になりますがどこかの町がフェイスブックを活用して観光に生かしている例がある。たとえばロータリーもフェイスブックを利用して活動範囲を広げたり、プレゼンスが増えることがあるかもしれないと思う。勝浦 RC ではそういう方向性も考えております。質問というより意見を述べさせて頂きました。

### A 3 : 崎山 P G

情報がリークしやすいということを念頭に置いたほうがいい。フェイスブックについては危険がある。IT を使い慣れた方ならいいが、我々の世代ではパソコンも満足に使えないと

いう方が多い。いやだという方がいる。こういう場合、フェイスブックは向かない。不特定多数の交流は若い人たちはいいが、我々の場合特につけこまれることがある。ああいうところから情報が漏れていきます。うかつにはできないという風に思っています。

### (得居 G E)

最初の問題は、日本のロータリーと RI にある食い違い、乖離があるという問題に結びつくのではないかと思うんですが、これは実際問題、今年度 RI 理事になりました松宮さんもそのようにはっきりおっしゃっている。ただし私は RI の役員になっていますが、その中でどういう風にもう問題について取り組むかはこういう席で申し上げるのはいささかどうかなと思うところがあります。ロータリーの危機が叫ばれています。日本のロータリアンが今まで守ってきたもの、本質を守っていけば、これ（ロータリーの危機）は現象の変更・変化に過ぎないと思っています。そのような期待を個人的には持っている。

二つ目の政治の問題。ロータリーは政治介入をしてはいけない、政治的な声明を出してはいけない、政治の議論をしてはいけないというようなことが語られる。こういうことを聞いていましたが、私はポール・ハリスの「ディス・ロータリアン・エイジ」を読みましたところ政治と宗教を議論してはいけないのは「議論がまとまりがつかない、平行線となるような、議論が白熱してどうにもならず、喧嘩になるような親睦が壊れるような議論をすべきではない」ということなので、政治のことを議論してはいけないと言っているわけではないと、本を読んで感じました。私自身、新世代のことを含めてロータリーが政治に口を出さなければいけないのではないかと個人的な思いを持っています。

### 8) 鈴木雅博 P G ・研修リーダー総評

大変お疲れ様でした。齋藤先生の話聞いていまして、本当に難しい。リーダーというのは私は 2 つのリーダーがあると思う。デゴイチみたいに大きな力を持ってがんがんクラブを引っ張っていく、それから今の新幹線のようにうまくコントロールしながらどんどん引っ張っ

て行く、皆さんの考えの中でどちらがより良いかと理解して考えて頂きたい。ロータリーというのは今聞いたことをザルみたいになくなってしまふ、私も国際ロータリーで質問したんです。こんなにいっぱいいろいろ言われても忘れてしまふと。大丈夫ですよ、あなたの頭をロータリーの水の中に一度漬けてくださいと言われてました。会長になられた方はどうぞロータリーの水の中に頭を漬けていただいて、今年1年間がんばって頂きたいとおもいます。

(得居GE)

それでは皆さんの一年間のご健闘をお祈りしています。閉会いたします。

## 幹事部会



パスト・ガバナー 佐川 一元  
パスト・ガバナー 大矢 惣一郎  
2012-13 年度地区幹事長 高橋 孝夫  
2013-14 年度地区幹事長 齋藤 博昭

### 1) 佐川 一元 P G 挨拶

皆さんこんにちは、クラブ幹事ご就任ご苦労様でございます。

私も入会 3 年目くらいで幹事を仰せつかりました。当初は何をやっていいかもわからずにはいましたが、その時の諸先輩から幹事は『幹事要』と教わりましたので、それをお話したいと思えます。この言葉は肝心要を引用した言葉でありまして、要と言うのは扇子の根元の束ねている部分の留め金の事を言うのですが、ここが駄目になるとバラけてしまうという事から、クラブのまとめ役なんだと言われました。ようするに、人間関係を良くしてクラブのまとまりを良くする。そうすればクラブの奉仕活動もスムーズになる。それが幹事の肩にかかっているんだという事です。

最初は知らない事ばかりですが、人に慣れて、クラブに慣れて、ロータリーに慣れてくると、色々な事がわかってくるわけですよ。ロータリーは、これだけの大きな組織で世界的に活動してますけれども、元は人間なんです。人間の集まりなんですね。人間関係が上手くいけば全てスムーズに行く。そういうまとめ役をするのが、クラブにおける幹事の大事な仕事になるわけです。

幹事がキチッとやるとクラブがまとまってくる、奉仕活動も上手くいく。ですから、幹事の責任は非常に大きいわけです。良きクラブ運営のための頑張っていたいだきたいと思えます。ご健闘をお願い致します。

### 2) 高橋 孝夫地区幹事長「クラブ幹事の実務について」

推奨ロータリー・クラブ細則第 4 条 役員  
の任務 第 5 節幹事には  
幹事の任務として

会員の記録を整理保管  
会合における出席を記録  
クラブ、理事会及び委員会の諸会合の通知の  
発送、議事録の作成及び保管  
全会員の人頭分担金および半期報告の提出、  
比例人頭分担金を記載した半期会員報告、会  
員変更報告  
月次出席報告を含む、諸種の義務報告  
R I 公式雑誌の購読料の徴収送金  
その他通常その職務に付随する任務  
とあります。

これらの任務を遂行するために、必要な実務知識・・・一部であると思いますが・・・、ご説明いたし、クラブ運営の一助になれば幸いです。

ガバナー・エレクト事務所ではクラブ情報での提供および、地区協議会の参加登録について WEB サイトを通じてお願いいたしました。ご協力ありがとうございました。特に地区協議会につきましては、14 日の締め切りで、皆様にお配りした名札を発注する 1050 名のデータを 4 日で作成する事ができました。今後、地区への月次手続き、ならびにセミナー、地区ゴルフ大会、地区大会の登録につきましても、WEB サイトを通じて行いますので、宜しく願いいたします。それでは本日お配りした地区協議会冊子に基づいてご説明いたします。

### 1. 「クラブ会長・幹事へのお願い」の説明

P 8 6～8 8

以上を表にしたものが、

「報告・提出一覧」 P 1 1 0～P 1 1 1

「送金一覧」 P 1 1 2～1 1 3

「報告・送金カレンダー」 P 1 1 1

でございますので、ご覧いただき活用願います。

なお、活動計画書を作成するための地区情報は、5月15日には地区HPに掲載する予定でありますのでご活用願います。

### 2. 公式訪問に関する説明 P 8 9～P 9 1

「ガバナー公式訪問について」、会長部会で得居仁GEが会長エレクトの皆様に説明しておりますが、幹事の皆様もご一読願います。

### 3. 地区予算に関する説明 P 9 5～9 7

ただ今、会長部会で次年度地区予算が承認されたとの連絡がありました。先ほどご説明した期日までに地区資金をご送金いただけますよう、重ねてお願いいたします。

金額は昨年と同じ上前期12,625円、下期12,640円でございます。

地区予算の奉仕活動資金勘定内訳に各地区委員会のセミナー費用を計上させていただき、クラブからは徴収しない事しておりますので、クラブ予算を組む上考慮してください。ただし、懇親会は別ですが。

また、RI人頭分担金は昨年より上期下期とも50セント上がっておりますので、クラブ予算を組む上ご注意ください。なお、RI人頭分担金につきましては、手続き要覧 P237 RI 細則の人頭分担金の項目をご参照ください。

### 4. その他 地区協議会冊子の活用

「クラブ一覧表」の案内 P 9 8～1 0 3

「地区組織表」「組織図」 P 1 0 4～P 1 0 7

「地区役員住所録」 P 1 0 8～1 0 9

「連絡先一覧」の案内 P 1 1 5

「国際ロータリー日本事務局」の案内 P 1 1 6

「地区大会のご案内」 P 1 1 8

以上で、「クラブ幹事の実務について」お話しさせていただきました。

### 3) 質疑応答

Q 1：東金RC幹事 高橋 邦夫

ガバナー補佐を輩出するクラブでございます。

分区内での職業奉仕委員会やロータリー情報委員会のセミナー等の開催に際し、登録料の徴収に関して地区の方向性をお聞きしたいのですが。

A 1：高橋地区幹事長

分区内で行われる各行事に関する登録料等に関する事は、職業奉仕部会の方でご説明されていると思いますので、出席された委員長あるいは会員の方にお聞きいただければと思います。

Q 2：千倉RC幹事 川名 幸雄

本日の資料の88ページ、地区大会選挙人の選出に関してですが、文言の解釈についての質問です。『25名以上のクラブは25名ごとに1名選出する事ができる』となっておりますが、25名未満の場合は選出できないという事で良いのでしょうか。

A 2：高橋幹事長

この原文は、手続要覧P230に掲載されております。

15.050. 地区大会での投票

15.050.1. 選挙人

地区内の各クラブは少なくとも1名の選挙人を選び、それを証明し、そしてこれをその地区の年次大会に送るものとする。会員数が25名以上のクラブは、25名ごとに1名、または端数が13名以上の場合、さらに1名の割合で選挙人を送る権利を有する。つまり、会員数が37名までのクラブは1名の選挙人を持つ資格を有し、会員数が38名から62名までのクラブは2名の選挙人を持つ資格を有し、会員数が63名から87名までのクラブは3名の選挙人を持つ資格を有する、というようになる。この会員数は、投票の行われる期日に先立つ、直前の半期人頭分担金支払期日における会員数に基づくものとする。ただし、RIの加盟会員としての資格が停止されているいかなるクラブも、投票に

参加する権利がないものとする。各選挙人はそのクラブの会員でなければならない。選挙人が1票を投じるためには地区大会に出席しなければならない。

冊子には下線部分のみ掲載しているのですが、ご質問のようにわかりにくいと思います。冒頭に、地区内の各クラブは少なくとも1名の選挙人を選び、とありますので25名以下のクラブでも1名の選挙人を選出する権利を有すると考えてよいと思います。

なお、地区大会事務局より送付する「地区大会選挙人の選出」に関する文書には全文を掲載するように、地区大会事務局に伝言しておきます。

#### 4) 大矢 惣一郎PG 総評

みなさん、こんにちは。

佐川PGの『扇子の要』のお話がありました。それと同様に、幹事というのは代表権を持った会社の専務であると、自ら認識してもらいたいと思います。会長は代表取締役社長、幹事は代表取締役専務ですから、いわゆる執行面では幹事が中心になって進められるという事になるかと思います。そういう気持ちを怠りますと、会長の秘書のような、雑用係のような役割になってしまう、色んな事で振り回されて運営がままならなくなってしまいますので、自分が中心になってクラブを動かしていく気持ちを認識してもらいたい。

初めて幹事をやられる方も多いと思いますが、幹事をやる事によって、ロータリーの事を理解できるようになってきます。会長には得居ガバナー・エレクトが理路整然とお話をされました。幹事の皆さんには高橋幹事長が事細かくお話をしてくれましたから、理解されてると思います。幹事が何もわからないと運営に支障が出るわけですね。会社の専務が会社の事を何も知らないようでは、専務の仕事が務まらないのと同じように、皆さんが中心的役割を担わないといけないわけです。理事会を開催するにしても、幹事が招集して、幹事が進行して行うわけです。採決がある場合は会長が行いますが、中心になるのは幹事です。クラブによって多少

違うかもしれませんが、執行するのは、会長、副会長、幹事、会計なのです。これが執行役員なのです。当然、皆さんは執行する立場にあります。五大奉仕の委員長はそれぞれの立場で理事に選出されるわけですが、それを取り仕切るのは幹事の役目であります。

得居ガバナー・エレクトが整然とした言葉で書かれていますから、手続要覧を読む事も大事ですが、本日のこの資料をよく読んでいただけたら、得居ガバナー・エレクトがどのような考えで地区を運営しようとしているのかよくわかると思いますし、クラブ幹事としてそれを把握してもらいたいと思います。

それと併せて、皆さんのクラブの良いところ、悪いところの選別をしてもらいたいですね。今の自分のクラブはこうだけど、本来はこうあるべきだという気持ちが必ずあると思います。そういう理想に向かってチャレンジして改革していく、そういう事が大切だと思います。

今日の地区協議会が終わりますと、各クラブはそれぞれに活動計画書を作るための色々な会合があると思います。その会合に幹事の皆さんは必ず出席をして、状況を見てアドバイスする事があっても良いと思います。活動計画書は、言わば会社の事業計画書と同じですから、年度始まりの7月に作りあげるのが理想的でございますので、それを自覚して対応していただきたいと思います。

やってもやらなくても同じ一年であれば、やった一年の方が良いに決まっています。幹事の皆さんがしっかりやる事で、自分も、クラブも、皆も良い一年になるのです。良い例会、良いクラブを目指して頑張ってください。代表権を持っている重要な役員なのですから、下働きをしてるようでは困ります。自覚を持って取り組んでいただきたいと思います。

一番大事なのは『心意気』ですので、自分はクラブを背負ってるんだという気持ちで頑張ってください。

## クラブ奉仕部会



パスト・ガバナー 黒田 實

パスト・ガバナー 石井 亮太郎

2012-13 年度クラブ奉仕委員会

委員長 杉山 俊明

委員 金本 元章

委員 藤崎 政弘

委員 実川 喜夫

2012-13 年度ロータリーの友委員会

地区代表委員 石井 定明

### 1) 杉山 俊明委員長挨拶

こんにちは。次年度クラブ奉仕委員長を、おおせつかりました、銚子RCの杉山と申します。一昨年、地区幹事長として皆様にお世話になりました。引き続き、皆様にご指導頂くこととなります、よろしくお願い致します。

クラブ奉仕の内容につきましては、後程、活動方針等で説明させていただきます。

今日は、各クラブのクラブ奉仕部門の皆さんが多数、お見えになっています。奉仕五部会の中で、一番参加人数が多い部会でございます。登録数が200人となっています。

クラブ奉仕部門と言いますと、先程、ガバナーエレクトより挨拶がありましたように、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕など対外的な部門が脚光を浴びますが、クラブ奉仕部門は、それらの奉仕部門の基礎となるところでございます。このクラブ奉仕部門がしっかりとしないと、各クラブの対外的な奉仕部門は本来の役目を果たす事が出来ないと思えます。是非とも皆様には、クラブ奉仕の重要性、意義をしっかりと把握して頂くことをお願いします。

1年間皆様と共にクラブ奉仕部門の運営に関わってまいりますので宜しくお願い致します。後程、細かい説明をさせていただきます。

ここで、本日、お見えの皆様をご紹介致します。

黒田PG様、石井亮太郎PG様、「ロータリーの友」委員会の委員であります、石井定明さん、地区クラブ奉仕部門は今年度4名で運営してまいります。委員の金本さん、藤崎さん、実川さん以上です。

### 2) 黒田 實PG挨拶

先日、ロータリー文庫に行きまして資料を集めてきました。RI戦略計画の中の一番は会員増強です。しかし、現在は会員が減少しています。

一番減っているのは日本で32%減です。次がアメリカで14.5%、オーストラリア4.2%となっています。

反対に、ヨーロッパの国々は増加しているところです。53%増です。

アジアの中では、韓国が26.3%増加、続いて台湾、インドとなっています。

世界で女性会員はどの位かと言いますと、10.4%が女性会員です。

また、日本のロータリアンの年齢を見ますと、30代は20%、40代は17%、50代は36%、60代は26.7%、70代は17%となります。平均しますと、50才以上のロータリアンが81%とになります。

最近では会員数が減って、20名以下のクラブがかなり増えてきています。クラブの存続については各クラブの自治権に任されています。

ロータリーにおける職業奉仕は個人奉仕が主体ですが、最近では企業の職業奉仕が主体になって来ているようです。何かロータリーが変わってきているようでなりません。

### 3) 石井 亮太郎PG挨拶

「この席に出席して下さい」と言われて参りました。

クラブ奉仕の部門について、私は常々考えていますのは、ロータリーの根幹にありますのは、



クラブ奉仕である。今、黒田さんがいろいろデータを出して説明がありました。世界の国や地域に於けるロータリークラブの現状をお話しになりました。

私達は独立した、それぞれの自主性を持ったクラブであり、そのロータリーの中で、クラブ奉仕を一番大事に考えなければならない。

元は2分類1原論と言ひ、親睦と奉仕と言う、建て前でロータリーは長年、発展を続けて来たわけです。1927年に初めて各奉仕に分類され、また、今は新世代がそこに入ってきました。職業奉仕はロータリーにしかない実態であり、理解できるのがロータリアンである。

何故、ロータリーは職業奉仕のテーマを大事にするかと言いますと、職業に携わっている方々の心根をロータリーの中で、しっかりと築いて頂き、これを親睦を通じて行う。それと、クラブ運営その他の、それぞれの部門を会員の皆さんが、担ってクラブ運営を図っていく。これに尽きると思います。

親睦と言えば、いろいろな親睦がありますけど、ロータリーの親睦と言うのは、お互いに教師になり生徒になり、心の通ったロータリアンに、心の成長を充たし、そして、職業に社会に国際に新世代に、心を持って対応することをロータリーは奉仕の実践と言う。従って、クラブ奉仕が根幹にあって、その他のセクションは、その延長上に於いて考える。2分類1原論によりますと、すべての社会生活に通ずるロータリアンの実践活動と言うものが、世の中を良くして行けるんだ。国際社会を良くして行けるんだ。非常に広大な理想を求めている訳であります。

従って、今回お集まりの皆さん、クラブ奉仕に関わって、いろいろとリーダーシップを持って頂き、クラブの在り方、クラブの親睦、運営に1年心を砕いて頂き、クラブの発展が遂げられれば、何よりと思います。

先程、私、この冊子を読んでおりましたら、杉山委員長長の仰っていることが、すべてオールマイティーだと思います。織田さんと一緒にロータリーを勉強されて、クラブ奉仕の委員長となり、この1年皆さんと共に、クラブ奉仕に関するリーダーシップを取って頂くことは何よりと思います。

「クラブ奉仕委員会の活動方針」は協議会の冊子に掲載されていますので、割愛させていただきます。

#### 4) 石井 定明 ロータリーの友委員会地区代表委員挨拶

2012-13 年度ロータリーの友委員会地区代表委員を務めさせていただきます、松戸東ロータリークラブの石井定明と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

この4月はロータリーの雑誌月間になっております。皆様におかれましては、すでにご覧いただいていることと存じますが、ガバナー月信において山田ガバナーが雑誌月間について語られており、ロータリーの友にも雑誌月間に関する記事が特集されておりました。

そのなかで、「ロータリアンの3大義務」という記事がありました。3大義務とは例会出席・会費納入・雑誌の購読であります。

雑誌の購読についてですが RI の機関誌は「The Rotarian」であります。この他全世界で30の地域雑誌が発行されており、「ロータリーの友」も1980年7月号より RI の公式地域雑誌に指定されております。

「ロータリーの友」は、RI の方針や全世界のロータリアン並びにロータリークラブの活動を紹介し、海外の活動に対する興味を高め、国内の地区、ロータリークラブ及び会員の活動を紹介し親睦を図り、また、国内外における各種ロータリー情報を掲載することによりロータリー精神の涵養、ロータリーの発展に寄与することを目的としております。

日本のロータリアンは「ロータリーの友」か「The Rotarian」を購読すればその義務を果たすこととなりますが、購読ですから買うだけではなく読む必要があるということです。

是非ご愛読頂くと共に、各クラブにおきまして会員皆様に「ロータリーの友」ご紹介の機会をお作り頂きたいと存じます。

ロータリーの友地区代表委員は全国34の地区ガバナーより任命され、ロータリーの友編集委員会の構成員になります。地区代表オリエンテーションは、この5月21日に開催される予定になっており、詳細についてはまだ把握しておりませんが、ロータリーの友発行の監督・提言

をすると共に、「ロータリーの友」がより良い雑誌となり、会員の皆様により興味を持ってご愛読いただけますよう、「ロータリーの友」に関する情報を皆様にお伝えし、また皆様方の素晴らしいクラブの活動状況、ご意見、ご提言等の情報を提供頂き、投稿して頂くことが務めとなっております。

また、電子情報媒体でありますロータリーの友のホームページ「ロータリージャパン」には最新の情報が掲載されておりますので是非ご利用ください。

どうぞ1年間ご理解いただき、ご協力よろしくお願い申し上げます。

## 5) 質疑応答

Q1：市川東RC広報委員会副委員長 山下

会員増強と広報活動の2つのテーマについてご案内頂きましたが、広報活動については、自分のクラブとして、具体的にどういうことをやって行くのかが、今ひとつ見えないのですが、例えば20ページの下の方に、広報は一方通行ではなく相互関係にある。やろうとしてることを伝えることが大切だよと言うことのサジェスションもあり、参考にしようと思うのですが、もう少し具体的なアドバイスを頂けるとありがたいのですが。

A1：杉山委員長

広報につきましては、次年度エレクトは「広報は地区で大々的に行うものではなくて、各クラブが行うべきである」と言う基本的な考えを持っております。そこにも書いてありますが、どうもロータリアンの中にはロータリーの情報を会員に伝える内部広報だけが広報だと思っ

ている方がおりますが本来の広報のあり方は、我々の活動を社会に向け発信する事にあると考えます。具体的に云いますと、自分たちが活動している事柄を社会にどう知らせるか、或は地域社会の協力組織や他の奉仕団体に対して、アピールを行う事も一つの方法ですし、その様な活動が先々の増強にも繋がってくるのではないのでしょうか。

(藤崎委員)

地区の方では、いろいろな資料がありますので、提供することは出来ますが、あくまで、自分のクラブが主体になって、地域のメディア、

新聞、テレビ、ラジオ等にクラブの活動についてPRをする。また、同じ活動をされている団体と協力して広報活動をする。RIのホームページを見ますと、広報のページはその域を超えて、ツイッター、フェイスブック、ユーチューブ等に載せて、自分のクラブをPRするスタンスまで進んでいるような気がしています。今後そこまで行くには、時間がかかるとは思いますが、もしクラブに詳しい人がいれば、その人からツイッター等にアクセスするのも一案かもしれません。

Q2：館山RC会員増強委員会委員長

川名 光俊

クラブ内の充実を図るとは具体的にどう言うものかを考えているのか。それから、合併ですが、簡単に合併は出来ないと思いますが、その方向、方法をお聞きしたい。

A2：杉山委員長

クラブ内の充実には増強と維持の問題も関わってきます。如何に増強するか退会を防止するか、それにはクラブの中が充実していなければなりません。

クラブの中が充実しているとは、クラブの例会に行く事が楽しい、或は出席する事の意義を感じる場がつけられている事であり、その為には例会内容、会員研修、親睦の再構築を図る事も要因の一つであると考えます。

クラブの充実については、地区委員会でこうしなさいと云う事はありません。各クラブの事情もありますので、共に考えていければと思っております。

合併について、確かにおっしゃる通り、合併は安易に使う言葉ではありません。また、実際に現場で見ましても合併をするのは、非常に難しいのが現実です。そういう方法もあると言うことですので、皆さんと共に考えて行きたい。

Q3：茂原東RC

クラブ管理運営委員会委員長 鈴木 信雄

ロータリー・クラブ独自の活動、奉仕等がございませぬ。地区から具体的な指示や方法があった方がよりよいのではないかと。

A3：杉山委員長

クラブ奉仕としての具体的な皆様方への願

いは、純増1名と言う増強の方での具体的お願いです。純増1名と言っても大変難しいです。最後の最後に純増1名それを目標にして頂きたい、これが地区クラブ奉仕からのお願いです。

奉仕活動については、クラブ奉仕部門は他の奉仕部門、クラブとの対話の中で行動して行きたいと思います。

それでは、ここで地区として何が出来るか、ガバナーの方からも言われています。地区としての活動は、アンケート調査の実施を行います。そして、このアンケート調査の結果を皆様方にお知らせして、各クラブの現状を知ってもらうことです。

今、それぞれのクラブで悩みがあると思います。クラブの弱みや、強み、そう言ったものをアンケート調査することによって、分析したものを各クラブに送りますので、是非活用して頂きたいと思います。6月には各クラブにアンケートの案内を送ります。尚、アンケートにつきましては、なるべく皆様の手を煩わせることのないように、チェックをして回答して頂くようなアンケートを作成中であります。

Q4：八街RC 本年度幹事 原 弘行

質問ではございませんので、お答えしなくても構いません。

24ページの6番、企業の定年退職者を中心とするクラブの設立とありますが、職業分類など、どういうふうな扱いをして行うとするのか。

A4：杉山委員長

「手続き要覧」P179の国際ロータリー定款の第5条第2節クラブの構成、の中で正会員の規程がございます。詳しくはそちらをご覧になればお判りになって頂けると思いますが、この様な提案もあると云う事ですので御理解を頂ければと思います。

ここで来年1月に開催されます、セミナーについて担当よりお知らせします。

(実川委員)

セミナー担当の実川です。2012-13年度クラブ奉仕会員増強セミナーにつきまして、委員長よりお話がありましたように、年度当初は、アンケート調査を実施し、それを充分検討分析した結果を基にして、会員増強セミナーを開催する予定です。先程お配りした用紙には、

対象者、次年度、次次年度のクラブ奉仕委員長となっています。平成25年1月26日(土)マロウドインターナショナルホテル成田で開催します。

Q5：柏RC広報委員会委員長 根本 孝英

やめていった会員が、何故退会したか追跡調査の必要があるのではないかと。この現実を見ていかないと退会防止策にならないのではないかと。

A5：杉山委員長

有難うございます。貴重なご意見で参考にさせていただきます。

(黒田PG)

アンケート調査によりますと、ロータリーに何を求めますか、と言うことになりまして、第1位に卓話、第2位にプログラム、第3位に親睦が求められています。

(石井PG)

今、皆様から発言がありましたが、私も思っていることを申し上げます。先程、クラブの内容の充実はどうしたら一番合理的かと質問がありました。一番大事なのは、会員一人ひとりが自覚意識、参加意識を持つような投げかけをすること。

「入りて学び、出でて奉仕せよ」のターゲットが、我がクラブの例会場入口に掛けてありました。

入りて学びとは綱領の中にあるように心の友を求めて、例会に集まって、そして心をふれ合う親睦の中で、自分を培っていく、自己研鑽を果たす。皆さんが、何故ロータリーに入って、毎週例会に来るのかと言う、自覚意識を持って頂けるようなプログラム、内容の濃い卓話、親睦会などいろいろあります。そう言うことを運営の中に取り入れて、内容の充実をさせることも大切なのではないかと思います。

それと、広報についてですが、これからやろうとすることを地域社会に示す。そんな広報ってありますか、それがもし、なしおうせなかったら、どうなりますか、ロータリーの奉仕は個人奉仕が主体でありますから、団体でやることは否定されませんが、誇大広告のようなコマーシャルをロータリーは歓迎しません。

ロータリアンの実績は広報の媒体にならなければいけないと思います。

一般の方々がロータリーを認知して頂くとロータリーにとって、どれだけのメリットが生まれるか考えながらロータリー活動をして行かなければならないと私は思います。

会員増強について申し上げます。昔からロータリー社会では、質か量かが議論されています。R I では、組織が大きくなって経費が掛かりすぎるために、会員増強と盛んに呼びかけています。

私がガバナーの時は4, 373名の会員がいました。それが今は2, 900名位になっています。退会されたり、亡くなられたり、いろいろあると思います。聞くところによりますと9名しかいないクラブがあると言われていました。そう言うクラブで果たしてロータリーの掲げている理想を生み出すパワーがあるのだろうか疑問に感じます。

増強するには、他人のことを只なんとなくは見えていられない、自他を包摂する思考の持主をロータリーは良質な人材と位置付ける訳で、この様な人格の持主に入会を勧めることが有効であり、効果的な会員増強を産むことになると思います。

Q 6 : 館山R C 会員増強委員会委員長

川名 光俊

平成25年1月26日にクラブ奉仕増強セミナーを開催することは、3年計画を考えたことなのか、あるいは、今年度増強対策を別に考えているのか。

A 6 : 杉山委員長

ここ数年の傾向として、年度後半に会員数の減少が顕著に表れています。今まで前半にセミナーを開催しておりましたが、どうしても1月から会員数が減りますので、なんとかしたいと考えたところです。もう1点は、3年計画の中で長いスパンを考えると、できれば今年度の関係者と次年度の関係者の引き継ぐ中で行うには、1月がいいのではと私の判断です。

# 職業奉仕部会

「職業奉仕に生きること 話し合い 語り合おう」

出席者 154名



パスト・ガバナー 土屋 亮平

2012-13年度職業奉仕委員会

委員長 海寶 勘一

委員 堀内 正一

委員 松田 泰長

委員 高梨 昇一郎

## 1) 委員会委員進行 堀内 委員

## 2) 海寶 勘一委員長挨拶・活動方針説明

地区協議会冊子P28～31 参照

## 3) 高梨委員 委員会運営説明

### \*クラブ職業奉仕委員長セミナー

得居ガバナー・エレクトは、職業奉仕の重要性について語られておりました。その方針の下に、今年度の地区職業奉仕委員会はロータリー情報研究会をより活性化させるために、毎年開催されているロータリー情報研究会開催の前に各クラブの職業奉仕委員長を対象にクラブ職業奉仕委員長セミナーを開催することを計画いたしました。

また、これは隣接する2つの分区が一体となって開催するセミナーであります。

そして、2つの分区のガバナー補佐、開催地となりますホストクラブ並びに地区職業奉仕委員会の3者による共催で実施させていただきます。

出席対象者は各クラブの職業奉仕委員長・ガバナー補佐・地区職業奉仕委員。

テーマは「職業奉仕に生きること 話し合い 語り合おう」で開催します。

第2790地区には14分区あり、2つの分区を一体化させて、7回のセミナーを開催します。

(別紙参照)

このセミナーの目的は、職業奉仕について話し合い・語り合って意見交換をして頂き、理解を深めていただくことです。

従いまして、地区職業奉仕委員会が主導的に、職業奉仕とはこのようなものですか！ロータリーの知識を追求することはいたしません。そして、地区委員会は、皆さんとともに話し合いの中から上質の結論を導き出していただるように、必要に応じて運営面のサポートをしていきます。

### \*ロータリー情報研究会

開催日時は、クラブ職業奉仕委員長セミナー終了後の日程で、各分区ごと、独自に決定し開催していただきたい。そして、主催は各分区のガバナー補佐にお願いします。

地区委員会は運営面を担当させていただきます。

テーマは「職業奉仕に生きること 話し合い 語り合おう」でございます。

また、地区職業奉仕委員によります卓話は割愛させていただきます。

最後に、お手元の冊子に、意見交換時に使用可能な、職業奉仕を考えるための4つの記事を提供させていただいております。あえて、筆者は伏せてあります。皆様の参考にして頂ければ幸いです。また、後日開催されます、クラブ職業奉仕委員長セミナー・ロータリー情報研究会において、この冊子内の記事をご活用いただきたいと思います。と存じます。

#### 4) 質疑応答

Q 1 : 流山RC職業奉仕委員会委員長

青木 修

資料にはクラブ職業奉仕委員長セミナーの開催日が8月10日(金)となっていますが9日(木)ではないか?確認してほしい。

A 1 : 海寶委員長

資料作成時に訂正が間に合わなかったのです。正式には8月9日(木)でございます。

Q 2 : 土屋PG

クラブ職業奉仕委員長セミナーとロータリー情報研究会につきまして、両方とも、テーマは「職業奉仕に生きること 話し合い 語り合おう」ということでしょうか?

また、クラブ職業奉仕委員長セミナーは各クラブの委員長さんを対象にしたセミナーとして、そして、ロータリー情報研究会は一般会員を対象とした研究会として理解していいのですか?

そして、クラブ職業奉仕委員長セミナーには今日お越しになっている職業奉仕委員長・クラブ研修委員長・情報委員長の3種類委員長が出席するのですか?

A 2 : 海寶委員長

今年度、地区職業奉仕委員会は年間を通じて「職業奉仕に生きること 話し合い 語り合おう」というテーマで活動させていただきます、従いまして、クラブ職業奉仕委員長セミナー、ロータリー情報研究会も「職業奉仕に生きること 話し合い 語り合おう」で開催させていただきます。

クラブ職業奉仕委員長セミナーの対象者は、クラブ職業奉仕委員長はもちろんのこと、本日は、クラブによってはロータリー情報委員会・研修委員会の委員長さんも出席して頂いていると聞いていますが、このような方々を対象に、自由闊達な意見交換をして頂きたいと思いません。

ロータリー情報研究会はガバナー補佐さんに主催をおまかせしてございますので、私たち

地区職業奉仕委員会は運営をお手伝いさせていただきます。大切なことは、聞きっぱなしの勉強会ではなく、皆さんが話し合い・語り合うことが大事なんではないかと思います。

また、物足りなく感じる会員さんもいらっしゃるということは十分承知してあります。もっと、ロータリーの歴史観や理念について語り合いたいと思う会員さんもいらっしゃるかと思いますが、今、私たちが考えていることは、ロータリーの歴史観や理念を深く掘り下げるのではなく、会員諸兄が職業奉仕という姿勢を理解し、実践していただけるよう、クラブ職業奉仕委員会等に例会等を通じて啓蒙してもらい、会員諸兄がその職業奉仕の実践的姿勢を社会に広めてもらえることを目標に、次年度の地区職業奉仕委員会活動をしていきたいと思っています。

クラブ職業奉仕委員長セミナーには今日お越しの職業奉仕委員長・クラブ研修委員長・情報委員長の3種類委員長に出席して頂きたいと考えています。

Q 3 : 千葉北RC研修・ロータリー情報委員会委員長  
長塚 公毅

なぜ、職業奉仕とロータリー情報をくっつけてしまったのか?

二つの委員会は私は違うものと考えています。

ロータリー情報はもっと職業に関わる色々な分野のロータリー情報の委員会セミナーを開催するべきと考えますし、この書き方ですと、職業奉仕に限定したセミナーを行うという捉え方になります。

ロータリー情報研究会を開催したとしますと職業奉仕以外のテーマでもいいのですか?

A 3 : 海寶委員長

今日お集まりの会員さんから質問されるだろうと思っていましたが、今、私の中にお応えできるベストな答えはありません。

皆さんどうでしょうか?今、ご意見ありましたが、もっと間口を広げて、ロータリアンとしての生きる様や職業分類によって私たちは入会しているということを、原点に戻り見直す機

会が必要と考えています。ですから、このような意見も含めて、まずは、皆さんと話し合い語り合うということをガバナーはじめ私たち委員会がこのテーマを以って一年間活動していきたいと思います。

Q 4：柏西RC研修・ロータリー情報委員会委員長  
安川武年

ロータリー情報研究委員会は新入会員に対してロータリーの情報を伝えるということが役割なのかと思っていましたが、先ほど質問した方と同じなんです、なぜ、職業奉仕とロータリー情報を一つにしてしまったのか？わかりません。

A 4：松田委員

先ほどのご質問に対する回答のとおり、色々な解釈の仕方も含めて2分区ごとのクラブ職業奉仕委員長セミナーを企画・開催したいと思います。

(土屋PG)

オブザーバーという立場で出席しております。私の私見ですのでよろしくお願い致します。ロータリー情報委員会は、知識を一般会員に啓蒙するのが委員会の任務でございまして、ロータリーのすべての事を教育する係と理解してほしいものであります。

クラブ研修委員会は、織田年度地区協議会の時に織田ガバナーが提唱された委員会でしたが、残念ながら、当時は83クラブの中で私ども松戸RCだけが設置され、例会後の一時間を利用して年に8回開催されました。

活動内容は会員の皆様から質問を受けて委員会が答えるというやり方でございます。実はこのやり方は、古い会員の方々に対しては、改めてロータリーの事を考え直すいい機会になりました。また、中堅のロータリアンがロータリーに関して興味を持っていただき、成功したのではないかと思います。そこで、今日お越しの皆様にもう一度、クラブ研修委員会について見直して頂きたいと思います。

Q 5：千葉西RC職業奉仕委員会委員長  
川島 教昭

今年度、得居ガバナーは職業奉仕に力を入れているガバナーだと思います。そこで、職業奉仕・倫理の確立については、社会奉仕・国際奉仕の基礎として職業奉仕があると考えます。

職業奉仕がわかりづらいのは職業奉仕そのものを説明しているからわからないわけで、社会奉仕・国際奉仕が一体になって育っていくという中での職業奉仕ということで委員長が提案したのではないですか。

何故ならば、職業奉仕だけをとらえて、このようなものですよ、と説明されても今まで理解できませんでした。日本では職業奉仕というのは確立されていて、親睦にしてもクラブ奉仕にしても、他の団体からはすでに活動しているのではないと言われてしまう。日本のレベルが高いわけでございます。だけど、そこで、社会奉仕・国際奉仕・新世代奉仕というものに広がっていくために整理しておきたいと私は考えております。

A 5：海寶委員長

ひとつのきっかけとして、私たち職業人がロータリアンになっているという原点にさかのぼって、幅広くクラブ奉仕・社会奉仕・国際奉仕・新世代に向けて関連づけた奉仕活動ができればいいのではないかと。また、各クラブの職業奉仕委員会として、会員にどのように啓蒙したらいいのか、皆さんそれぞれにお考えがあると思います。各クラブ独自の伝統もあるかと思えますし、委員長さんのお考えもあるでしょう。このように全クラブの会員が集まった中で自由闊達に議論し自分のものにし、それをまた、ほかの方に伝えていく啓蒙活動にご尽力いただければありがたいです。

Q 6：館山RCロータリー情報委員会委員長  
吉田政紀

海寶委員長より啓蒙という言葉が発言されましたが啓蒙するということは職業奉仕に対する考え方が確立されているということと受け取りました。

私見になりますが職業奉仕に対しては「促進」という考え方でございます。そして、歴代のガバナーでも職業奉仕に関して様々な考え方もっていました。そこで、得居ガバナー年度の職業奉仕についての考え方と委員会の考えていることは同じですか？

#### A 6：海寶委員長

思いは同じだと思います。そして、手法は地区委員会に任されていますので、委員会の4人が集まって色々な考え方を出し合い、委員会活動方針を決定しております。それと、啓蒙という言葉を使ったのは、各クラブが啓蒙してほしいということなんです。地区委員会が啓蒙することではありません。

(質問者) 啓蒙ということは、職業奉仕に対する考え方が確立されていて、知らない人に分け与えるということであり、曖昧な考え方の職業奉仕では困ると思います。職業奉仕とはこのようなものだというシンプルなものを打ち出されないと啓蒙できないということだと思います。

(海寶委員長) 5大奉仕ある中で、職業奉仕だけがクラブがまとまってやるとかという奉仕とは違うのであり、それぞれ皆さんの自分の職業の中でやっていただくことであり、一人ひとりやるのが違って来るわけでございます。各会員ご自分の生業に照らして考えていただきたいということが地区委員会の望むところです。

#### Q 7：成田コスモポリタンRC職業奉仕委員会 委員長 金井 浄

私のクラブでは、ロータリーは楽しくなければいけないと思っています。楽しいということは何かと言いますと、職業人の集まりですから、会社がうまくいっていることが楽しいと思います。そして、きちんとした職業倫理をもち自分の仕事がかまくいき、足元がしっかりし、ロータリー活動ができ、楽しく事業が出来ている会員が、我がクラブでは増加してきています。私の私見です。

#### A 7：海寶委員長

今のご意見に賛成です。是非、クラブの中で広めていただきたいと思いますし、委員長セミナー・情報研究会に参加される会員に知っていただき、広めていただきたいと思います。

#### (土屋PG)

得居ガバナー・エレクトが言いましたように、今日の資料の15ページ要望事項1. 職業奉仕の更なる推進のところに、田中会長エレクトも「事業を成功させるには、顧客の満足を追求する以外ないという結論に達したのです。事業が成功すれば、自分も幸せになれる。しかし、それは、事業が成功しているからではなく、人を幸せにしてあげることができたという認識があるからです」というところが簡単に言うと職業奉仕の鉄則でございます。難しいことではなく、このように、簡単なことが大切で、お客様に喜んでいただき満足してもらえる企業が成功するんだと思います。私は職業奉仕というのは商売繁盛の秘訣と言うほうが皆さんに納得していただけるのではないかと思います。

心のうちにそのようなことを秘めて、職業奉仕委員長を務めていただくと、会員から共感を得られると思います。皆さんのご成功を祈念いたします。

#### (海寶委員長)

土屋パスト・ガバナーをはじめ皆さんよりサポートしていただきありがとうございます。今、土屋PGがおっしゃったように、気楽に職業奉仕について一年間皆さんと一緒に話合い・語り合っていきましょう。是非、皆さんのお力をお貸しく下さい。よろしくお願ひします。ありがとうございました。



## 社会奉仕部会



パスト・ガバナー 秋元 秀夫

2012-13 年度社会奉仕委員会

委員長 中山 政明

委員 小川 秀二

委員 池田 博

委員 細田 昌男

### 1) 中山政明委員長挨拶

定刻でございますので、これより地区協議会の社会奉仕委員会を開催いたします。

私は、2012-13 年度の社会奉仕委員会の地区委員長を仰せつかった松戸ロータリー・クラブの中山と申します。どうぞよろしくお願い致します。

まず最初に、秋元秀夫パスト・ガバナーに一言ご挨拶をお願い致します。

### 2) 秋元秀夫 P G 挨拶

まず、言い訳を言いますと、今日、ガバナーから「社会奉仕の委員会に行って座って下さい」と言われまして、そのつもりでのこのこやってみまして、いま、お話してくださいと言われました。パスト・ガバナーは役目があるが当然ながら、まずご挨拶するのが任務ですと言われまして、大変慌てふためいておりました。でもね、今日私は、ガバナー・エレクトのお話を聞いて、社会奉仕に我が意を得たり、という思いはございます。

私は今から 20 年位前に、皆さん御記憶にあるかと思いますが、530（ゴミゼロ）運動という社会奉仕運動を始めまして、自画自賛でございますけれども、ロータリーでは最も成功した社会奉仕をしたという思いが御座います。たまたま、私は食品問屋をしておりますが、豊橋の市場をやっておりました私の仲間から、名古屋では発泡スチロール等が市場で散乱して非常に見苦しくなったので、530 運動というのをやるから手伝いに来ないかと誘われまして、

当時のガバナー鈴木憲輔さんと行って写真をとってきたのが 20 年位前だったと思います。次の年にゴミゼロ小委員会という特別の委員会ができて、私はその委員長をさせていただきました。そこで私は各クラブの社会奉仕委員の方に呼びかけて、その時は市町村の役場にも呼びかけました。そうしましたら 170 人くらいの人が集まりました。それで千葉県で 530 運動というのが広まりました。

先ほどのガバナー・エレクトの話の中に「地区委員会の委員期間が長すぎると官僚的になる」というお話がありましたけれども、私は官僚的ではなかったのですが、思い付きが良かったのか、社会奉仕委員長を 7 年間務めまして、いろいろなことをさせていただきました。何故なのか私たちは 7 年間も残ったのかというのは、これも自画自賛になりますが、常に先見性を私たちは持っていました。鈴木憲輔さんという方は、とても勉強家です。人間ドックに入っている間に 7 冊くらいの本を全部読んでしまえと命ぜられまして、人間ドックに行ったのか本を読みに行ったのか分からないくらい勉強させられました。ですから、当時やることなすことは、常に次の時代を先取りすることを考えろという指導をずっと受けました。苦言を呈するならば、今日、我が意を得たりと思うことは、いま、民主党という名前を出すことは悪いかなどは思いますが、民主党というのか、今の政治家というのは、地域社会の皆さんのニーズというのか、何を願っているのか、ということをよく聴いて、政治を行うということが…。でも

私は、これは政治ではなくて、政治ではあっても、これは後追いだと思います。政治というのは常に5年後10年後、国はどう変わっていくのか、世界には何が必要なのかという時代を私たちは先見性を持って、見定めて、市民より先に歩く事が政治の役目であり、ロータリーの社会奉仕の役目であると、530運動をやって教えられました。そうした中に、今日ガバナー・エレクトが言いましたように「継続性は駄目なんです」ということを言われましたけれども、私たちの時は「継続は絶対駄目だ」と。でも、ロータリーは、RIは時々変質をいたしまして、「継続も必要なんだ」と、確かに必要なこともあるかと思いますが、やはり一般市民のために、あるいは地域社会のリーダーとして生きるロータリーの役目というのは、私は一歩も二歩も先を歩かなければいけない、何故ならば、ロータリーは社会奉仕をすることによって、市民の人たちが「ロータリーの方たちは素晴らしい、私たちも一緒にやらしていただく」という気持ちを持つことが、私はロータリーの社会奉仕の一つの役目だと思います。よく、私たちの頃も自分たちで自負するようなことを言われました。

「ロータリーのおじさんたちが何かやっているよ」と言われるようでは駄目なんです。やはり「あの人が今度はこういうことを始めたから、私たちも一緒にやらせて頂こう」と言われるようではなければいけない。

ロータリーのやる社会奉仕は、次の時代の人たちや地域社会の人たちが、「私たちにやらせて下さい」と共鳴する人たちが地域社会に増えていかないとロータリーの奉仕活動と言うのは、ロータリーそのものの存在感がなくなるといふことに通じるんだと、私は思い続けていました。ですから、ここ数年の関係者には、ちょっと苦言になりますが、ここ数年のロータリーの、社会奉仕のあり方というものが、私としては納得できないなという思いがずっとしていました。私がこういうことを言うのはまずいかなと思います、やはりロータリーの社会奉仕活動は地域社会で共鳴され、あるいは尊敬されるものがなくなったときに、地域社会でのロータリーというものの存在感がなくなっていくのではないかと、今まさに、そういう時代を迎え

ているのではないかと。先ほど得居ガバナー・エレクトが「前年踏襲を続けている組織はやがて滅びる」と明確に言うておられました。私もそう思います。ぜひ、これから災害の問題等がございませうけれども、やはり次の時代の為に、5年後10年後の為に、少子高齢化人口は毎年80万人ずつ日本の人口は減っていくんですから、そのためには私たちはやはり先手、先手で何をすべきかを考える時ではないだろうかと思ひます。

突然のご指名ですので、日頃思ふことをありのまま、言うてはいけないことも言うてしまったのかなという反省もございませうけれども、言わせて頂いてすっきりしました。どうぞ皆さんよろしくお願ひします。

### 3) 委員会委員挨拶

(小川委員)

皆さん、こんにちは。地区委員の東金ビューロータリー・クラブの小川と申します。よろしくお願ひします。

私どものクラブは約11年前にできまして、それから新しいクラブが10年続いて、浦安に新しいクラブができ、2番目のクラブになりました。私が10年前に入会させていただきまして、まず地区委員というものに非常に疑問を持っておりました。と申しますのは、ロータリーの組織を運営するための地区委員のような感じがしまして、皆さんの活発な意見また活動がないままに、委員会からの報告また指示があつて、これちょっとおかしいんじゃないかといつも思つておりました。今回私がたまたまこの地区委員に携わらせていただいたわけですが、振り返ってみますと、やはりこれは絶対に必要であると、ただし、ロータリーの組織を維持するためではなく、自分たちのクラブが何を実践し、何の社会奉仕の活動を行つていくべきかを地区委員がフォローしていく、また相談に乗る、一緒にやる。これがやはり地区委員会のあり方だと気付きました。当初そう思つていたわけですが、これは皆さん方と熱意をもつて、また、あまり難しく考えずに、自分たちの言葉で語り合つた行動ができれば、一番、社会奉仕の充実した活動になるのではないかとと思

っています。五大奉仕委員会の中で社会奉仕委員会だけが、決められたプログラムはございません。皆さん方、各クラブでご自身たちのプログラムを組んで実行するわけですけれども、そのために何もしなければ1年間が終わってしまいます。また、取り組み方によりましては、非常に大多数がプログラムをできるのではないだろうか、そのへんを皆さん方と一緒にあって少しでも、社会奉仕が充実するようにやってまいりたいと。それと、私まだまだ勉強不足でございまして、社会奉仕活動にある「決議23-34」この項目が、手続き要覧等いろいろ読んでみても、当たり前なことなので、何故ここで「決議23-34」があるのか疑問に思っておりました。で、この一番最後にあります様に、要は、ロータリーの奉仕の哲学を受け入れて、それを理論ではなく、職業奉仕を中心とした実践で行いなさいとゆうことではなかろうかと、自分なりに解釈しました。そうしますと皆さん方も含めまして、これはもう日頃、皆さん実践しているのではなかろうかと思っております。そう思いますと、それほど難しいことではなく、日頃の自分たちが、またロータリーが社会に対する思いで奉仕活動をしているのが、それが「決議23-34」になっているのではないかと安心いたしました。

そういうことで、私は微力ではございますが、1年間委員として皆様方の活動のお手伝いができるように頑張ってみますのでよろしくお願い致します。有難うございました。

(池田委員)

こんにちは、習志野中央ロータリー・クラブの池田博と申します。私、去年度2010-11年度に会長を終えたばかりですので、まだまだ地区に出るなどということはおこがましいと思っただのですが、ご指導いただきまして、ロータリーにノーは無いということで、お引き受けをさせていただきます。

今年のセミナーのテーマは「ロータリーは震災支援、防災で何が出来るか」ということで、パネルディスカッション、基調講演を行う予定になっておりますけれども、備えの大事さ、そして命の大切さ、語り継ぐことの大切さということを本当に身にしみ感じております。私は

消防団をやっているんですけれども、やはり備えるということは、知識を重ねていくということが大事だと思います。その中でロータリアンとして、いろいろなことを学びながら、有事の際にはどういうことができるのか、例えばAEDの救急救命の講習などを年1回ずつ受けていけば、何かあった時に困った人に対して役に立つことでもあると思いますし、また、消防団と一緒にあって、消防のバックアップをしたりとか、また、有事の際にはどのようなことが起こるのかということを読んでいくことによって、どういう行動を今とらなければいけないのか、ということが分かってくるのではないかと思います。そういう意味におきましては、後で講師の説明をしろということではありますが、米山正幸さんという方のお話というのは、ものすごく分かりやすいセミナーだと思っております。

どうか、私もまだまだ経験不足ですので、1年間皆さんと一緒に学ばせて頂きたいと思っておりますので、どうかよろしくお願い致します。

(細田委員)

最後になりましたけれども、松戸西ロータリー・クラブから参りました細田と申します。私入会8年目でございまして、昨年幹事をやりまして、地区委員はこれが初めてでございまして。

私のクラブは会員が24名程と弱小なクラブなんですけど、社会奉仕活動としましては、矢切の渡しにベンチを寄贈しまして、そのアフターフォローをするぐらいのことしかやっております。これを機会に、皆さんとともにまた社会奉仕を勉強してクラブへ持ち帰りたいと思っております。

よろしく申し上げます。

#### 4) 社会奉仕委員会について 中山委員長

本日の資料32ページをお開き下さい。いろいろ改革しまして、各委員会の資料をすべてこの一冊に纏めようというガバナー・エレクトの指示でありまして、そういう訳でこの32ページ、33ページにわたって資料として載せさせていただきました。ガバナー・エレクトの考え方と私、委員長としての考え方ということで、ゆっくりとお話をさせていただきたいと思

ます。

当地区の社会奉仕委員会は、2010年の手続要覧に基づき、組織図上は今まで小委員会の新世代奉仕委員会が分離独立し五大奉仕委員会、各クラブの方々もそれに移行しつつあるとは思いますが、社会奉仕委員会はあると思いますが、新世代奉仕委員会は無いというクラブもありますが、次年度は地区として、本年に引き続きまして五大奉仕委員会となっています。活動計画書を皆さんお作りになる時に、五大奉仕にまだ分かれていない、社会奉仕の下にまだ次世代があるという状況の場合には、ぜひともその組織外であるということを経理さんにもご存じだと思いますが、各委員長さんにもご理解いただきたいと思っております。というわけで、社会奉仕委員会、地区としては、そんなにアクティブなこと、いわゆる今まではインターアクトとかRYLA、全部社会奉仕の委員会に配属されていましたが、今回はそういう訳で新世代奉仕委員会が独立しましたから、アクティブな部分での奉仕は分かります。

その中、社会奉仕委員会、地区としては、先ほどもお話ししましたが、あくまでもクラブの自治、クラブの社会奉仕活動をするることによって、地域の社会、地域の行政区内の奉仕に努めるということです。クラブとして、また、ロータリアン一人ひとりとして個人的な奉仕、社会奉仕を心がけていただきたいということでございます。いわゆる我々の地区としては、その皆さんの昨年度の社会奉仕委員会の資料を全部見させていただきまして、皆さんそれぞれ立派な社会奉仕活動を続けていらっしゃる場所もあれば、新しいものに取り組んでいらっしゃる場所もあると思っております。

そこです、今日最終ページになりますが、1923年の規定審議会、先ほど小川委員もお話ししておりました「決議23-34」が最終ページに記載されてます。これは得居ガバナー・エレクトの思いというところがありまして、社会奉仕の考え方というものを新入会員、古い会員も含めてですが、その認識をより深めて頂きたいという仰せでございます。

例を申しますと、初期のロータリアンの社会奉仕というのは、皆さんご存知のとおり、シカゴで公衆トイレを造ろうというような社会奉

仕が始まりじゃないかと思っております。その社会奉仕はこの決議の前に行われた訳ですけれども、ロータリーとしての基礎的な考え方は、社会奉仕は、トイレを設置するという考え方は結構。それに対して、実際にトイレが出来たのは2年後だそうです。2年後にロータリアンは一銭もお金を出していません。一銭も出さずして、行政や街の声を動かしたのがロータリアンだというような事実のお話が、いわゆる初期の社会奉仕でございます。

そこで、1923年からちょっと過ぎまして1935年、現在のロータリアンの綱領が示されました。クラブ奉仕委員会、職業奉仕委員会、社会奉仕委員会、国際奉仕委員会の四大奉仕が作られたという歴史があります。やはり社会奉仕に対する姿勢がロータリアンの中にもいろいろあった結果、「決議23-34」がつくられたといういきさつがあります。その中ではつきりしようというのが、まさに今我々が勉強している「決議23-34」であると思っております。そういう中でよく読みますと、やはりロータリアンは個人奉仕を主体にしています。その中でクラブ奉仕をした形での奉仕、社会奉仕のリーダーという方向で運動しているわけですけれども、この各クラブの委員会の報告を見ますと、大震災に対して即行動を起こしたクラブもあれば、先ほどバスター・ガバナーが仰ったゴミに対する活動であったり、いろいろな意味で活動を続けていらっしゃるの事実であります。そういう意味で、皆さんにあくまでも自主、自分たちのクラブのやり方、それぞれの個人の経営者のあり方というものを集約して、皆さんの意見、こういうことをやっているということを集約したものを皆さんにお知らせするということが、地区としての社会奉仕委員会の仕事と心得ます。そういう中での情報提供という意味では、どしどしとガバナー事務所に寄せていただきたいなど、そう思っています。

そこです、昨日も震度5という地震が鉾子の方でありましたね。千葉県は相当揺れたようです。そういう意味では、千年に一度の被害というのは、我々人生の中で百年は生きない訳ですけれども、この千年に一度の大被害に日本の列島があったということは、我々が今現在生きている事に対して相当のショックであり、経

済的にもどう影響してくるのか、すべてそういうものに影響される社会であると、地区としても考えないといけない。そこでですね、皆さんぜひとも、去年おやりになった委員会があるでしょう。今年も努力していただければ有り難いし、またガバナー・エレクト自身も何か一つ目覚ましいものを社会奉仕委員会として開けてほしいというようなことを申しておりました。あくまでも各自のクラブのエレクト社会奉仕委員長の方針の下、まとめていただければありがたいし、そのお手伝いは充分にさせて頂きたいと思っています。この4人で実際に動いて情報を集めておりますので、ぜひともガバナー事務所の方へお願いしたいと思っています。話が重複して書いてあることとはちょっと違ってきますけれども、そういう意味では「地区が何もやらないではないか」「地区社会奉仕委員会とは何なんだ」との仰せがあるかもしれませんが、ガバナー・エレクト方針としては「地区の委員会活動、地区としての活動に各委員長や各クラブの人たちを動員するという構造はなしで結構です」という方針が打ち出ております。

動員として一つだけ必要なことは、これからお話する、いわゆる千年に一度しかない災害に対して、ロータリアンはどう立ち向かうべきかというような考え方でセミナーを一度開きますが、それに対する情報を集めるということがあります。それと、そのセミナーだけで終いというのではなく、その後のフォローについても情報を提供していきたいと考えています。いわゆるボランティアとして活動する人数が激減している、翳りが出始めてきている。ところが瓦礫の問題については、県内でもいろいろと揉めていますが、「自分の家のそばにゴミ箱を置いてもらっては困る」というような主張が多く、なかなかこれが纏まらない。というのも事実で、皆さんご存知のとおりであります。そういう中で、ロータリーがその地域において、奉仕活動として、その問題をどのようにリードしていったら良いか、行政を動かしていったらよいか、ということを各クラブで考えて頂けたら有り難いと思っています。後、もう一つパスト・ガバナーが仰っていましたが、いわゆるマンネリ化、社会奉仕に関するマンネリ化もあり

ますから、それに対する考え方を、またガバナー・エレクトが仰ってましたが、前の年次を写しただけの委員長の活動計画では駄目だというお話がありました。そういう意味で、活動が伴った意味での活動計画書ということをお願いしたいと思います。そんなお願いすることばかりで申し訳ありません。

最後になりますが、決議23-34について、ぜひとも活動計画書の最後のページでも結構ですので社会奉仕活動のためでも、啓蒙のためでも結構ですので、その決議23-34をよりロータリアンとして理解するということに言及していただきますと、職業奉仕に関しても関連した勉強になるのではないかと思います。地域社会における素晴らしいロータリアンの活動と言われることをお手伝いしたいと思っていますので、よろしく申し上げます。有難うございました。

それでは、7月7日に早々ですがセミナーを開催いたしますので、池田委員から説明をしていただきます。

## 5) 地区社会奉仕委員会及び新世代奉仕委員会 合同セミナーのお知らせ

(池田委員)

7月7日のセミナーは、場所がホテル・ザ・マンハッタンです。基調講演として、千葉県飯岡地区で被災された、飯岡津波を語り継ぐ会会長の中条富夫様のお話、そして防災講演として北淡路震災記念公園の野島断層保存館の副館長であります米山正幸様に講演をお願いしております。その後、震災の際にロータリーがどのような形で援助していくべきかについてのパネルディスカッションをします。まず、野島断層からのメッセージということで、北淡路震災記念公園の震災の語りべということで米山正幸様に来ていただくのですが、兵庫県南部地震のことについて、そのときに何が起こったのか、そのときに自分がとった行動はどうか、各団体の活動はどうだったのか、それらを踏まえて、東日本大震災に対して、いろいろとインタビューをしてきたみたいですので、その辺のところも含めて、どういったことが起こったのかということをお話していただきたいと思

います。そしてまとめに「命の大切さ、備えの大切さ、語り継ぐことの大切さ」ということを皆さんの前で基調講演を行っていただきたいと思っております。ものすごく分かりやすく、起こったことをリアルに話していただけますので、ものすごくためになると思っていますので、是非お越しく下さい。

(中山委員長)

資料にも書いてありますが、7月7日の土曜日、15時から18時、ホテル・ザ・マンハッタンにて開催いたします。登録料無料。ガバナ一方針で経費をかけない、ご迷惑をかけないということで懇親会はなし。ディスカッションの中でケーキとお茶は用意させていただきますので、よろしくをお願いします。

地区からのお知らせという部分はここまでののですが、東日本大震災で被災された地域は多数あると思っておりますが、その中から失礼かと思っておりますが、旭ロータリー・クラブ、佐原ロータリー・クラブ、浦安ロータリー・クラブ、八街ロータリー・クラブ、成田ロータリー・クラブの各クラブの社会奉仕委員長さんにご報告を頂きたいと思っております。

## 6) 東日本大震災一地区内RCからの報告

(旭RC社会奉仕委員会委員長 高橋 満)

旭ロータリー・クラブの高橋満と申します。震災の後ですね、第2790地区からのご支援を旭市に頂きまして、旭ロータリーの方にも頂きまして誠に有難うございました。皆さんの友情に感謝申し上げます。私も今日来て、これを読んで、これは何かやらされるなと感じました。いま、自分の中で考えていることは、あの津波で松林が相当やられました。それでその松林を復元したいなという事業と、海岸の美化、これを心掛けていこうと、いま思っています。また詳しい報告は7月7日に報告させていただきます。

(佐原RC副幹事 高橋 勝之)

佐原ロータリー・クラブの高橋と申します。本来私は社会奉仕委員ではなく次年度副幹事でございまして、実は社会奉仕委員が今日出席できないため勉強のために代理で来ましたと

ころ、このような事になってしまいました。佐原は古い街並みで結構液状化等で被害が出ました。その中で何をしたら良いだろうかという話はクラブの中からも出たのですが、市町村、地方自治体その他の住分け、線引きが今現在つけられていません。市の方にも被害総額が相当出ていまして、予算的にも3年計画、4年計画という形で市の方も復興していこうという中で、いま地域の中で何をしたら良いかという話は、今クラブの中でしております。地域周辺の各ロータリー・クラブの方々からいろいろとご支援を頂き有難うございます。先日も成田の方からご支援をいただきましてありがとうございます。いろいろな地方の方からいろいろとご支援いただいております。その他にもどうやって地域のために使ったら良いのかということを検討中でございます。帰りまして社会奉仕委員長と話しまして、7日の日にいろいろなご報告が出来ると思っております。ありがとうございます。

(浦安RC社会奉仕委員会委員長 大塚 博行)

浦安ロータリー・クラブ、次年度社会奉仕委員会を担当することになりました大塚と申します。皆さん御承知のように、浦安も液状化のために大変な被害状況になっておりまして、まだ、インフラ等各家庭の液状化被害による再建もままならないような状況になっておりますけれども、ロータリー・クラブから、地区の方からも、友好クラブからも寄付金を頂きまして、もちろん浦安市の方にも、東北地方にも寄付はさせて頂きました現状ですけれども、今後、社会奉仕委員会としてどういう活動をしていったら良いか、私は何も考えておりませんが、地区の委員の皆さんのご指導を頂いて、何か従来の社会奉仕委員会の活動とは違う、震災に関連した、街のためになることを何か出来たら良いかなという希望を持っています。

(八街RC 社会奉仕委員会委員 亦平 力)

こうなるとは思っていなくて、委員長が所用があるとのことで、気軽に代行を引き受けてきて、申し訳ございません。こういうことがあるならもう少し事前に勉強をしていれば良かったなと思います。今回、八街で震災に対してど

うしたかというご質問でよろしいでしょうか。クラブとしましては、国外、アメリカのちょっと関係していましたがサハリン台風というのがございました。その時に、八街ロータリー・クラブとしては、学童にいろいろと教材関係を寄付したり、また金品について協力いたしました。それで今回の東日本大震災に対しまして、アメリカのロータリー・クラブから何かさせて頂きたいとのご返事を頂きまして、さらにアメリカの子どもたちが日本のニュースを見て、ぜひ私たちが世話になったことに対して少しでもお返しをしたいというメールが入りまして、子どもたちだけで約2,000ドルという金額を八街ロータリー・クラブに送るからということになりました。それで、その資金をロータリー・クラブとしては、ぜひそれを形に変えてご返事をしなければいけないという立場になりまして、何をしようか。大きなことはできませんけれども、八街に避難してきた方々が居ますので、その方たち36家族くらいですが、その方たちを慰問しようということで、老人クラブの一室を借りまして、いろいろと子どもたちに支援をさせて頂きました。その時には、八街の女性会の方々の手作りの料理だとかという家庭的な動きに対して、気持ちが相手に伝わりました、いろいろとお世話になったということで、まだ、福島の方では避難してロータリー・クラブの会合すらできない状況の中で、3つ位のクラブからお返事を頂いて、まだいろいろとお世話になることもあろうかと思うがその節はよろしくということでした。それでは次に何をこれから八街ロータリー・クラブの会員の一人としてしようかということ考えたのですが、サポート支援という言葉が最近ありますよね、一つの被災した企業を助けるには、それなりの諸経費も当然かかるでしょうし、当然借入の問題でも被災の影響で相当な被害を受け、今すぐ返済を出来る状況にはないと、それに対して金融機関側は当然、待ちの態度を取ってくれるというような情報がテレビを通じて入ってきた。じゃあ、今の返済を半年待ちましょうという段階で番組は終わりましたが、そういうことに対して我々は、復興することが分かっている企業ならば、例えばその間、各クラブの力に応じて支援態勢のサポートが出来ないだろうか

と、当然銀行との関係もありますが、何かそういった支援態勢で給付が出来ないだろうかということで、いま考えています。実際にはまだ動いておりませんが、なかなか相手のクラブとの関係ですとか、我々がその企業に対して直接どうこうということも出来ませんので、出来るだけ多くの情報を得て少しでも早く支援態勢に協力できればと考えています。よろしくお願い致します。

(成田RC社会奉仕委員会副委員長 諸岡靖彦)

成田ロータリー・クラブの諸岡でございます。昨年の4月22日が私共のクラブの創立50周年の日でございまして、その準備がもう充分出来ていた状況でしたが、1か月前の3・11の地震があり、記念式典を行うべきか否かの大激論がクラブ内で行われました。こういう事態ですから一切自粛すべきであるという意見がかなり根強かったのですが、成田の街は観光で成り立っている街でございまして、自粛したり、街の人に差し障りのあることになったりすることはまずいだろうと、50周年式典をやる意味を再考して、ちゃんとやるべきであろうということになりました。私、当時会長でありましたし、実行委員長も平山パスト・ガバナーと一緒にございまして、これは絶対やるべきだと、計画停電があった場合でも、万が一の場合に備えて発電機も用意してと、かなりのことをして当日を迎えたわけでございます。50周年の意味ということでは、いろいろな経緯を経て50年を重ねてきたわけですが、千年に一度の大震災でありますし、これは被災地の犠牲者に対する鎮魂、祈りと、そしてまた、地域の再生、復興に向けての意思表示をしようということで、意味を改めまして、当日の登録料はすべて義捐金に回そうというようなことで開催させて頂きました。先ほどの秋元パスト・ガバナーにもお出で頂きましたし、この中にもお出でいただいた方が多数いらっしゃると思います。とにかく、50周年の派手なところは抑えまして、祈りと連帯を中心にやらせて頂きました。年度が替わりまして、被災地に対して何かできることはないだろうかということと、地域の市民の方々に対する働きかけを何

かしようということで題材を探しておったのですが、たまたま被災地でロケーションをした映画がございました。私がたまたまそういった関係の仕事をしておりますので、そういった話については知っておったのですが、実はこの映画が出来て、初めて試写会をやりましたのが、震災の前日でございました。そして、ロケ地でも映画を公開する予定だったのですが、まったく出来なくなりました。見せると非常にショックの大きい、震災前の風景が映像に残ってしまし、エキストラで参加した人達のなかにも津波で犠牲者になった方がいらっしまったということもございました。しかしながら、その映画は戦争当時の東京大空襲の頃の映画でございまして、そしてそれがたまたま被災地石巻で長期ロケをしたと、そういう映画で、戦災と震災、これが非常に重なり合うということで、実はこの映画は自主制作でありまして、自主的にフィルムをお借りし、自主上映をするという映画でございましたので、成田で上映会をやるということで、一昨年の12月に一応試写会を行いまして新聞を通したり、いろいろな団体に声をかけ、見て頂きました。その結果いろいろな団体の協力を得まして、2月22日に成田国際文化会館で2回の上映会を行いました。おかげさまで2200万以上のご協力を頂きまして、特に第9分区の各クラブには、かなりご協力を頂きました。おかげさまで、映画の動員が大きく出来まして、各方面に震災地に対する思いが伝えることが出来たのではないかと考えております。たまたま八街の方に被災をされていたお菓子屋さんがありまして、映画のテーマが「エクレール」、洋菓子のエクレアですね、これを私共と一緒に作りまして、その売上金の1割と、映画の時の義捐金と、それから日常の活動の中で、昼食の費用を第1例会は少し節約をしまして、お金を貯めて、そして義捐金が纏まりまして、親クラブでもあります小川ロータリー・クラブにお役に立てていただきたいと義捐金をお持ちしました。これは、ロータリーの今年度の活動でございまして、来年度はどのようなかというのは白紙でございまして、やはり何か広がりのある、また継続性のあることについて、考えてみたいと思っております。

(中山委員長)

代表的なクラブ名を挙げさせていただき、お話ししていただきまして、いろいろと参考になった点もあるかと思えます。まだ発表なきっていないクラブにもこういうことをやっているよということがあるのも、重々承知しております。

いろいろな意味で、個人ではどうだ、クラブではどうだという社会奉仕活動ですが、ある例で先日、東京近郊ですけれども、あるホテルで帰宅難民が首都圏では多かったというなか、これも一つの社会奉仕かなということがありました。ホテルに多数の人間が避難してきた、そして朝になった時おにぎりや歯ブラシを全員に配った。その中にライオンのある程度の地位の社員がいらっしまった、その社員がその節には大変お世話になりましたということで、その時の分以上の歯磨き粉と歯ブラシをどんと贈った、という話がありました。ですから各企業、各個人でもそういう意味で、この首都圏から、また、街の人たちに何とかロータリアンとして万が一の時には対処できるかどうか、という部分がある程度もって、むしろ被害者になってしまう場合もあり得ますので、そういうことを皆さんのクラブで話し合っただけいたら有り難いなと思ひ、一例として挙げさせていただきました。

地区社会奉仕委員会としては、情報提供を一生懸命行いますし、どんどんガバナー事務所にご相談していただければ有り難いですし、ユニークな活動等参考になると思われる資料もたくさんありますので、ぜひともご連絡下さい。

以上



## 国際奉仕部会



パスト・ガバナー 増田 豁  
パスト・ガバナー 山中 義忠  
2012-13年度国際奉仕委員会  
委員長 村岡 実  
委員 森井 康夫  
委員 島 正彦  
(司会) 委員 岩崎 肇

### 1) 村岡 実委員長挨拶

皆様、こんにちは。今日は朝早くから大変御苦労様でございます。

2012-13年度、国際奉仕委員長を仰せつかりました、市川ロータリー・クラブの村岡でございます。私自身、国際奉仕に関する多くの知識や経験があるわけではございませんが、得居ガバナー・エレクトより「ロータリーの奉仕活動に専門家は不要である」とのお言葉に勇気づけられ、一年間微力ではございますが全力で奉仕させていただく事を決意いたしました。

私はこの地区委員と個々のクラブの国際奉仕委員長さんとの関係は、地区とクラブという関係ではなく、私もまた委員皆も1ロータリアンとして皆様と共に国際奉仕について学び活動をしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを致します。

### 2) 増田 豁PG挨拶

皆さん、こんにちは。国際奉仕委員会の活動というものもかなり変わってまいりました。

今日は一緒に新しい事を村岡委員長のもとで勉強したいと思います。宜しくお願ひ致します。

### 3) 山中 義忠PG挨拶

山中でございます。この国際奉仕委員会に出てきた最大の理由は、ここにある「国際奉仕・ロータリー財団」合同セミナーの案内です。これはロータリー始まって以来のことです。

手続き要覧を見ますと、国際ロータリーの中から国際ロータリーを始めとする四大奉仕というのが消えてしまっているんですね。クラブ奉仕はクラブの運営管理をするということでそのまま残りました。ところが、国際奉仕ははじめはどこにも出てこなかったのですが、来年

度のR I会長の田中作次さんが猛然と国際ロータリーの理事会で四大奉仕の存続を訴えられまして、あとで四大奉仕が復活しました。

ただし、国際奉仕に関して国際ロータリーから返して頂けるお金がすべて財団を使えということになっております。国際奉仕が得ようとする分野は、マッチンググラントしかないということだと伺ってまいりました。皆様のご意見を伺いまして委員長によいお返事が返ればよいと思っております。ありがとうございます。

### 4) 国際奉仕活動の現状と今後の活動計画について 村岡 実委員長

次年度の国際奉仕は青少年交換がR I常設プログラムと同様に新世代奉仕に帰属されました。また地区WCS活動も昨年R Iプログラムから廃止されました。今まで各クラブの国際奉仕活動の大きな柱の一部であった青少年交換と地区WCS活動が外されたことで、いくつかの地区内クラブは国際奉仕活動についての方向性を見失っているかもしれません。それゆえに次年度は地区国際奉仕委員会として、新たな展開を見出していかなければならない重要な年度になると考えております。地区内各クラブが行う国際奉仕活動のニーズは何かを探求し、助言できる体制を整備し、これを実行していきたいと思っております。

2013-14年度には「未来の夢計画」がスタートいたします。この「未来の夢計画」は次年度のスタートと同時に申請が可能になりますので、この新しい補助金のグローバル補助金を対象にして、これを有効に活用できるように複数のプログラムを、次年度は、各クラブ、地区国際奉仕委員会、地区ロータリー財団委員

会と共同して開発、そして申請までもっていく事を目標に努力いたします。申請をしてもWFのほうで申請が通るかどうかはまだ実際に行われておりませんので、何とも言えませんが、現在いくつかのクラブから今まで本地区では実績のない新たなプログラムの提案がすでに出てきておりますので、この内容につきましては後ほどご紹介させていただきます。また継続して各クラブが単独で行なっているWCS活動につきましては、この機会に是非、成功談や問題点等をご披露いただき、その活動が他の複数のクラブと共同して行える国際奉仕活動として、グローバル補助金が申請できるような大きな国際奉仕活動に発展させることが出来るものかどうか、皆さんと一緒に検討させていただければと考えております。また新しい国際奉仕活動のお考えや計画はあるけれど、単独では難しいような企画などがありましたら、是非多くのご提案をいただきたいと思います。簡単なこととは考えておりませんが、皆様からご提案いただく新しいプログラムの申請がスムーズにできるように、地区国際奉仕委員会として地区財団委員会と協力をして、各クラブのサポートをさせていただきたいと思います。

これらのことを勘案し、次年度の地区国際奉仕委員会は地区ロータリー財団委員会と合同セミナーを開催することといたしました。日程は次の通りです。

日時 平成24年8月4日(土)

10:00~16:00

会場 京葉銀行文化プラザ

対象 各クラブ会長、幹事、国際奉仕委員長、ロータリー財団委員長

このような国際奉仕委員会とロータリー財団委員会が合同でセミナーをするということは過去には一度も無かったことだと思います。しかしながら共に関連はしておりますし、逆に言うと国際奉仕という活動だけでなく、ある意味では新しい財団の補助金のシステムも一緒に学んでいければと思ひまして、今回は財団委員会と国際奉仕委員会と合同でセミナーをやらせて頂くということと致しました。

個々のクラブで財団委員長と国際奉仕委員長を兼任、もしくはロータリー米山奨学生委員会も兼任しているというクラブも多々あるかと思ひます。そのへんも含めると、財団と国際、もしくは財団と新世代と、社会奉仕もそう

ですが、すべて新しく生まれ変わる補助金制度に関しましては、共に理解をしていく必要があると思っておりますので、この合同セミナーの件に関しましても後ほど詳しくご説明をさせて頂きたいと思ひます。

この合同セミナーでは、まず「未来の夢計画」の補助金制度についてご理解をいただき、各クラブから提案された新しいプログラムに対して賛同していただける他の複数のクラブとグローバル補助金の申請が出来るよう協力していきたいと思ひます。本来次年度までは、従来通りの財団地区補助金でありますから、次年度のことだけを考えれば、なぜ次年度の事をやらなければならないのかとの疑問は当然あると思ひます。しかしながら、新しいプログラムの申請は補助金が認められたとしても、実行に移せるのは早くても次次年度になります。それゆえになんとか次年度に新しい補助金の申請ができればと考えております。

今、マッチンググラントというお話しも出ておりましたが、このマッチンググラントそのものも新しい補助金制度になってきますと、その縛りがかなり出てきますので、今までのように1クラブと例えば友好クラブの台湾や韓国などのクラブと自分たちで決めてやっていたものが今度は規模がある程度限られております。ですからあまり小さな規模のものは認められなくなっております。最低3万ドルのプロジェクトでかつ6つの重点分野に関わるもの、そして継続可能、検証可能なものというかなりの縛りが出てきますので、なかなか申請はしてもすぐに通るかどうかもこれからやってみなければ分からないということで、新しい補助金に対しては非常に重要な年度になると考えておりますので、どうか各クラブの国際奉仕委員長様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

またこの合同セミナーに於いては、従来の地区委員会主導型のセミナーではなく、参加者との双方向意見交換の場となるように企画させていただきますので、多数のご参加をお願いいたします。

次年度の地区国際奉仕委員会は他の委員会と同様に、委員長を含め4名の地区委員という構成上、卓話等の依頼に関しましては、機能的にも難しいことが予測できますので、どうか各クラブの国際奉仕委員長様が主体となり、双方向意見交換ができるような新しいプログラム

の検討や、国際奉仕フォーラム等の企画をお願いしたいと考えております。その場合の資料等のご協力ご相談等はさせていただきますので、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

地区委員会は個々のロータリー・クラブがロータリーの綱領を推進するのを助けることを唯一の目的とするため、地区国際奉仕委員会が独立した独自のプログラムを展開することはできません。奉仕活動の実践は個々のクラブの自治権の範疇にありますので、国際奉仕活動においても当然各クラブの自由であり、各クラブが積極的に独自の活動をしていただく事が本来最も望ましい姿だと思います。しかしながら、方向性を見失っているクラブや単独では活動に制限があるようなクラブがあるとすれば、新たな国際奉仕活動として、それぞれのクラブで検討していただけるようなプログラムの提案やいくつかのクラブが協力してひとつの国際奉仕活動をすることは可能だと考えます。

新しいプログラムを申請して、できるだけWFからの新しい補助金をなんとか使って頂きたいと基本的に考えております。この新しい補助金に関しましては合同セミナーの時に財団の織田委員長から詳しい説明をして頂いたほうが、私が半端な財団の説明をするよりはずっと理解をして頂けると思いますので、ここでは財団の新しい補助金に関しましては説明はできませんし、また質問に関しても的確なお答えはできないとは思いますが、簡単に申しますと例えばマッチンググラントであれば、個々のクラブがある程度負担をします。ところがWFから新しいグローバル補助金を申請してそれが認められますと、クラブからの負担は0になります。WFから50%、地区から50%で活動ができます。ところが、これをやりませんとWFに何の請求もないのでWFにあるお金が、地区のほうに全く入って来ないということになりますので、非常に活動範囲が狭まってしまうという状況が予測されますので、次年度の国際奉仕委員長さんとロータリー財団委員長さんと合同で色々な形で考えていきたいというのが今回の地区国際奉仕委員会としての考えでございます。

色々お話しさせて頂きましたが、次年度までは補助金の基本的な考え方も、もしくは国際奉仕委員会としても全く何も変わりませんが、次次年度からは大きく変わることをご理解頂き、そのための助走期間として次年度は非常に大

切な年度になるということを重ねてご理解を頂きたいと思います。

以上でございます。ありがとうございました。

## 5) 質疑応答

Q 1 : 船橋西RC国際奉仕委員会委員長

田村 泰一

私は長い間地区の国際奉仕、WSに関わって参りまして、WCSがフィリピンに一番最初に行ったのが1986年の黒田年度でございました。以降12回ほどフィリピンに参りましたが、最近は何国も変わり、WCSも最初と大きく変わって来ていることは承知致してはおります。しかし、RIとしてWCSを終了したということをお聞きしまして、その背景といいますか、それはどういうことだったのでしょうか。山中先生お話し頂けますか。

A 1 : 山中PG

国際ロータリーについて、私は2005年、新しいロータリー年度の世紀年ですが、その前のことは良くわからないのですが、そこから後は伺っております。一言で言うと会員数がものすごく増えたということです。インドや発展途上国の方々の入会を大幅に増やしました。ところが、クラブは出来たのですが、認証状伝達式もやったのですが、出てこないでそのまま消えてしまったということ、極端に言うともうそういうことです。RIのいわゆる個人会員の納めるものがどんどん減った。それと今まで良くやってきて頂いた各国からの上納金がだんだんと足りなくなってきたということで必死な思いをしている訳です。

ロータリーの奉仕がとてもしかたでもたなくなつた場合、国際ロータリーはどういうことをするかと申しますと、その財団の中でロータリーの私財といいますか、ロータリー財団ではなくてロータリー本部が持っておりますベネファクターというのがございます。

これはロータリーに貢献する人という意味でございますが、それを取り崩す、場合によってはそれは定期預金とか信託銀行の預金とかそういうものだけではなくて、不動産もあるわけですが、それに手を付けなければならぬくらいにまできました。どこにも発表しておりませんが、当時私がガバナーになった後に大きかったのは、その後の米国の会員減少でございまして、これが私の大先輩の田村さんの答えになるかどうか分かりませんが、今R

Iはイリノイにございますけれどもイリノイの本部は戦々恐々でございます、その中から従来の四大奉仕と謳っていたものに対してそれを全部統括する、それからロータリー本部でしたものは要するに会員からの供託金だけでやっていくという姿が維持できなくなってきた。それに追い打ちをかけるようにイリノイ州では、ロータリーは非営利法人で無課税になっていた訳ですが、不景気のために今度はイリノイ州もロータリーが公益のために団体活動をするを分かちやるとしてもある程度課税をしてもいいのではないかとということになっており、そのへんで今は昔のロータリーの本部とも違うということで四大奉仕を削ってしまったということです。

ガバナーをやりました者の特権の手続き手帳というのがございます。要覧に書いてあるところに四大奉仕とだけ書いてあり、あとはずっと抜けているんです。それからポンとページをめくると半分ずつ消えていて、そうするとそこに四大奉仕と出てくるわけでございます。これは2007年度版で、2010年度版はまもなく今度出ると思いますがそれにどう書いてあるか、一度消えたものを田中作次さんは頑張って復活させました。ただそれだけのことで皆様方の浄財をいかに使っているかと、どう使ったかということと本部のほうの国際奉仕というものに対しても、外国を見ていられない、自分のとこの事で背一杯だという姿が見えるのではないかなと思います。以上でお答えになったかどうか分かりませんが、どうでしょうか。

Q2：船橋西RC国際奉仕委員会委員長  
田村 泰一

ポリオはどうなったのでしょうか？

A2：山中PG

私は医者でございますけれども、2002～2003年に一応終息宣言が出た訳ですね。要するにもうポリオはやっつけたという声明が出まして、その後1年やめようかやめまいかで、そしたら今度またポリオが出てきて、ポリオがアフリカで数名新しいものが出るとそれが世界のポリオに繋がるかといいますと、そんなことは全然ありません。

ずっとやっていけば何年かで結局ポリオウイルスが生き残っている訳ではなくて、人間がかからなくなっているというだけで、日本の環境とアフリカの環境を比べると、日本はもうほ

とんどの人がやっているから出ない、人間がかからないということです。

ではポリオウイルスがこの部屋の中にないかと言われたら、そんなことは何とも言えないのです。いるかもしれない。アフリカやインドの奥地へ行かれた方がたまたま帰ってきてここにいらっしゃるとすれば、その方にくっついて持ってきているかもしれない訳です。

ただ病気がでないということであって、したがって終息宣言というのは、ポリオの壊滅、そういう言葉を使うということは医学的には全く意味の無いということでございます。

## 6) 国際奉仕活動の紹介

(森委員)

それでは私のほうから今日ご紹介させて頂くのは、まず浦安RCさんと茂原RCさん、それに合わせて私が今からお話しをさせて頂きます。

私ども市川東RCは来年で創立45周年を迎えます。その中で当クラブの姉妹クラブとして韓国のソウル東RC、また台湾の台北市北投RCの2クラブと姉妹クラブを締結しております。韓国については1973年のおおよそ39年前、北投RCにつきましては2006年ですので6年前から締結をして現状に至っております。

本日はその北投RCと我がクラブが締結した経緯を皆さんにお話しさせて頂いて、何かのお役に立てて頂ければと思います。宜しく願い致します。

まず、北投RCと知り合ったのが2005年の夏でして、この年はロータリー100周年記念の年でありまして、その事業の一環として台湾のほうに私どものパスト・ガバナーである長島洋三さんが訪華した際に向こうのパーティーの席上で実は北投RCというクラブが日本の姉妹クラブを持ちたいということでお話しがありまして、北投RCのパスト会長と私どもの長島さんが話をした上で、長島さんが帰国をしてそれから我がクラブに諮ったところいいんじゃないかということで、それをまた理事会にかけて承認を頂いて締結のできる元ができたということです。その時点から姉妹クラブ締結交流委員会を設置しまして、その委員会の中で何点か決めごとをしまして相手にお話をしたところ、私どもはソウル東RCと長い締結期間がございますが、ほとんど周年行事しか会わないという状況になっておりましたので、今回

締結するに当たって3年ごとの締結の更新をすることが大事だろうということになりました。3年という意味は周年行事を含めると最低でも4、5年に一回くらいは交流をしないとけないという状況が起きるものですから、3年間で締結を更新するというを1つ目の条件としました。

また、2つ目の条件としてはマッチンググラントをするという条件を提示しました。

それに伴ってクラブの予算も立てないといけないということで向こうに提示したのは\$3,000で、これで当初マッチンググラント用の予算を組んだ訳ですけども、現在は年額30万円ということで国際奉仕委員会の予算を立てております。

またこの6年間にわたって交流してきたわけですが、まずは提携をした2006年3月21日ですが、向こうの4周年に合わせて締結式を実施して、その翌年にはマッチンググラントをしようというお話しがきました。その内容はフィリピンのアルペイン町にある学校が雨が降るたびに浸水災害が起り学校がほとんど使えないという状況を改善したいということで、国際ロータリー第3520地区と、うちのクラブと一般の業者を含めて支援を致しました。またその翌年にはこれは台湾のエデン基金というのがあるのですが、これは日本で言えば社会福祉協議会みたいな位置づけになると思いますが、実はそこで小児用専用の車椅子が足りないとのことでした。それはなぜかといいますと今あるのが大人用のもので、子供が使うには成長を妨げてしまい、子供には子供専用の車椅子を作らなければならないだろうということで第3520地区のクラブと日本ですと私のクラブと他に東北から九州のクラブの6クラブが参加してマッチンググラントをさせて頂きました。

その車椅子は高く6万円ほどしまして、最終的には総台数520台くらいになっておりますので総費用は3000万円以上の金額が支出されていると思います。またその贈呈をする式はその年度の最初に12月8日に台湾の大きな公園で台湾総裁と台北市長を交えて、その関係したクラブが全員が集まって子供たちに寄贈式を行い、子供たちは大変喜んで頂き、有難く頂戴するというお話しでかなり私たちとしては良いものを渡せたなという感覚を持ちました。またその次の年度は、私のクラブと北投RCと単独なんですけど、実は車椅子を送っ

ただけども、それを運ぶリフト付きの福祉車両が欲しいという申し出があったものですから、それをやはり第3520地区の16分区の皆様とうちのクラブで5台ほど購入をしてお渡しを致しました。

それから翌年、今から3、4年前に、北投RCから今度は3年間継続で事業をしませんかというお誘いを受けました。事業内容は、インドの北部にラダックという村がありますが、その村には医者も居ないし、医療環境も整っていないので、そこで無料診断と治療を3年間続けてやりましょうというお話しを頂きました。

初年度はヒマラヤの山の奥なので物を運ぶのにヤクしかないもので、非常に困難でした。そこで、足を確保するためにまずトラックを購入し、またそのトラックに合った医療機器を揃えてまず体制を整えました。

2年目、今年からですが、その医療機器を使いながら、街の人たちや僧侶たちを健康診断と歯磨きの指導、風邪の治し方など1から10まで世界中の医者が参加して指導しています。今後についても継続してやっていこうとうちのクラブでは思っております。皆さんのクラブの中でもそういうことで国際奉仕が今後できる、またしたいと思われたなら、私が考えるには是非姉妹クラブを持って、沢山の交流をして姉妹クラブの直接関係する国でなくても第三国の奉仕に向かって計画をして頂いたらどうかなと思います。

とりとめのない私のクラブの話をさせて頂きましたけれども、これから皆さんが国際奉仕をやってく上で、どんなことをやってきたいのか今日はご意見を聞きたいと思っております。その前に私のほうから少し話をさせて頂いて、また浦安さんからもお話しを頂きます。その後、茂原さんからこれからマッチンググラントをするという話しも頂けるということになっております。是非よくお聞きをさせて頂いてまたこのあとに、地区でやれるかやれないかわかりませんが、ある程度のお示しをできるものをご紹介してからやって参りたいと思います。

なかなか難しいとは思いますが、もし私どもが分かることがありましたらどんどん質問して頂いて結構だと思いますので、宜しくお願い致します。

それでは浦安さんのほうから、発表をさせて頂きたいと思っております。

(浦安RC国際奉仕委員会委員長 植松 行永)

次年度の国際奉仕委員長の植松でございます。私は実は浦安RCでの入会から日が浅いのです。従いまして、浦安RCがどの程度の活動をしているのか本当のところはあまり良く分かりません。次年度会長の八木 諭のほうからペーパーは頂いておりまして、それを読ませて頂きます。浦安RCが1991年より実施しております「世界のめぐまれない子供たちのために」を趣旨としたチャリティーウォークはここ2年開催時期の問題や昨年地震でのレースの道路や公園の被害の状況などで実施できずしておりますが、最初にカンボジアとの関わりがはじまったのが1996年に「カンボジアに学校を贈る会」を通じてカンボジアにナムカン小学校の建設をし、贈呈したことからです。

その後は、この学校維持の為に図書室の建設や学校の補修工事、地域の識字教育、井戸掘りなど継続しておりますが、親クラブであります市川南RCとの合同夜間例会の折、卓話者にアトランタオリンピック銀メダルを取られました有森裕子さんを迎え、話を聞いた時、彼女もハート・オブ・ゴールドというNPO団体を設立し、代表としてカンボジアでマラソン大会を開催しながら、地雷で失った足で不自由をしている方達の話聞き、義足のプレゼントをしていることを知りました。

その有森さんの活動が浦安RCのチャリティーウォークで支援しているカンボジアという共通点がありましたので、カンボジアに学校を贈る会と共にハート・オブ・ゴールドの持続への援助を行いました。あとHIVやエイズなどについては今後の課題のようです。

短いですが現在浦安RCはこういう状況にあります。従って今後はまた新しい事を考えなければならぬかなと思っております。以上でございます。

(森委員)

ありがとうございます。

それでは先程お話し致しました茂原RCさんがこれからマッチンググラントをしたいというお話を皆さんにしたいということで正林さんのほうからご紹介をお願い致します。

(茂原RC国際奉仕委員会委員長 正林 義博)

茂原RCの国際奉仕委員長を次年度仰せつかりました正林でございます。どうぞ宜しくお願い

願ひ申し上げます。私どもは台湾の高雄の南の隣の屏東県(ピントン)にある屏東東RCさんと姉妹クラブを結んでおります。ほぼ一年おきに相互訪問を繰り返しております、本年度の4月に第8回目の再締結を調印致しました。最初は3年ごとでございましたが、今から15年前から5年ごとの姉妹クラブ再締結ということで更新をしております。

今年の4月の第8回の再締結の祭にマッチンググラントにつきまして先方の屏東東RCと第3510地区のほうからは是非マッチンググラントを行いたいという申し出がございました。つきましては、できましたらこちらの地区の補助金も頂きながらなんとかお役に立てればということでマッチンググラントについての構想を練っております。

主に医療関係につきまして是非良い方向での使い方をしていきたいということでの検討に入っておりますので、是非ともまた地区委員会のほうでご協力を頂ければありがたいと思います。さらに姉妹クラブ委員会を窓口に致しまして、それぞれの委員会と合同で次年度の会長エレクトと共に構想を練っていきたく思っておりますので、どうぞ宜しくお願いしたいと思います。ありがとうございます。

(森委員)

ありがとうございます。今正林さんのほうからお話しがありましたが、その他に皆さんのほうから今まで色々お話しを頂いた件に関して何かご質問があるようでしたらお受けいたしますけれども・・・宜しいですか？また質問の時間は別にとってありますけれどもとりあえず今の内容についてはそういう現状であるということでございます。それではこの次のお話しにバトンタッチをさせていただきます。

(岩崎委員)

これから私のほうでバギオ基金というお話しをさせていただきます。その次に園芸療法につきましてお話しをさせていただきますが、2時半過ぎになると思いますが10分程休憩をとりまして、その後全体での意見交換に続いてまいります。閉会は3時40分頃となる予定です。

それでは私のほうでフィリピンにございますバギオで展開されておりますバギオ基金について少々お時間を頂戴してお話しさせて頂

ければと思います。

バギオ基金は他地区がメインとなりまして開催されております。クラブ間の垣根を越えていくつかのクラブが力を合わせて基金を募りまして、その基金の運用益をもって奨学などを行っております。

またその地区以外の地区からも多くのロータリアンが参加してその基金を運用しております。

このバギオという所は、フィリピンの中にございまして、フィリピンは大変温暖な地域でございますが、バギオは多少高い所にございます。日本でいうと軽井沢のような所だとおっしゃられる方もおられますが、気候が大変穏やかな所でございます。

話しは変わりますが、戦前から海外では労働力確保という目的のために多くの移民を受け入れる政策が取られて参りました。ブラジルのコーヒー農園などは大変有名なのですが、実はこちらのフィリピンのバギオにもある工事のために移民を多く受け入れる政策を取って参りました。こちらでは比較的高所にありますバギオに道路を作るために移民を受け入れて参りました。

これが実は大変な難工事でございまして、この難工事を成功させるために実は当時アメリカの将校がフィリピンにいたのですが、日本人を受け入れようではないかと提案をいたしました。ご存知の通り、日本人の性格を大変良く知った上での日本人の移民の受け入れでありました。それは勤勉である、誠実である、清潔である、約束したことは守る、そういう人たちであればこの難工事も成功するに違いないということで日本人を受け入れようということで動き始めます。1903年日本人125人を乗せました東洋汽船（香港丸）がフィリピンのマニラ港に到着致します。

その難工事がどれだけ大変だったかという例え話があります。50mの工事をするのに人1人の人柱が立つという大変な難工事でございました。延べ2,000名がその工事に携わって700名が犠牲になってしまうというような工事でしたが、その勤勉さからその道路はなんとか完成しました。その工事が進む中現地に家族を持ち、幸せな生活を築いていたのですが、太平洋戦争が始まります。太平洋戦争が始まりますと、フィリピンは大変な激戦区になりました。60万人の日本兵がフィリピンに上陸致しましてそのうちの10万人ほどしか帰国

できなかったほどの激戦区でした。

その激戦地区の中でも最後の最後の激戦地区が今お話しさせて頂きましたバギオ地区でございました。

壊滅直前の日本軍がどうにか勝とうということで、日本語がしゃべれて、地理に詳しい日系人に助けを求めてまいります。日系人はもちろん協力をしていく訳なのですが、残念ながら日本軍は撤退をして参ります。ところが家族をもっている日系人はそこに残ってまいります。もちろん、戦争が終わった後は皆様が察する通りでございます。残った日系人は日本軍に協力したということで迫害を受けました。自分が日本人であるということをはた隠しにし、バギオ山中に身を隠しました。

そのような歴史的背景がある中、時を同じくしまして1911年、あるシスターの話しをさせていただきます。

このシスターを海野さんといひまして、1911年に静岡でお生まれになりました。その後、東京の豊島の師範学校を出まして大連で幼稚園長を勤め、1972年還暦を機会にフィリピンの貧しい人々のために余生を捧げようという決意を致しましてフィリピンに渡ってまいります。フィリピンに渡った海野さんは、バギオ山中で身を隠す日系人の存在を知ります。学校なども無く子供にも十分な教育もできません。大変はがゆい思いをしている日系人を見て、もう戦争も終わったんですよということで、海野さんご自身が山中に入って、山中から一人一人救出されたそうです。救出されました日系人、特に子供たちに豊かな教育を受けさせたいという思いを強く持っておりました。藁をもすがる思いだったかと存じます。そこで助けの願い出をしたのが日本にございましたロータリー・クラブでした。そこからこのバギオ基金が始まりました。

現在、子供たちに豊かな教育をしようという意思のもとに3200名ほどの奨学生を生み出しております。なおその3分の2は日系人の子供達でございます。現地でも窓口がございますので、全員が日系人という訳にはなりません。現地の貧しい方々にも豊かな教育を施しております。現在、こちらのバギオ基金は、東京臨海RCさんと地区にて専門委員会を設置して運営されております。

基金の運用益により毎年50名を超える奨学生を出しております。現地での奨学生に加え、2008年から同じくロータリアンが理事を

務めます敦賀短期大学に留学生を受け入れるという活動もしております。また留学中もロータリアンの縁でとある介護施設等で職場経験ができるということもアレンジをしております。

地区、クラブ間の垣根を越えてみんなで手を取り合ってこちらの基金が運営されております。世の中には支援の必要な方々が沢山ございます。その方々に差を付けることは勿論できません。ただ、その海野さんを含めて日系の方々の方がロータリー・クラブを頼ってお声をかけて頂いたという事実は忘れてはいけなかなと話を伺って感じました。またそういう方々のためであれば、クラブや地区の垣根を越えて是非とも手を取り合って支援をさせて頂きたいなと思いました。

本日のこの発表に際し、東京臨海RCの斎藤様に大変お忙しい中、貴重なお時間を頂きました。

またこちらの私の発表を機会に関心を持って頂けるクラブがございましたらバギオ基金の方々には是非例会等にお邪魔させて頂いて、色々な資料がございますので皆様に見て頂けたらというようなお話しを頂いております。是非とも関心をお持ちになった方がいらっしゃいましたら、委員会のほうへ一言問い合わせて頂けたらと思っております。

それではバギオ基金の方の話をこれで終わります。続きまして他のプログラムと致しまして園芸療法につきましてご紹介をさせて頂きたいと思っております。島委員お願い致します。

(島委員)

私のほうからは経過報告になります。遡りましてのお話ですが村岡委員長の方から、実は財団活動資金の活用方法が「未来の夢計画」で変わってきますと、なんとか新しい「新地区補助金」か「グローバル補助金」を有効に使う手だてがないであろうかということがひとつのテーマになっております。(新地区補助金とグローバル補助金の違いを明記：地区協議会冊子P61参照)

そのなかで、「人道的プロジェクト」という6つの重点分野をRIが求めておまして、そういうところを当委員会で勉強いたしてきましたが、実は松戸東RCの方にアメリカのニュージャージー州の第7510地区からあるリクエストがありました。それが「園芸療法」という聞き慣れないものですが、御存じのように千葉大学

園芸学部が松戸市にあります。この「園芸療法」というものはどうもアメリカが発端のように聞いております。退役軍人・傷痍軍人のように精神的にダメージを受けたひとたち、あるいは精神障害者の人達に園芸を通じてセラピーをおこなう術を確立してきたものです。アメリカのニュージャージー州にラトガース大学というのがございまして、そちらに千葉大学園芸学部の教授が赴きまして共同で研究をおこなっていかうではありませんかということがあります。このプロジェクトはアメリカのニュージャージー州の第7510地区がはやくからラトガース大学と共同で地域社会で実践していかうという取り組みをすでに進めております。ニュージャージー州の第7510地区が松戸東RCと千葉大学園芸学部とラトガース大学とでロータリーという関係を通じて「園芸療法」をやってみませんかという問いかけがあります。

今現在、私がニュージャージー州の第7510地区と連絡を取っているという状況です。従いまして、内容をお聞き致しますとこの「人道的プロジェクト」の二つ目の「疾病予防と治療」にあてはまるのではないかと感じております。従来の「国際奉仕」というところからは関係性が薄いような気がしますが、「グローバル補助金」を使う手だてになり、国際的にも国外にロータリーという組織の力を示し、プロジェクトを継続的におこなうことになるかと感じております。そういうところを松戸東RCに引き継いで頂いたらどうかと考えております。

(岩崎委員)

ありがとうございます。それでは、全体での意見交換を行いたいと思っております。その後、合同セミナーのご報告を致します。委員長、よろしくお願い致します。

(村岡委員長)

皆様、いろいろなご報告をありがとうございました。今、幾つかのクラブに実際に国際奉仕活動に関して今迄やってきたこと、継続してやっていくこと、また、新たに「マッチング・グラント」に挑戦して活動することをお聞き致しました。また、「園芸療法」に関しましては日本のどのクラブもやっていないものでして、どのように活動していくか、まだ先が見えません。花や木を育てるという過程の中でいろいろな治療効果があるということは聞いております。いろいろな障害を持つ人に園芸をとおして治



療を行うことが「園芸療法」の目的であります  
が、まだ経過報告ということでもあります。

また、「バギオ基金」に関しましては他地区  
も参加しておりまして、基金としてもしっかり  
している現状ですが当地区はまだ参加して  
おりません。このほかにも、国際奉仕活動を  
何かやってみたいと思うクラブがございま  
したら、ぜひ地区の方にご連絡を頂ければ  
幸いです。

今、3クラブが国際奉仕活動の報告を致  
しましたが、ご来席の国際奉仕委員会の方  
々でうちのクラブではこんなことをやっ  
ているよというものがございましたら、報  
告をして頂けたらと思います。如何でし  
ょうか？

(柏RC国際奉仕委員会委員長 萩原 宏次)

次年度からタイの子供たちにメガネを贈  
ろうと計画しております。最初は私個人が  
していたことなんですが、当クラブでや  
ろうと話は進みました。タイには日本語  
の解るクラブが2か所あります。スリオ  
ンというクラブがございまして、そちら  
のクラブのご協力を得てこちらからはメ  
ガネ、現地の法人からレンズを無償提供  
していただくという話の確約を得ており  
ます。次年度、この活動が進んでいくよ  
う望んでおります。そこで、日本から  
も、技術者を派遣して検査をしたり、出  
来上がったメガネをひとりひとりに合  
わせてあげるという活動を致します。そ  
の活動で、次々年度に、どのように費用  
がかかったかを算出しようという取り  
組みを始めております。

(村岡委員長)

ありがとうございます。これからの活  
動ということですが、今、いくつかの  
クラブからこういう活動をしていると  
報告を受けましたが、例えばレストラ  
ンなどで食事のメニューがあります。  
そのメニューにおすすりめ品が書いて  
あります。そこにいろいろな奉仕活動  
をあるいはこれからやろうとして  
いる奉仕活動を載せたら如何と思  
います。他のクラブに紹介する訳  
です。単独で今迄やられているクラ  
ブの活動からどうせなら規模を大  
きくして補助金をしっかりもらっ  
て活動したいと思うクラブがあれば、  
そのメニューにその活動内容を載  
せて他のクラブも是非一緒に申請  
しようと思うことがあれば、当委  
員会といたしましても、次々年度  
から補助金の申請を受けていくつ  
もの活動が出来ると期待してい  
ます。次年度あるいは今年度の  
地区84クラブの各国際奉仕委員  
会の活動報告、

クラブ活動書を見る限り、かなりの  
クラブは個々でいろいろな活動  
をしております。是非、この機会  
に合同で活動をして頂いて、可  
能性の高いプログラムを見出し  
て頂きたいと思っております。  
この場ではなかなか見出すこ  
とは難しいことではありませ  
んが、ぜひ、地区の方にこう  
いう国際奉仕活動をしたいと  
報告して頂けると、当委員会  
でも新しい活動として幅を広  
げる事ができます。

是非、この機会に皆さんのご  
意見をお聞きしたいと思っ  
ておりますが如何でしょうか？

(四街道RC国際奉仕委員会委員長 成島 弘)

国際奉仕活動をしているクラ  
ブは第2790地区では多いと思  
います。従来のWCSの活動が  
廃止になった理由を明確にお  
聞きしたいと思っております。  
それと、「未来の夢計画」が設  
定された理由もお聞きしたい。  
予算のことも鑑みれるが、如  
何でしょうか？

(村岡委員長)

WCSに関してですが、廃止の  
理由としましては、以前、地  
区が一人 1,000円/1年を  
集めて、それを地区が活動拠  
点に現金を分配致してあり  
ました。しかし、それが本当  
に良いことかどうかという  
ことが問題になります。真  
の奉仕活動かどうかという  
ことが問題になります。本  
来ならば、個々のクラブが  
行うべき事を地区が纏めて  
行うということが問題にな  
ります。お金を集めるだけ  
の地区の仕事は間違ってい  
ると考えます。個々のクラ  
ブが行うWCS活動になぜ  
地区が皆さんからお金を  
集めなければならないの  
か、甚だ疑問に思います。  
従いまして、廃止にな  
った理由はそこにあると思  
います。

それと、「未来の夢計画」に  
関しましては、ロータリー財  
団の織田委員長がお詳しい  
故に、私の方から説明は控  
えさせていただき、合同セ  
ミナーに参加されて是非御  
理解をしていただけるよう  
お願い致します。

(四街道RC国際奉仕委員会委員長 成島 弘)

ロータリー一年度是一年  
ですから、また来年にな  
ったら変わるということ  
も可能性はあると思  
います。如何でしょうか？

(村岡委員長)

ガバナーは変わるかも  
知れませんが、この「未  
来の夢計画」に関しては  
変わらないと思ってい  
ます。

(島委員)

「未来の夢計画」＝「Future Vision Plan」  
と申します。

「グローバル補助金」を使うには、国際奉仕活動と財団が連携して活動するしか方法がありません。財団の方も織田委員長を始めとして皆、努力をしております。特筆すべきは、次々年度の「未来の夢計画」が実施されないと第2790地区といたしましても、なすべきことはありません。従いまして、この計画を各々が各クラブに持ち帰り、検討して頂けると幸いです。よろしくお願い致します。

#### 7) 山中PG 総評

皆様の個々のロータリー・ライフを尊重致します。クラブの自治権は各クラブにあります。そのことを振り返って下さい。ありがとうございました。

## 新世代奉仕部会



パスト・ガバナー 杉木 禰夫  
パスト・ガバナー 中村 博亘  
2012 - 13 年度新世代奉仕委員会  
委員長 津留 起夫  
RYLA担当委員 羽鳥 鋭一  
ローターアクト担当委員 嘉 規 洋  
R 青少年交換担当委員 岡村 美智子  
一般プログラム担当委員 渡邊 元貴

### 1) 委員会自己紹介

2012～13年度2790地区新世代奉仕委員会を開催いたします。私は、今年度と来年度も新世代奉仕委員長をいたします。市原RCの津留起夫と申します。よろしくお願いいたします。それでは担当委員の自己紹介を一人ずついたします。

RYLAを担当致します、鴨川RCの羽鳥鋭一と申します。よろしくお願いいたします。

私はローターアクトを担当という事で船橋西RCの嘉規洋と申します。よろしくお願いいたします。

私は、ロータリー青少年交換担当の佐倉RCの岡村美智子と申します。よろしくお願いいたします。

私は一般プログラムを担当いたします。木更津東RCの渡邊元貴と申します。よろしくお願いいたします。

### 2) PG自己紹介

私は茂原RCの杉木禰夫と申します。04～05年度皆様には大変お世話になりました。また、この委員会は、RCの中でも大変重要な委員会でございます。どうか宜しくお願いいたします。

私は09～10年度ガバナーをさせていただきました柏西RCの中村博亘でございます。この新世代の分野は、2010年度から新しくなった分野ですが本当は、大変歴史の古いものです。そしてローターアクトに一番力をそそいでいくのが新世代分野になります。私も98年

までローターアクト委員会をさせて頂いていました。オーストラリアとの文化交流使節団を毎年交換していました、その団長を92年と96年にさせて頂いた、そう言う立場でありますから少しは若い方たちの話が解るつもりですが、これからの新世代に向かって皆様が正しいプログラムを創って頂くことを私は期待しています。どうか宜しくお願いいたします。

### 3) 津留起夫委員長挨拶

地区協議会冊子P36～37参照

### 4) ローターアクトの現状について

ローターアクト2790地区 代表 増山 繁

ローターアクト2790地区の代表をつとめています。増山と申します。よろしくお願いいたします。

今、ローターアクト・クラブは、地区内に休会クラブを含めて9クラブございます。千葉県内、約80名のメンバーで活動しております。やはりメンバーの減少によって活動が衰退しているのが現状です。行事は、地区大会、地区年事フォーラム、地区交流会など各クラブに担当をお願いしておりますが、人数が少ないため運営の方が難しく中でも一番の問題は地区内のローターアクト同士の交流が難しくなっている事です。当然の如く全国ローターアクト研修会や関東ブロック研修会などに参加する人数も少なくなっているためローターアクト同士の交流する機会が少なくなっているという

事を感じています。

## 5) RYLAの現状について

### RYLAスタッフ安藤八重(ローターアクト卒業生)

安藤八重と申します。今は実家のある匝瑳市に住んでいます。32歳で看護婦をしています。2002年7月から2011年6月まで9年間船橋西ローターアクト・クラブに在籍して居りました。今はローターアクトを卒業し、今年度からRYLAスタッフとして参加をさせて頂きました。

#### (第35回RYLAセミナー)

2月18日(土)～19日(日)の2日間、船橋市立一宮少年自然の家にて各ローター・クラブより推薦派遣された14～30歳までの約80名が参加し、歩行ラリーを教材として研修が行われました。

参加者を3つのユニットにわけ、1日目、2日目の2度の歩行ラリーの勝敗を競います。普通の歩行ラリーとは異なり進路を示す地図がかなり難解で、1日目の歩行ラリーでは一組もゴールできないほどです。

その後ユニットごとに地図の読み方を研究し2日目の歩行ラリーに挑むわけですが、この研究がいかにか上手いくかによって勝敗が左右される仕組みになっています。

#### (スタッフとしての感想)

私自身はじめてRYLAスタッフをしてみて、RYLAの研修でしか経験できないことの多さに驚きました。

まず1つ目は、1人では解けないような難解にぶつかるという経験です。学校の勉強では解らない問題があれば先生や友達が教えてくれるかもしれませんが、会社でもどうしてよいか見当もつかないような仕事を任されることはまずないでしょう。

2つ目は、その日初めて知り合った人と協力して難題に立ち向かうという経験です。日常生活の中では、初めて知り合った人と挨拶くらいはしても何かについて議論するなんて経験はまずしないのではないのでしょうか。

3つ目は、昨日出来なかったことが皆の力を合わせて今日はできるようになったという経

験です。部活や受験勉強、会社での仕事など今までの人生で努力し困難を達成した経験は誰にでもあると思いますが、2日間という短期間の間にそれを経験することは稀なことではないでしょうか。

このような日常からかけはなれた状況の中にあり、参加者のみなさんは2日間という短い時間で大きく豹変していきます。

1日目の歩行ラリーが終わった直後には疲れ果て明日もう一度歩くななんて考えたくもないという様子の参加者が、ユニット内での研修を経て地図の読み方を攻略すると、2日目の歩行ラリーのスタート地点には意気揚々と立つ姿が見られました。

歩行ラリーは2人でペアを組み、1日目、2日目とも同じペアで歩くのですが、1日目の歩行ラリー時には知り合ったばかりでぎこちない様子の2人が、2日目には困難を分かち合うことで絆が生まれ旧知の友人のような雰囲気になりました。

開講式ではユニットごとに着席していても退屈そうでそっけない素振りだった参加者が、皆で協力しひとつの目標に向かうことで達成感を感じ、閉講式では別れを惜しむ姿が見られました。

2日目の研修の中で『チームワークとは何か』『リーダーシップとは何か』と試行錯誤しながら80名の参加者が得たものはそれぞれことなるものかもしれませんが、親睦を通しての奉仕の理念にかかげ人と人の関わりを大切にするローター・クラブの精神が参加者の多くに伝わったことを確信しています。

また次年度、第36回のRYLAセミナーでたくさんの若者がローター精神に触れ豹変していく時にスタッフとして関わられることを楽しみにしています。

## 6) 質問・感想及び委員会の回答

出席票の提出をお願いしました。その備考欄に記入されている質問・感想などを下記に集計し地区委員会の回答を付けました。番号は便宜上のクラブ番号です。

出席票提出 75名 出席RC 60 出席率71.4%

1) 市川RC 新世代奉仕委員長 佐藤信廣

地域の小中学校児童・生徒を対象に「夏休み読書感想文教室」を開催し本年で4回目を迎える。年々期待が高まり、本年は参加者が75名となる盛況でありました。今後も新世代奉仕委員会として続けていきたいと思ひます。

<回答>

新世代奉仕は常設4プログラムしかないような誤解があります。全世界のロータリアンは、視野を広くして若い世代に対して係わりを持たなくてはなりません。貴クラブのようなプログラムを84クラブが独自に開発・展開されることを期待しております。

3) 市川南RC代理 有村 忠

まだ勉強中で明確にお答えできませんが、ロータリアンとして知識を高めてまいりたいと思ひます。尚新世代の若い人類が将来平和な暮らしができるように、インターアクト、ローターアクトの教養を身につけなければならない重要性を、本日の協議会を通じて感じました。

<回答>

是非、新世代に関するロータリー情報を研究してください。下記ホームページをご覧ください。RI・ロータリー文庫・ロータリーの友・多地区等です。先人が私たちのために残してくれた英知に触れ、ロータリアンとしてライフワークにしていきたいと思います。

4) 浦安RC新世代奉仕委員長 佐藤 伸

P53の資料その3(青少年交換プログラムが認められていない地区リスト)の中にRID3720(韓国)がありますが理由はなんですか。第24回インターアクトの国外研修報告書はRID3720地区を訪れている。

<回答>

RIが認定しない理由は分かりません。地区認定を必要としているプログラムは、青少年交換プログラムだけです。他のプログラムについては該当しませんが、「青少年と接する際の行動規範に関する声明」「虐待及びハラスメント防止」に関するRI方針は、全てのプログラム

が遵守しなければなりません。第24回RID3720訪韓は、全行程に委員会が同行し安全が確保されているとガバナー及び委員長が判断して行いました。

8) 船橋西RC 新世代奉仕委員長 高宮幸子

今年度アクト担当を受け持っています。アクト在籍者は14名おりますが例会に出席される会員は、3~4名と少なくこの一部のアクト委員しか会えませんが、アクトの方々1年間に何かのテーマを持ちそれを共有しながら参加意識と会員の絆、仲間意識を強めるようにして行けたらと思ひます。次年度新世代委員長を受け持ちますので、その点を推し進めたいと考えております。

8) 船橋西RC RYLA・ローターアクト委員 平山樹也

ローターアクトの例会に出席していますが、出席率が低く会員数も減少気味であり、ローターアクトの認知度を上げる方法論や魅力あるクラブ運営とはが気になっている。ローターアクトのない地域はある地域に呼んで連絡網を作りローターアクト・クラブも増やしていく。

<回答>

高宮委員長のご見識の通りです。他の提唱RC委員会の悩みも同じ様です。しかし、私たちはだからと言って投げ出してはなりません。ロータリーは4人で始まりました。出席できない仲間が「連帯・共有・連係」を持ち続けるよう指導してください。幸い嘉規RA担当委員が貴クラブにいますので、平山委員のご意見の通り、情報を共有できるネットワークを構築していきたい。

10) 船橋東RCローターアクト委員長

佐々木光博

ローターアクトの会員増強について

<回答>

永年RAに関わりを持つ佐々木委員長ですから、現実的な諸問題を肌で感じていると思ひます。その観点から、地区委員会や各提唱RC委員会に対し、適切なお意見をいただきたいと思ひます。

18) 千葉東RC新世代委員 武田 康

ローターアクト卒業生・RYLArianは、どのくらいロータリアンになれるのですか。交換学生を一人検討中。

<回答>

ローターアクトがロータリアンになった実績を調べるために、実態調査(アンケート回収)をします。青少年交換Pは、地区委員会のフロント・プログラムです。是非派遣が実現することを期待しております。

20) 千葉南RC新世代奉仕委員長 植松省自  
ジュニアRYLAの年齢の下限は、何歳くらいか

<回答>

ジュニアRYLAは、セミナーの内容から16歳以上20歳未満で、高校生中心で考えています。

21) 市原RC新世代奉仕小委員長 山本順也

今日の説明で理解が深められました。インターアクト顧問の先生とコミュニケーションをしっかりとりたいと思います。

<回答>

是非、インターアクト顧問教師と連絡の濃密化を図ってください。そこから、IACの活動内容やその活動にRCがどのような援助や合同活動(社会奉仕)が出来るか等、具体的な話がでますので期待をしております。

23) 市原中央RC新世代奉仕委員長  
鎗田眞徳

ローターアクト・インターアクトを充実していくためには、一般の方々にもっと活動内容を知っていただかなくては難しいと感じます。ロータリー・クラブ自体がもっと広報を充実すべきと思いますが……。知られていない、何をやっているのかわからない組織にたいして、評価もない状態ですから、知って頂く広報に少し予算をとと思いますが、如何でしょうか。一般向けには言葉を考えた方が良いでしょう。日本語で誰が聞いても解りやすい表現の方が発展につながるように思います。

<回答>

ロータリーの広報については、いろいろ方策を取ってはいますが、委員長がご指摘の通りまだまだ至らない点が多いのは事実です。提唱事業の充実に関しては、広報を駆使しながらも、ロータリアンが自ら新世代に汗をかきながら語りかける姿勢も必要と思います。

27) 上総RC新世代奉仕委員長 田中伸之助

インターアクト：3つに大きく分かれていることに驚いた。交換についてちょっと怖くなる(ハラスメントについて)。日本人はあまり意見を言わないが、外からの交換生は何を考えているのかわからない。

<回答>

インバウンド(受入)生徒は、親善大使として派遣されて来ます。夏は帰国の時期ですが自国と日本(千葉)の文化・生活習慣などの違いを体験した結果、互いの価値感を尊重する重要性を認識したはずです。それは、青少年交換委員会のオリエンテーションのなかでも派遣生は繰り返して述べております。

30) 木更津東RC新世代奉仕委員長  
勝呂泰樹

インターアクトで保護者へのアピールや説明のやり方方法など。

<回答>

IACは、学校のクラブとして活動をしています。ロータリーが直接生徒に指揮することは出来ません。従って、校長先生・顧問教師・保護者が対象になるわけですが、パンフレットなどの小冊子などはRI日本事務局から入手できます。また、「ロータリーの友」「ガバナー月信」「クラブ会報」などの配布は、効果が期待できるはずです。

33) 富津シティーRC管理運営委員会  
代理 渡邊 敏

会員数が少なく新世代活動が出来ていない状況です。RYLAプログラムの理解と参加を進めていく。

<回答>

RYLAへの派遣をお願いします。また、新たな取り組みとして次年度青少年交換のうち

短期交換（2013年夏休み）を計画してください。短期派遣は、経費は少会員クラブでも実行可能な範囲です。ホームステイ日数も数週間だけです。是非トライしてみてください。・

#### 34) 館山RCインターアクト委員長

富永雅人

ローターアクトについて、堅苦しい例会ではなく友好を広げるような形でローターアクトの運営に取り組んでいます。20歳から30歳仕事を覚えながら、教えてもらいながらの世代なので、例会日を設定しても出席できず2、3人の例会となってしまうことが多いです。土・日は自身の時間としたいので例会は不可。

#### 34) 館山RC新世代奉仕委員長 齊藤三郎

ローターアクト・クラブの拡大を図りたく、クラブ一丸となって行っています。

<回答>

RACの運営は、千差万別で同じものはないようです。しかし、そこにロータリアンがどのような関わり方をしているかは、提唱RCによって大きく変わっております。RACの例会に、ロータリアンが卓話をするなど活発に関わりを持つことも大切なことだと思います。RACは独立した組織立てとなっておりますが、ロータリーは、その組織を指導することに加えて、彼らを刺激する何か良い材料を見つけてください。

#### 35) 鴨川RC新世代委員長 鈴木 敦

提唱ロータリー・クラブとIAクラブの交流の実際例がありましたら教えていただきたい。IAクラブ（学校側）とどのように関わったら良いのか迷っている。

<回答>

クラブ委員会に顧問教師を招いて、年間活動計画や要望などを聞いてください。コミュニケーション不足が、大きな障害になります。地区委員会は、顧問教師と提唱クラブ委員会との濃密化を促進しております。例会に教師が卓話する。学校にロータリアンが訪問し、合同例会や合同社会奉仕などをするなどが考えられますが、いかがでしょうか。

#### 37) 千倉RCインターアクト委員長

松村武朗

県立安房拓心高校は、進学校のため学校行事との調整が難しくインターアクトの行事に参加するのに苦勞をしている。担当の先生の努力により新入生の入会が8名有り又二年生も2名入会して今後は楽しみである。

<回答>

「IACは学校の顧問教師の手腕にかかっている」と、多地区のベテラン委員長が言っておりましたが、顧問教師との連絡濃密化を継続してください。地区インターアクト行事にも極力参加していただければ幸甚です。

#### 38) 鋸南RC新世代育成（一般プログラム）

三橋美子

クロス・プロモーションとして、一般プログラムが出来たことは良いことと思います。県内被災者のニーズ調査は、個人的な情報が多いのでそれを統括してクラブでの活動へシフトしたいです。

<回答>

7月7日に社会奉仕委員会と新世代奉仕委員会合同セミナーを開催します。是非参加をしていただき、貴クラブの活動に加えていただきたいと思っています。

#### 40) 茂原RC青少年交換委員長 山田則彰

RYLA、青少年交換など一般の人々（学生）を対象とするプログラムにはそれなりの慣れた人々が必要ではないのか？

<回答>

地区委員会組織と人事は、ガバナーの専権事項なので何とも言えません。地区青少年委員会に永く係わってこられましたので、ご意見等頂ければ幸甚です。

#### 41) 東金RC新世代奉仕委員長

小久保 良行

インターアクトでの高等学校内での活動内容の説明がない。青少年交換プログラムの受入・送出しの経費が明確でない。

<回答>

地区委員会が活動内容を把握しようと報告書の提出を提唱RCにお願いしておりますが、

行き届いておりません。活動内容把握は、それぞれの提唱クラブ内の範疇ですが、年3回顧問教師と地区委員会・提唱RC担当委員会との合同会議があります。その中で、日々の活動内容を把握している現状です。また、交換事業の経費は、派遣クラブの範疇です。従って地区委員会が把握はしておりません。しかし、モデルケーススタディーとして、経費情報を配布します。

4 4) 成田空港南RC新世代奉仕委員長  
杉森幹男

青少年交換プログラムにおけるハラスメントに対する周知をどういう方法で伝えるかが問題になるのでは?と考えます。(意思・意識統一の問題)

<回答>

地区委員会では、本人・保護者・担当委員・カウンセラー等の関係者のみにオリエンテーションを行っていますが、受け入れる前にクラブ内でそのオリエンテーションを活かしたフォーラムを開催してほしい。また、地区委員会は、そのオリエンテーション内容を公開する必要がありますので、検討いたします。

4 4) 成田空港南RC新世代委員RYLA委員長  
森川 忠

危機管理に関する対応について新しい発見がありました。青少年交換については、交換留学生の希望者はいるが、受入側の説得が肝要です。

<回答>

RIは zero-tolerance policy (ゼロ容認)を取っています。性的虐待あるいはハラスメントの報告を知ったときから、その事実か虚偽かは別にして、72時間以内にRIに報告する必要があります。さらに危機管理委員会です。その事実関係を調査し、結果を再度RIに報告し合わせて警察に届け出なくてはなりません。この間の判断は全て危機管理委員会の範疇です。また、危機管理委員会には、ロータリー内部でもみ消し等がないことの担保として第三者が入っております。青少年交換Pは、経費は勿論のことホームステイ宅が確保できないという理由で敬遠されているRCもあります。業者手配のホームステイは除いて

ロータリアンの関与できる範囲(自宅の地域)又は国際交流を行うボランティア団体との提携を開発する必要が出てきていると思います。

4 4) 成田空港南RC青少年交換委員長  
河野和夫

何故RAやRYLAでロータリーの基本である「職業奉仕」についてのカリキュラムが含まれないのか。ロータリーに係る以上これは大切と思う。理由は、市場主義の様な社会問題を解決する一歩となるのではないだろうか。若い人たちに、早いうちに理解にてもらうことは大切と思う。日本のことを良く理解した人(歴史・文化)を交換生として出せるようにする努力。

<回答>

更に検討が必要と思われますので、後日再回答をいたします。

4 6) 茂原中央RC 新世代奉仕委員長  
荒井賢二

一般プログラムについて内容を詳しく知りたい

<回答>

7月7日に社会奉仕委員会と新世代奉仕委員会合同セミナーを開催します。そこで一般プログラムの内容の一端を見ることができます。

4 7) 大網RC RYLA委員 林 武徳  
受入OKです。

<回答>

ありがたい申し出に感謝いたします。

5 1) 八日市場RC新世代奉仕委員長  
伊藤達裕

当クラブも前にはインターアクト・クラブがありましたが、今は活動していませんが再挑戦してみたいです。

<回答>

是非、再構築にトライしてください。新世代奉仕委員会は汗と知恵と資金の三位一体型の委員会です。社会奉仕を通じて生徒に刺激を与えることの大切さは言うに及ばず、貴クラブの奉仕活動の多くをIAC再構築に向けて、クラブの活性化にもつなげていただきたい。



5 2) 銚子東RC地域社会・新世代奉仕委員長  
平野恭男

資料が大変良かった。よく分かりました。

<回答>

ありがとうございます。

5 6) 佐原香取RC新世代奉仕委員長  
坂本文夫

一般プログラムに参加したいと思います。

<回答>

7月7日に社会奉仕委員会と新世代奉仕委員会合同セミナーを開催します。その際、貴クラブ独自のプログラムを創設してください。

5 8) 八街RCインターアクト委員長  
木村利晴

インターアクトの交流がなかなか計れない。相互の時間的都合である。国際交流においてはホームステイの受け入れで、ロータリアンがすべて受入可能な状態ではないので、担当委員だけではなくクラブ全体で受け入れなければ無理がある。現状は国際交流に行ったインターアクターの家庭にお願いしている状況です。

<回答>

IACの生徒との交流は、時間的な制約があります。しかし、年3回はIA三大事業の報告も兼ねて、時間を融通し合い例会に招待し卓話をさせてください。また、ロータリアンとの合同社会奉仕活動を計画してください。IAC生徒の国外研修派遣は、提唱RCもしくは学校や派遣生徒宅のホームステイ受入を条件にしています。日数は2日間ですが、それでも受入が困難であるようです。それは、ロータリアンとインターアクターとの距離が大きく離れ、人ごとのような錯覚が起きているのではないのでしょうか。ご自分の孫と思えるならば向き合う意欲も違ってくるのではないのでしょうか。是非、顧問講師との連絡濃密化とインターアクターとの交流を盛んにしてください。

5 8) 八街RC新世代奉仕委員長 中山直樹  
一般プログラムで、クラブでの役割はどのような事をすればいいのか。

<回答>

7月7日に社会奉仕委員会と新世代奉仕委員会合同セミナーを開催します。そこで一般プログラムの内容の一端を見ることができます。

6 0) 白井RC新世代奉仕委員長 及川喜美郎  
青少年交換プログラム(長期)は、費用負担を考えると複数クラブ連携して行くと良いと思慮致します。ロータリーの留学制度について一般広報してはどうでしょうか。

<回答>

現在募集は、84クラブにお願いしております。委員長のご意見の通り一般広報の有効な手段として、千葉県教育委員会の後援を青少年交換プログラムに付ける方法があります。さすれば千葉県内約197校に案内を発送しても、くず箱に捨てられる恐れはないと思います。しかし、併せて地区の委員会予算も勘案しなければならず、今後の検討課題としております。日本34地区の中では、分区に1名の青少年交換生徒の派遣を義務化しているところもあり、費用は分区構成クラブが応援をしています。会員数が少ないクラブだと経費の問題でこのプログラムに参加できない場合があります。当地区でも10クラブが1クラブを助ける相互扶助制度を模索しなければならないと思います。委員長のご意見にあります「複数クラブ分担型」の交換事業を模索致します。

6 4) 我孫子RC新世代奉仕委員 仙田和雅

この1月に入会した者です。今日は勉強のつもりで参加しました。一般プログラムとして取組可能な事案を研究・サポートしていきたいと思います。取組の実例を知る機会を得たい。

<回答>

7月7日に社会奉仕委員会と新世代奉仕委員会合同セミナーを開催します。そこで一般プログラムの内容の一端を見ることができます。

6 6) 柏西RC新世代育成委員 杉山 智  
委員会テーマについてお話を。

<回答>

意識の連帯・情報の共有・動きの連係です。RID2840(群馬)森田 均PGより頂きました。

67) 柏東RC新世代奉仕委員長 中山 勲一  
始めてですのでよく分かりません。参加を繰り返しながら勉強していくつもりです。

<回答>

是非、新世代に関するロータリー情報を研究してください。下記ホームページをご覧ください。RI・ロータリー文庫・ロータリー友・多地区等です。先人が私たちのために残してくれた英知に触れ、ロータリアンとしてライフワークにしていきたい。

68) 習志野RC新世代奉仕委員長 吉野晴彦  
新規の事業やプログラムの変更があり混乱しておりますので、内容を精査して、出来る事、出来ない事、そして努力して実行できる事があるかを考えていきたいです。

個人的意見として、RYLAの年齢区分は、22歳（一般大学卒業年）としてはいかがでしょうか。

<回答>

ジュニアとシニアに分けて行うRYLAの年齢区分は、20歳以上と未満にしました。ご理解をください。

69) 八千代RC新世代奉仕委員長 飯田充明  
私たちのクラブでは、IAもRAも取り組んでおりません。どのようにスタートしたらいいのか教えてください。

<回答>

RA・IAは、提唱先大学・高校を探してください。IAの場合は、校長先生に日参するのみです。汗と知恵と資金の三位一体。但し提唱事業が成功した後は、その熱意がリバウンドで無関心になりがちです。RIの手続き等は、地区委員会で何時でもお手伝い致します。

75) 松戸RC青少年交換委員長 林 希一

受入のロータリアン家庭の確保が困難であることが一番の問題です。

75) 松戸RC インターアクト委員長 篠宮 功

まず、地区委員会のテーマ「連帯・共有・連係」を念頭に置いて活動をしたいと思います。明日5月1日のIA指導者講習会でお世話になります。よろしくお願ひします。

75) 松戸RC新世代奉仕委員長 山田 達郎

新世代奉仕委員会の位置付をどうすべきか検討しています。青少年交換委員会、インターアクト委員会、新世代のための委員会（RYLA）の委員長によって構成される。

<回答>

新世代奉仕委員会は、小委員会の統括という立場になりますがインターアクトとRYLAのクロス・プロモーションを念頭に置いて頂きたいと思います。来年6月に高校生を中心としたジュニアRYLAセミナーを計画しております。そのセミナーにインターアクターを多数派遣してください。また、RI常設プログラム以外の一般プログラムについて関心を持ってください。7月7日の社会奉仕委員会と新世代奉仕委員会の合同セミナーが、84クラブの活動方向に大いに役立つ事を期待しております。青少年交換でネックがホームステイ宅がないことは、よく承知しています。ご自分の周りに目を向け、自宅地域の方や、国際交流ボランティア団体との提携を視野に入れてください。また、ロータリアン家庭の受入が難しいのは、ロータリーが家庭の中に浸透していないことも大きな原因ではないかと思ひます。ロータリーの広報は、奥様にこそ必要であると思ひます。ぜひ、地区内2762名のロータリアンは、家族の団らんでロータリーの1分間スピーチを行いましょう。

76) 松戸東RC新世代奉仕委員長 湯浅健司

ロータリーに入会して1年半のため、親睦と会報以外は担当したことがありません。本日、聞くこと全て初耳な事ばかりです。質問・意見交換が頭に浮かんできません。

<回答>

是非、新世代に関するロータリー情報を研究してください。下記ホームページをご覧ください。RI・ロータリー文庫・ロータリーの友・多地区等です。先人が私たちのために残してくれた英知に触れ、ロータリアンとしてライフワークにしていきたい。

78) 松戸中央RC 新世代奉仕委員長

岡村廣志

新世代や青少年に関心を持ち、考え関与しよ

うとすることが、ロータリーの真髄の一つであることに、目を開かされました。

<回答>

委員長のご意見の通りです。ロータリーがロータリアンを創るように、ロータリアンは若者を社会に貢献できる社会人になるように支援しなければなりません。若者が放った希望の矢を見届ける義務があります。新世代をライフワークにしてください。

出席票のみ提出者

- 2) 市川東RC 山中右次
- 7) 船橋RC新世代奉仕委員長 桜井忠久
- 11) 船橋南RC SAA・新世代委員長 石井 博
- 13) 千葉RC 代理 櫻井 守
- 15) 千葉西RC新世代奉仕委員長 三上 浩
- 17) 千葉幕張RC新世代奉仕委員長 原 啓介
- 19) 千葉若潮RC新世代奉仕委員長 加藤時春
- 22) 千葉港RC新世代奉仕委員 鎗田義徳
- 23) 市原中央RC新世代奉仕委員長 鎗田眞徳
- 26) 木更津RC新世代奉仕委員長 松崎洋仁
- 28) 富津RC RYLA・青少年交換委員長 神子 恒
- 28) 富津RC新世代奉仕委員長 本間英一
- 29) 富津中央RC奉仕プロジェクト委員長 佐藤信泰
- 31) 君津RC新世代奉仕委員長 隈元雅博
- 32) 袖ヶ浦RC新世代奉仕委員長 鈴木貴志
- 34) 館山RCローターアクト委員長 富江喜一
- 36) 勝浦RC青少年交換学生アシスタントカウンセラ 鈴木覚三郎
- 36) 勝浦RC新世代奉仕副委員長 小林悠紀
- 36) 勝浦RCインターアクト委員長 岩瀬文夫
- 40) 茂原RC新世代奉仕委員長 金坂一郎
- 40) 茂原RC RYLA委員長 岩瀬和仁
- 48) 東金ビューRC新世代奉仕委員長 野島正宏 代理前島康夫
- 50) 旭RC新世代奉仕委員長 篠崎一海
- 53) 佐原RC新世代奉仕委員長 金沢義茂
- 56) 佐原香取RC RYLA委員長 石井隆道
- 59) 印西RC新世代委員長 浅海輝行
- 63) 柏RC新世代奉仕委員 仙田和雅
- 65) 柏南RC新世代奉仕委員長 関口和行
- 66) 柏西RC新世代育成委員長 染谷照夫
- 71) 八千代中央RC新世代奉仕委員長 門屋高靖

- 74) 佐倉中央RC新世代奉仕委員長 山川成美
- 77) 松戸北RC新世代奉仕委員長 寺川忠男
- 80) 野田RC新世代奉仕委員長 田中鐘一
- 82) 野田東RC新世代奉仕・ロータリー情報委員長 遠藤博一
- 84) 野田セントラルRCプログラム委員長 飯塚 博

## 7) 杉木 禧夫PG総評

皆様大変長時間にわたりお疲れ様でした。この新世代委員会大変重要な委員会でございます。来る7月以降田中作次RI会長は、皆様ご承知の通り「奉仕を通じて平和を」というテーマを掲げております。と云って平和はそんなに近いところにあるのかと申しますと、これは永遠いつ来るのか皆目見当も付かない大きなテーマでございます。これを我々世代がもちろんやる努力をするわけでございますけれども、若者世代にも託したいということで、ロータリーはこのような新世代委員会を設けながら、やっつけようとしているわけです。

しかしながら考えてみますと、青少年交換プログラムにしましても、これは実はロータリーでは一番成功したプログラムと言われている次第でして、当地区も以前は年間に長期の留学生20人前後を輩出した時代もございました。私の長女も実は厄介になった次第でございますけれども、行って参りますと先ほど津留委員長がおっしゃいましたとおり、確かに若い世代、高校時代でありますから、外国に行ったりしますと大きく成長することは誰もが認めるところでございまして、大変効果的であるわけでございます。しかしながらですね、近年2~3人がいいところというまで激減をしております。これはどういうことであるかということで皆さん方が今日熱く色々な検討をされたと思います。

ここに問題があるわけでございまして、何故か？と費用的なところに参りますと、私は各クラブが、先ほどローターアクトのところで中村パスト・ガバナーの方からお話がございましたけれども、お金が実はかかるんだよと、そのお金がかかるというところがやはり、最終的に各クラブが積極的に動きづらいうところが残念ながら、この時代背景と共に生まれてきてしまった。

そしてまた今の若者に対しまして、広い世界というよりも、どちらかというと甘やかしてですね、今の若者はどっぷりぬるま湯の所に居れば一番楽でありますから、そんな時代背景があるとこんな風に思っている訳でございます。

これの一つの鍵が、最終的に各クラブが青少年交換委員会で交換留学生を常時輩出しますと、1人当たり100万円以上かかるわけですから、これを解決しないことにはなかなか難しい問題が生まれてくると感じております。この鍵が先ほど中村パスト・ガバナーがご指摘ございましたとおり、ロータアクトでもお金がかかるのだけれども、それでも何とか青少年を育成したいというために、柏の3クラブ団結をして若者を支援する、お金の面でもそういうことでやっておられるという成功しているというお話でございます。我々の分区・地区においても是非、津留委員長を中心として、現実的なお金の問題についても是非、これ実はお金については禁句になっていまして、私も実は青少年関係のカウンセラーを5・6年やってまいりました。行く方は確実に素晴らしいプログラムだとみんな共鳴するのでありますけれども、最終的には各クラブが現実的には残念ながら動いていない、無関心だというような状況でございます。ここらが最終的に一番のネックが有るように思うわけですから是非ですね、津留委員長を中心と致しまして、是非ここらあたりをどのような形で、クラブに負担をいくらかでも軽減できるような、できれば地区内84クラブがこぞって、若者を支援しようとするのも一つの考え方でありまして、また現実に受益をする若者がいる家庭に於いて、受益者負担みたいなものもいくらかでも考えてもいいのかなと、このように私は個人的に思うのでありますけれども、ここらを言いますと、ややロータリーらしくないなということに波及していきまして難しいところが有ろうかと思っておりますけれども、いずれにいたしましても、ここらあたりを是非、津留委員長に色々な意味で現実的なところをご検討頂きまして、より活発な若者に道が拓けるように是非一つお力を發揮して頂きたいと思っております。

大変まあ唐突なお金の問題を言いまして、なんかロータリーらしくないとお思いでしょう

けれど、現実的には私はそこがネックだと、この五つの委員会、色々な意味で各クラブが立ち上げても、そこらに支援をしていく事が不可欠でございます、これをしないクラブが有れば立ち上げるスポンサークラブとしての意味がないわけでございますから、どのような形で若者に手を貸すか、ここらが84クラブの一つの大きなテーマだと私は思うわけですから。

以上でございます。今日は大変御苦勞さまでございました。

## ロータリー財団部会



公益財団法人 R日本財団 副理事長  
パスト・ガバナー 森島 庸吉  
2012 - 13 ロータリー財団委員会  
委員長 パスト・ガバナー 織田 吉郎  
副委員長 伊原 清良  
プロジェクト開発担当委員 平野 弘和  
奨学金担当委員 小野塚 雄  
補助金担当委員 関 一 憲  
R平和フェロシッパ担当委員 青木 忠茂  
R平和センター ホストエリアコーディネーター補佐  
山崎 敬生

### 1) 森島 庸吉PG挨拶

本日は早朝より地区協議会へのご参加ご苦労さまです。昨年公益関連三法でロータリー日本財団が誕生いたしました。従前、ロータリーの寄付は免税の対象にはなっておりませんでした。2003年より、日本の法人として免税の対象となるべく努力してまいりました。昨年やっと内閣府から認定を頂きました。

従いまして、昨年度ご寄付をされた方もいらっしゃると思いますが、大変な恩典となっています。例えば、1万円を寄付すると、4千円が戻ってくるようになります。これで、長らく日本の文化として根付いていなかった寄付と言うものが定着し始めるものと感じました。

本日の地区協議会では、得居ガバナー・エレクトの素晴らしいお話が有りました。その中で、一番最後に得居さんが生きる道についてお話しされ、皆様方も感銘を受けられた事と存じます。

実は、私も肝に銘じておりまして、日常絶えず考えております。一番最後にガバナー・エレクトは2度も3度も仰いました。「人が生きるという事は、誰かに借りを作るという事だ」私共は決して一人では生きられない者で、多くの方々の、或いは全世界の方々のお恵みを受けながら、食事一つとりましてもお世話になっている訳であります。ガソリンをとってもそうですし、あらゆる面で全世界の方々への支え無しには、人間は生きてはいけないのであります。

従いまして、私共が生きていると言う事は、今までお世話になった物の一つ一つを回収して行く長い道のりでございます。

そのような事を考えておりますと、やはり、ロータリー財団も長い歴史の中で、全世界のあらゆる場所で、大変な努力をして、必要とされている人々に対して奉仕活動をしてまいりました。

そしてそれらは貴重な寄付でありまして、豊かだから寄付をするというものではなくて、それぞれの人が思いやりの心で、他人に何かをするという優しい心で、少ないながらも集まった浄財でございます。この事を考えますと、先程の話ではございませんが、やはり人生と言うのは恩返し道のりであると言うことが切々と身に沁みってくる次第でございます。

本日お集まりの各クラブの委員長様には、クラブにお帰りになりましたなら、この辺の事を良く会員の皆様方にお伝え頂きたいと思えます。

やはり、良い事をするには財源が必要でございます。決して、寄付と言うものは財政的に豊かであるとか、沢山の所得があったから出来る、と言うものではないように私は思います。

関東地区での各県の寄付の実績を見た事が有りますが、財政的には千葉県よりはるかに恵まれない県が、千葉県よりも多額の寄付をしているという実績がございます。私共もその辺を良く考えまして、地区内で進んでこのような活

動をして行かなければならない、と考える次第でございます。

昨今地震・津波関連の報道がされております。東北の高校生が出ておりました。「自分は恵まれている訳ではない。自分も被災者である。しかし、自分よりさらに困っている人が目の前に沢山いる。そう言うのを見ているとじっとしてられない。知恵を出すなり、時間を提供するなり、或いは若干のお金を出すなり、何らかの形で人の役に立ちたい」と言っていました。

また昨年の地震の時には、アフリカの我々より遥かに貧しいと思われる人達や子供たちが、少ない自分の小遣いの中から寄付をする。このような事は何処から来るのでしょうか。私共はロータリーで人生の修業をしております。人を思いやる心を例会で勉強しております。それを一緒に実践しようではありませんか。私も微々たる物ではございますが、協力を長く続けて行こうと思っております。要は、マザー・テレサの言葉ではありませんが、どれだけ多くの寄付をしたかと言うよりも、どれだけ心のこもった行い（寄付）をしたか、と言う事が重要だと思います。

今日一日、財団の勉強会を通じて、実りのある協議会になる事を祈念して、私の挨拶といたします。

## 2) 山崎 敬生R平和センター ホスト エリアコーディネーター補佐挨拶

みなさん、こんにちは。

私は、ロータリー平和センター ホストエリアコーディネーター補佐の山崎と申します。実は 2790 地区の役員ではなく、ロータリー平和センターに於いて、平和における日本での活動を手助けしております。

本日、得居ガバナー・エレクトが素晴らしいお話をして下さいました。地区協資料の得居ガバナー・エレクトが仰った 15 ページの 4 をご覧下さい。ここに、田中R I 会長エレクトが定義する「平和」である、「心の平安」や「家族の幸せ」「満足感」また「人間の基本的ニーズが満たされた安全な状態」と言うのが有りました。田中R I 会長エレクトの平和に対する強い思いから、2012-13 年度のテーマは「奉仕を通じて平和を」になりました。

本日これらの話を伺いながら、私の中に昨年の東北大震災とそれに巻き込まれた福島原発の事が思い起こされました。毎日余震に震えながら、災害直後の放射能を恐れ不安で一杯になりました。特に、柏や松戸には多くの放射能が降ってきました。

その時に思った事は、子供たちが外に出た時に、放射能の影響はどうか？大変心配になり、不安になりました。それまでの自分は、日本はなんて平和な国なんだろう。安全な国なんだろう、と思っておりました。「平和な日本」がいつか「不安な日本」に変わりました。

日本の場合は原発ですが、世界では戦争、紛争、テロが起こっており、今日は大丈夫だったが、明日はどうだろうか？子供を外に出して大丈夫だろうか？買い物に行っても大丈夫だろうか？こう言う状態が続いています。

この様な世界を少しでも変えようと立ち上げたプログラムが「ロータリー平和フェロシップ」です。

このプログラムのお話しをする例えとして 3 大話と致します。

3 大話と言うのは、田中R I 会長エレクト、サブR I 元会長、そしてポール・ハリスであります。この 3 名がこの話に関係がございませぬ。

ポール・ハリスは生前、「戦争に向かう道は舗装されている。しかし、平和への道は棘の道だ。」と言っていました。棘の道を行くがごとく、身は切られ、困難を乗り越えねばならない大変難しいものである、と言う事です。そのポール・ハリスが亡くなられたのが 1947 年です。それから 50 年経った時に、ポール・ハリスを記念するプログラムを作ろうと言う事になりました。

その事を提案したのが、17 ページの真ん中に載っている、英文の詩を述べたサブR I 元会長でした。ポール・ハリスの言葉から、没後 50 周年のプログラムとして、「世界の紛争解決と平和研究の為のロータリーセンター」を 2 年間精査して立ち上げました。その立ち上げに苦勞されたのが、田中作次R I 会長エレクトです。

田中R I 会長エレクトは、ずーっと我々と共に平和に対する活動をして参りました。だから、平和と言う事に関して強い思いが有ります。従いまして、次年度R I テーマに平和と言う事を

持ってきたんです。

この平和に関するプログラムは 10 年前から始まりました。10 年前と言いますと、本日ここにおられる森島さんのガバナーの時でした。その時の R I 会長はビチャイ・ラタクルさんでありました。織田 P G 年度の年次大会で素晴らしいスピーチをされた事を皆さんも覚えておいででしょう。

プログラムの詳細につきましては、後ほど担当の青木さんから説明が有ると思います。このプログラムは、ロータリーが初めて平和に立ち向かったプログラムです。当初アジア圏で唯一、平和研究センターとなったのが東京三鷹の国際基督教大学で、2002 年から毎年、世界の厳しい選考に合格した平和研究者が、7～10 名来日し 2 年間平和研究をして世界へ進出しています。この 10 年で 80 人を超えました。

そのお世話を東京、神奈川、千葉、埼玉の 6 地区で受持ち担当しています。当地区から毎年カウンセラーを出し、皆様からの浄財 2 万 5 千ドルを毎年寄贈しています。私共の仕事は、その方々がより良く平和研究が出来るような環境作りとか、平和研究をしている人たちが活躍していることを、世間に広報しご理解を頂くことであります。過去 10 年「ロータリー平和センター」の活動等につきましては、過去のガバナー月信やロータリーの友をご覧になって下さい。殆どが 11 月号に載っています。その記事をご覧になってご理解を賜りたいと思います。

このプログラムは、他人がやっているのではありません。皆様方がやっているのです。と言うのは、先にも述べましたように、過去 10 年間で寄付されたお金が、2790 地区から毎年 2 万 5 千ドルこの活動に寄贈されているからなのです。このお金は自分たちの寄付から賄われておりますので、自分が参加していると言う風にご理解して頂きたいと思います。

皆様の年度のテーマは「奉仕を通じて平和を」です。どうか田中 R I 会長エレクトの平和への思いを受け取り、このプログラムへのご理解ご協力を宜しくお願い申し上げます。

### 3) 大きく変わるロータリー財団

織田 吉郎委員長

地区協議会冊子 P 5 6～6 2 参照

### 4) クロス・プロモーションが必須の財団活動

伊原 清良副委員長

地区協議会冊子 P 6 3～6 5 参照

### 5) 未来の夢計画における財団

[グローバル補助金一人道支援プログラムについて]

平野 弘和プロジェクト開発担当委員

地区協議会冊子 P 6 6～6 9 参照

### 6) 奨学金制度が大きく変わります

小野塚 雄奨学金担当委員

地区協議会冊子 P 7 0～7 3 参照

### 7) 地区補助金を活用して下さい

関 一 憲補助金担当委員

地区協議会冊子 P 7 4～7 7 参照

### 8) 平和の為に躍動する年

青木 忠成 R 平和フェロシップ担当委員

地区協議会冊子 P 7 8～8 2

### 9) 質疑応答

Q 1 : 我孫子 R C R 財団委員会委員長

瀧日 明

寄付金控除は法人・個人ともに控除でしょうか？

A 1 : 森島 P G

法人・個人ともに税額控除となりますが、40%の控除は個人のみです。

Q 2 : 我孫子 R C R 財団委員会委員長

瀧日 明

我々が寄付したお金は一度財団に入り、マッチング・グラントや地区補助金として支給され

ますが、財団から支給されるのでしょうか？どう言う風なお金の流れが有るのか教えてほしい。

A 2：織田委員長

皆さんの寄付金はWF（国際財団）へ集められます。そこで、3年前の年次寄付と恒久基金の利息、50%がDDFとして地区で使える財源となります。しかし、この50%全部が戻るわけではありません。この50%の更に50%、つまり全体の25%が新地区補助金として現金化されて戻ってくることになります。今までは50%丸々地区の裁量で使えた物が25%になってしまった訳です。残りの25%に関しては、WFによってプログラムが承認されると個別にWFからの同額補填分を含めて支給されて来ます。従いまして、WFからプログラムが認められない限り、我々は25%の新地区補助金しか使う事が出来ないことになってしまいます。グローバル補助金については、その採否について我々は決定権を持っておりません。ですから、どんどんグローバル補助金申請をして行かねばならない訳です。WFによって承認されなければ、つまり地区のグローバル補助金が使われなければ2790地区のグローバル補助金としてWFに貯まって行くことになります。ですからグローバル補助金申請のプログラムを沢山用意する必要が有るのです。

Q 3：我孫子RC R財団委員会委員長

瀧日 明

では、我々が寄付したお金は一旦日本財団に入るんですか？

A 3：森島PG

直接国際財団に入ります。日本財団は協力財団として、各国の財団は全て、その国の税制における恩典を得るために存在しています。日本財団を通過して税制上の措置をした後、国際財団に入ります。

Q 4：成田RC R財団委員会委員長

設楽 正行

WCSの計画を申請する時期は、従来と同じ9月迄でよろしいでしょうか？

また、新地区補助金として降りてくる金額は25%とお聞きしましたが、我々は今後、自分の

クラブが3年前に寄付した金額の25%の計画しか立てられないと言う事でしょうか？

A 4：織田委員長

後の問いからお答えいたします。3年前にクラブで出した寄付金の25%と言う事ではありません。地区に戻ってくるDDFを使う権利は地区内全クラブに均等にあります。たとえ3年前寄付ゼロクラブだったとしてもDDFを使うことをためらう必要はありません。ひとたび3年前のクラブの実績を忘れて、今ここにある地区DDFを有効に使うという視点で考えて下さい。DDFの中から、新地区補助金として地区に戻ってくるお金が3年前の年次寄付と恒久基金の利息の50%の更に50%、つまり25%と言う事があります。これは地区で自由に使って良い資金となります。この新地区補助金は比較的小さいプログラムを推進するためのお金になります。新地区補助金のプロジェクトの目安は、1つのプロジェクトの金額が1万5千ドル未満です。これに対して、DDFからのグローバル補助金の目安は1万5千ドル以上と言う事になります。プロジェクトの大きさとしては、1万5千ドルは地区から出します。それと同じ金額をWFが同額補助をしますので合計3万ドル以上のプロジェクトにして下さい。これに満たないプロジェクトは、新地区補助金でご自由におやりください、と言うのが国際財団のスタンスです。その年度に予定している全てのグローバル補助金を使い尽くすことができると仮定しますと理論上は寄付と利息全体の75%を使うことができるわけです。とにかくプログラムの大小を問わず、のびのびと企画して下さい。その企画が新地区補助金対応かグローバル補助金対応かは随時相談してゆきましょう。活動資金源は財団にあるのですから是非有効に使っていただきたい、というのが地区財団委員会の願いです。

最初の質問に関しましては、まとめの項でお答えいたします。これも新地区補助金対応かグローバル補助金対応かで変わってきます。

Q 5：新千葉RC R財団委員会委員長

江澤 寿彦

私は30数年のロータリー歴でございますが、毎年毎年ロータリー財団には寄付をさせられ



て参りました。敢えて、させられたと申し上げます。殆どの会員の方が、自主的に財団へ寄付すると言うよりも、財団委員会の委員が一人一人回って集金しています。恐らく殆どのクラブの現状だと思います。一人1万円ずつ集めたとして、何に使っているのかと言われると答え様が有りません。2790 地区ではいくら集まって、何にいくら使ったかと言う報告が全くありません。報告が無いので皆に集金の際に説明できず心苦しい。この辺をどうお考えでしょうか？

A 5：織田委員長

現在の財団委員会も、折に触れて情報は流しております。また、毎年国際財団よりガバナー事務所経由で各クラブ宛てに年次報告書を届けております。一冊しか行きませんので事務局に積み上げられているのではないのでしょうか？この年次報告も今年度からホームページ掲載のみとなるようです。冊子にはなりません、随時チェックできますので訪ねてみて下さい。

Q 6：大原RC R財団委員会委員長

土屋 利夫

様々なプロジェクトの開発や、実施されているプロジェクトの視察など、現地を見ないと分からない、判断できないと言うものが有ります。その際に視察の為に旅費などはどのように取り扱ったらよろしいのでしょうか？

A 6：平野プロジェクト開発担当委員

補助金の中にはそういう旅費も含まれております。但し、補助金が確定する前のものに関しては、確定してしまえばよろしいでしょうが、確定しなかった場合は補助対象ではなくなりますから、危険だと思います。クラブ負担か、個人負担になろうかと思えます。

(織田委員長)

旅費に関しては新地区補助金では、海外で奉仕活動を実施したりあるいは調査をするための旅費は出ます。しかし、グローバル補助金に関しては出来ません。P61を参照して下さい。

Q 7：野田セントラルRC R財団委員会

渡辺 昭

我々のクラブでもWCSに参加しマッチング・グラントをやって来ました。計画書を英文

で書かなければならず大変苦勞しました。今回のグローバル補助金の申請等、英文で書かなければならない物に関して、地区財団でサポートして頂けるのでしょうか？

A 7：織田委員長

グローバル補助金に関しましては、パイロット地区の事例を見ますと英文の方が通りが良いそうです。日本語で書いても良いのですが、情熱が伝わりにくいそうです。地区財団でも何らかのお手伝いは出来ると思いますので、いつでもご相談下さい。

Q 8：我孫子RC R財団委員会委員長

瀧日 明

色々なプロジェクトへの参加申請が有りますが、手続きの為のマニュアルが有ると良いと思いますがいかがでしょうか？

A 8：織田委員長

出来ることでしたら次年度の後半くらいから、2790地区のマニュアルの様な物を作って行きたいと考えてはおります。今回の地区協資料もそれなりにわかりやすくまとめたつもりですから、この資料を更にバージョンアップさせていければと思っております。

10) まとめ 織田 吉郎委員長

皆様、大変長時間にわたりお疲れ様でございました。

最後に資料のP60・P61をご覧ください。業務サイクルと、新地区補助金とグローバル補助金の違いをまとめてあります。

まず業務サイクルを見て頂きます。全てのプログラムは計画年度・実施年度と2年にまたがって推進されてゆくことになります。計画年度は得居年度(次年度)、実施年度が関口年度になりまして、ここから「未来の夢計画」実施年度に突入ということになります。つまり、得居年度でやらなければならない事は、新地区補助金の業務サイクルですと、①クラブが事業計画を作成 ②クラブが地区へ申請 ③地区が財団へ一括申請、ここまでが新地区補助金計画年度の業務となります。

先程、マッチング・グラントの申請は9月迄ですかと言うご質問がございましたが、これが次々年度に実施する新地区補助金の枠内であ

れば、3月～4月までに提出して頂ければ間に合います。

それがグローバル補助金対応でしたら一年を通じて申請は可能となります。これも得居年度は計画年度で、①財団に計画書を提出する ②財団より指摘事項あれば提案書修正 ③財団に申請書提出 ④6か月以内に財団から申請書承認 という流れとなります。

新地区補助金は小さいプロジェクトに、一方、3万ドル以上の大きなプログラムで有れば、グローバル補助金を使っていただくこととなります。いずれにしても次年度は、待った無しの助走が始まるという事であります。来年何もしないでいると「未来の夢計画」の初年度を棒に振ってしまう事になります。次々年度の当地区の予測予算はDDF総額は18万5千ドルです。その内の6万8千ドルとプラス、繰越金が4万5千ドル程の、合計11万3千ドルがグローバル補助金として使える資金となります。これを使わず、このまま残してしまう、と言う事は大変残念なことです。

何としても、次年度皆さんの力をお借りして離陸させたいと思っております。3万ドルのプロジェクトを3つ、受け入れる計画を持ってお待ちしております。

また、財団のグローバル奨学生に関しましては、一人6万ドルを2名送り出せる準備をしておりますので、積極的にプログラムに取り組んで頂きたいと思っております。

皆さんどうかよろしくお願い致します。本日は長時間にわたり本当にありがとうございました。

## ロータリー米山記念奨学会部会



公益財団法人 R 米山記念奨学会副理事長

パスト・ガバナー 平山 金吾

2012-13 年度 R 米山記念奨学会委員会

委員長 平野 一隆

委員 秋葉 幸男

委員 織田 信幸

委員 時田 清次

### ・協議会の進行の説明

- 1) 地区委員長挨拶とお願い。米山奨学事業DVDの鑑賞含む
- 2) 地区委員挨拶とお願い
- 3) 平山金吾 P G 講評
- 4) 質疑応答

### ・配布資料の確認

- クラブ米山記念奨学会委員長の手引き
- 豆辞典
- 米山学友の群像 vol. 3
- チラシ米山記念奨学事業DVDシリーズのご紹介/請求書

### 1) 平野 一隆委員長挨拶

次年度、地区ロータリー米山記念奨学会委員長を仰せつかりました大原RCの平野です。ここで当委員会を構成する委員を紹介いたします。

松戸RCの織田信幸です。

市原中央RCの時田清次です。

茂原RCの秋葉幸男です。

私を含め4名は、得居ガバナー・エレクトの方針の通り、地区の米山委員として携わることとなりました。

今日に至るまで、事業を理解すべく皆様にご理解いただく努力をしてきました。勉強不足は否めませんが、一年間寛容の精神でお付き合いください。そして、さらなる地区の米山発展にお力をお貸しください。

さて、次年度地区ロータリー米山記念奨学会委員会に対し、得居ガバナー・エレクトは次のことを念頭に置き活動するよう示されました。

「日本のロータリアンが世界に誇れる、他に類を見ない優れた奨学金制度であります。この奨学金の素晴らしさとその意味するところを、

地区内クラブ会員全員に一人残らず知ってもらえるような、啓蒙のための活動をお願いします。

地区内会員に、更に徹底して、制度の趣旨の理解を深めていただけるよう活動してください。そして、要望のあるクラブへは勿論のこと、必要に応じ地区委員が各クラブに卓話の機会をいただいたり、意見交換をする機会（常に双方向意見交換をすること）を与えて貰うようお願いし、実行してください。」と、おっしゃっております。

しかしながら、この活動方針と言うべき「地区内クラブ会員全員に一人残らず知ってもらえるような、啓蒙のための活動」は、我々地区米山委員会だけでは到底無理があります。もちろん、我々も精一杯の活動をする所存ですが、ここに集まったクラブ米山委員長のご協力なくしては考えられません。どうぞ、それぞれのクラブで「クラブ会員全員に一人残らず知ってもらえるような、啓蒙のための活動」をお願いいたします。そのことが米山記念奨学事業推進

の力となり、その先に寄付金の増進に繋がり、目的とするところの人材育成の数にも反映されることとなると思います。そして、得居ガバナー・エレクトの話にあった、田中R I 会長のおっしゃるところの平和に繋がる事業が米山記念奨学事業だと認識しておりますので、地区及び各クラブの委員にご活躍していただきたいと考えるところです。

そのためにまず、クラブ米山委員長の皆様が制度の趣旨に理解を深めてください。是非よろしく願いいたします。先に行われました PETS におきまして、我々委員 4 人は、「米山記念奨学会についての理解を深める努力をしながら、もう既に『米山ファン』となってしまうました。」と申し上げました。そして、クラブ会長の皆様にも『米山ファン』になってくださいとお願いいたしました。クラブ米山委員長の皆様にもぜひ『米山ファン』となっていただくことをお願いいたします。

それでは先ず、我々がそうであったように、米山記念奨学会が作成した DVD を最初に見てください。

#### ○米山記念奨学会作成 DVD を鑑賞

いかがでしたでしょうか、この DVD は他地区の紹介でしたが、当地区でも同様なことが行われております。先に行われた 3 月で終了する奨学生の歓送会に出席させていただき、その席でこの DVD と似たような話に触れましたことを皆様にお伝えしておかねばなりません。このような DVD 上映の機会の他にも、米山記念奨学会制度の理解推進及び啓蒙のためには様々な手法があると思いますが、そのことについては後ほど細部にわたり別の角度からご提案させていただきます。

次に「豆辞典」の説明と目標とする寄付金額についてお話しさせていただきます。

お配りしています「豆辞典」は大変分かりやすくよくまとまったものですので、必ずお読みください。同じように、各クラブ会長にもお願いしております。米山月間に先立って、一人ずつ行き渡るよう配布予定になっています。最初に「豆辞典」を、次に「クラブ米山記念奨学委

員長の手引き」をお読みいただくのが効果的と考えます。

寄付金額についてお話いたします。「豆辞典 P.14」のグラフをご覧ください。第 2790 地区の個人平均寄付金額は、全国平均よりほんの少し多い 15,000 円となっています。しかしこのグラフの当地区より上に位置するのは、神奈川・埼玉・京都・奈良・東京・大阪等の大都市は勿論のこと、新潟や関東地区では茨城・栃木・群馬までもが入っています。このことを知った時とても驚きました。皆さんはどうお考えになりますでしょうか？千葉がもう少し上にきてもいいのではないかと・・・とも考えます。

また、日本全国で寄付金は年々減り続け、2012 学年度には全国で 800 人採用できた奨学生数が、2013 学年度は 700 人と減っていきます。日本のロータリーにもっともふさわしい国際奉仕事業と言っても過言ではない米山記念奨学事業を衰退させないためにも、このような経済状況の中ではありますが、昨年と同じ金額を維持、さらに上回るように活動したいと考えております。

そこで、次年度の当地区個人平均寄付目標金額（普通寄付を含む）を 15,000 円以上とお願いしたいと思います。

これは、普通寄付上期・下期 2,000 円ずつ（必須）の他に、全会員が 11,000 円以上寄付をすることによって達成できます。1 年間に 11,000 円、月に 1,000 円です。また、個人・法人の大口寄付により更に金額が増えます。そちらも是非勧めていただきたいと思います。また、税制上の優遇措置につきましては、別に説明いたします。

私からのお願いは最後になりますが、クラブ米山委員長セミナーを 8 月下旬に予定しています。ここでは、地区からのお願いや案内に終始することなく、得居ガバナー・エレクトがおっしゃる意見交換の場となるよう考えております。皆様のご出席と、忌憚のないご意見をお願いいたします。ありがとうございました。

#### 2) 地区委員挨拶とお願い

次に、米山記念奨学会委員会の主要な役目であり「寄付増進」「奨学生・学友」「選考」につき、お願いとご提案をさせていただきます。

## (A) 寄付増進について (時田清次委員)

寄付金担当を仰せつかりましたが、寄付をしてくれと言っても抵抗があると思います。まず、得居ガバナー・エレクトの方針に従って、この奨学会の素晴らしさ、意味するところを地区内、クラブ内の一人残らず全会員に知ってもらうため、啓蒙活動をすることです。その中で、奨学会が必要であり、我々が何をしなければいけないのか？と言うところで、寄付をしなければいけないことにたどりつくわけです。

まず、啓蒙活動についてどうするか。委員長の話にもあったように「豆辞典」に全て書かれています。今年度版をベースに話をさせていただきます。「豆辞典」の P.5 に「事業の使命」が記載されています。読みますと『将来、日本と世界とを結ぶ「懸け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成することです。これは、ロータリーの目指す“平和と国際理解の推進”そのものです。』ということで、平和を目的とした人材を育成していくのに米山記念奨学会が必要であること、あとこの事業は、国際ロータリーではなく、日本ロータリー独自のものであることが、この半世紀に渡り受け継がれてきている事業の内容です。

『日本のロータリーの創始者、故・米山梅吉翁の偉業を記念し、後世に残るような有益な事業を立ち上げたい……。1952年、東京ロータリー・クラブが発表したのは、海外から優秀な学生を日本に招き、勉学を支援する奨学事業「米山基金」の構想でした。そこには、二度と戦争の悲劇を繰り返さないために、国際親善と世界平和に寄与したい……。という、当時のロータリアンたちの強い願いがあったのです。』

ということで、これを基点として50年以上の歴史を持つ世界に類を見ない日本のロータリー独自の多地区合同奉仕活動であることを先ず認識し、日本のロータリアンの誇れる事業であることを我々が理解し、各クラブ会員にも説明してほしいと思っています。

まず、事業の素晴らしさがあります。我々が各クラブ米山委員長にお願いしたいことは、その素晴らしさを知ってもらうことを一緒に行ってもらいたい。

そのためにどのようなツールがあるかとい

う話になるが、「豆辞典」の P.29 及び地区協議会の P.84 に載っています。これを米山記念奨学事業への理解と促進に活用してほしい。

### (1) 米山記念奨学事業への理解の促進

(a) DVD 活用・・・各クラブで最低一度は上映を行ってください。

①心つないで世界へ

②すばらしい贈り物

③東京米山友愛 RC 加盟承認状伝達式

④中国米山学友会 2010 年度総会・懇親会 in 上海

⑤米山学友インタビュー第 18 代駐日韓国大使 権哲賢大使

⑥米山学友座談会学友が語る母国の女性自立支援

これらの DVD を例会で放映し、米山学友の活躍を紹介する機会を設けてください。DVD は無料にてお届けできます。配布の A4 のチラシ「米山奨学事業 DVD シリーズのご紹介」の裏面が請求書ですのでご活用ください。また、米山記念奨学会ホームページでも動画を閲覧できます。

(b) 広報のための活用ツール

①豆辞典・・・米山月間に合わせ会員全員に配布されます。希望のクラブにはプレゼン用パワーポイントもお届けできます。

②「ロータリーの友」よねやまだより・・・毎月の「友」に掲載されます。クラブ会員にご周知ください。

③ハイライトよねやま・・・米山記念奨学会のニュースレターです。ガバナー事務所より、クラブオールのメールにて各クラブに配信されますので、プリントアウトしてお配りください。

④米山記念奨学会ホームページ

<http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>  
様々な情報を入手できます。クラブ、皆さんのパソコンに「お気に入り」登録してください。

(c) 奨学生・学友の卓話・・・卓話を積極的に行う所存ですので、各クラブでも積極的に取り入れていただきますようお願いいたします。米山月間は 10 月ですが、地区大会も開催されますので一年を通じて卓話を受け付けます。クラブのプログラム作成の際、10 月以外の卓話もご検討いただけますようお願いいたします。

以上申し上げたように、DVD、広報、卓話などという形で啓蒙活動をして頂くことが一つです。

二つ目は、各々素晴らしい事業が展開されていくことに対して、その事業が我々の寄付によって成り立っているということで、寄付をして頂かねばなりません。そこで、寄付基金がどのように使われているかについては「豆辞典」のP.7に載っています。2010年度決算を見てみますと、寄付金合計1,314万円に対し奨学金・補助費支出が1,426万円となっていて、いただいた寄付金は全て奨学生のために使っています。このことを説明してほしい。また、P.8には財政状況が載っています。2010-11年度の寄付金は13億1,400万円でした。年間800人の奨学支援には14億5,000万円が必要であり、不足分は特別積立財産を取り崩して補いました。本年度は継続的に取り崩すわけにもいかず、奨学生を減らすなどして対応してきました。素晴らしい事業なのでなるべく奨学生を減らさないようにしていきたいと考えています。委員会の役目として一緒に考えていてもらいたい。

続いて寄付金というものにはどのような種類があるかについてはP.9に書かれています。普通寄付金は全ロータリアンからクラブを通じて定期的にいただく寄付。特別寄付金は、任意でいただく寄付です。「普通寄付は義務ですか？」ということについては義務ではないが、財団法人の認可を受けた経緯や多地区合同奉仕活動であることを理解し、なるべく寄付してほしい。全クラブ未納のないようにしてほしい。寄付額一人15,000円以上を達成するために、クラブ内での寄付増進に工夫してほしい。

### (2) クラブ内での寄付増進の工夫

日本各地のRCでメイクアップをしてみますと、米山記念奨学会の寄付金についてはいろいろなアイデアがなされています。

一番多いのは米山ランチで、月に一度通常より500円～1000円安いランチにし、それを寄付金に回しています。これから実施される場合は、無理なく月に一度でなくても結構ですので、10月の米山月間に行うような工夫をお願いします。

クリスマス会などにオークションを行いその収益金を寄付金にする、クラブ創設記念パーティーの記念に寄付をする等の工夫をし、寄付金の増進にご協力をお願いいたします。

### (3) 税制上の優遇処置

「豆辞典P.11」に記載されていますように財団法人ロータリー米山記念奨学会は「特定公益増進法人」として認定されているため、当会对する寄付金は所得税（個人）、法人税（法人）の免税優遇が受けられます。

最後に、日本のロータリー継続発展のために、米山記念奨学会への寄付と啓蒙活動が必要なので、ご協力をお願いいたします。ありがとうございました。

### (B) 奨学生・学友について（織田信幸委員）

クラブ米山委員長の役割・役目は大きく分けて三つでございます。

第一はこの奨学制度に対して十分な理解をして頂くこと。

第二に、寄付金の増進、第三に、奨学生・学友との交流促進と広報です。

一言でいえば、米山の意義を委員長自らが十分理解して頂き、クラブ会員にその思いを伝え、寄付金を集める。そして、過去にお世話した学友や現奨学生との交流を深める。世話クラブになっていないクラブにおいては奨学生や学友を例会に招き、卓話を行うことにより、奨学事業の意義を皆が実感できる機会を設けて頂きたいのです。

ここでおさらいをさせていただきます。

まず、「奨学生」とは、現在、奨学金を支給されている留学生のことで、今年度は、27名がおります。従って世話クラブも27クラブでございます。「学友」とは奨学金が終了した学生たちの事を呼びます。現在、当2790地区には確認出来るだけで約200名の学友が在住しているようです。

次に「学友会」とは、奨学生と学友によって組織される、米山奨学生の同窓会組織です。

現在、海外に3つ（台湾、韓国、中国）日本国内に30の米山学友会があります。基本的には地区ごとに学友会にあるわけですが、また、本年、5月6日から9日にかけて国際大会がタイのバンコクで開催されますがその時期に合わせ海外で4番目の学友会がタイに誕生します。

海外学友会の中では台湾の米山学友会がもっとも古く（1983年1月に設立）歴史もあり、33ある学友会の中で唯一社団法人化された学

友会組織で一番活発に活動しております。台湾の米山学友会では、日本の台湾在住若手研究者に対して奨学金を支給しており、正に台湾の米山版を実施しております。この奨学事業は3年目になりますが、今年度は日本人学生2名がこの奨学金支給を受けております。

中国米山学友会の姫軍(ジジュン)会長は「ロータリーは経済支援ばかりでなく生きる価値観を与えてくれた」と個人的に毎年50万円の寄付を米山奨学会に対して行っており、2011年8月現在でその額は270万円にも達しております。

当2790地区の学友会もその活動を長らく中断しておりましたが昨年6月に再結成され学友会活動を盛り上げております。

たくさんの学友たちが、本国に帰り様々な分野で活躍したり、また日本に残りながら大学や企業で活躍しています。

ロータリアンになった学友も米山奨学会が把握しているだけで128名(2010年8月現在)に上ります。

米山梅吉翁の偉業を称え東京ロータリー・クラブから始まった米山奨学金事業はその精神が連綿と受け継がれる中、クラブ、カウンセラー、そして奨学生が活動してきた結果として世界各国にたくさんの学友が育っているということを改めて理解して頂きたいと存じます。

昨年の東日本大震災に際し、韓国、中国、台湾の学友会や日本に在住する奨学生や学友たちから多くの義捐金が送られてきたことはご承知の通りでございます。

次にホームカミング制度についてお話しします。

#### (1) 「ホームカミング制度」の活用

ホームカミング制度とは、内外で活躍する元米山奨学生を再度、地区やクラブに里帰りさせ、旧交を温め、その成長と活躍振りをアピールしてもらうための制度として、2008年度から始まりました。すでに他の地区ではこの制度を積極的に活用しております。

本年度、第2790地区では地区大会でこの制度を活用すべく準備を進めております。

米山学友の群像 Vol.3 の P.9 をご覧ください。(各国で活躍する学友の紹介)

1977~78年度に松戸ロータリー・クラブが

お世話し、現在、台湾で翻訳家として活躍している頼明珠(ライミンチュ)さんを地区大会にお招きし、米山奨学事業の成果と意義についてお話ししていただくことになっております。奨学生が帰国後どのように活躍しているかを知る事により、事業への理解を深めていただけるものと考えております。

また、地区大会において、学友・奨学生との懇談会も開催する予定でおります。

#### (2) 学友会との連係

昨年、活動を再開した当地区学友会と引き続き良好な関係を築き、地区委員会・奨学生と活動を共にし、多くの場面で卓話協力につなげて行きたいと思っております。

#### (3) 奨学生及びカウンセラーへのケア

現在、年度開始にあたりカウンセラーオリエンテーションを行っていますが、カウンセラーからの相談や実状を確認するためのオリエンテーションを年度内にもう一度実施したいと考えております。

最後になりますが、各クラブ米山委員長さんにおかれましては、地区委員会と、とことんお付き合いいただき、米山記念奨学事業を活性化させるため、互いに緊張感を持った関係を常に維持しつつ連携を取って行きたいと思っております。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

#### (C) 選考について(秋葉幸男委員)

奨学生についての選考は3つあります。特に重要なのは世話クラブ選定と思われまます。世話クラブについては「豆辞典」に載っていますが、特に世話クラブカウンセラー制度についてご参照ください。各クラブにおきましては、この制度について、ご協力ご理解が必要ですのでよろしくお願いいたします。

地区の方針、考えをお伝えいたします。

#### (1) 指定校選定

これまで実績の少ない学校にも積極的に米山記念奨学事業をアピールし、指定校を増やし、より広く優秀な留学生の発掘に努めます。

#### (2) 面接官オリエンテーションの導入

地区の方針に統一した見解を持ち公平な選考をするために、面接官を対象としたオリエンテーションを導入する予定です。

#### (3) 世話クラブ選定

地区内に広く世話クラブ・カウンセラー制度の理解を深めてもらうため、近年の世話クラブ実績を検討したうえで、より幅広く世話クラブの案内及び依頼をする方針です。

以上、ありがとうございました。これで各委員よりの説明を終了いたします。

### 3) 平山金吾 P G 講評、ご意見

担当者からのお話があり、十分御理解いただいていると思います。米山のベテランもおられるようです。米山の理事を長く務めさせていただいている関係で講評させていただきます。副理事長を出している地区の寄付の平均値が低いので肩身が狭いということではないのですが、まだご理解の低いクラブがあるようです。普通寄付と特別寄付もゼロのクラブが一つあります。なにか米山に対する否定的な考えがあるのではないかと心配です。特別寄付では、ゼロのところは 84 クラブ中 20 クラブほどあるので、何が要因での事かと心配しております。

一方、目標である年間 1 人 15,000 円を超すクラブが 17 クラブあります。本年度は具体的に米山月間等を通じて努力して下さる予定ですが、各々の寄付がゼロのクラブについては特に懇切丁寧に説明し、理解を深めてもらいたい。成田クラブとか成田コスモポリタン・クラブは毎年、特別に寄付が多いようです。どんな方法を採用しているかということ、毎月 1 万円なら出せるよということ、10~15 名くらいの方が講を組んで、籤で当たった人の名前で 10 万円寄付をするという工夫をされている。また、褒賞制度が 10 万円毎になっているので 10 万円が一つの単位になっていると考えられているクラブがあるかも知れないが、いくらでも良いのです。特に本年 1 月 4 日で公益財団法人になったので、所得控除と共に税額控除も可能となり、寄付金から 2,000 円を引いた金額が年間所得総額から控除されます。10 万円単位で考えずに 1 万円でも出そうよという雰囲気を作ってください。

7 月から R1 会長をおやりになる田中作次さんとは親しくお付き合いをしている仲です。ご自身でも言われているので、差し支えないと思いますが、田中さんは努力家です、中学を

卒業後集団就職で東京へ出てきました。夜学に通いいろいろな仕事をしながら勉強し、人生の目標を立てて、がむしゃらに歩んできている人です。R1 理事にも自分から務めたいと言ってここまで来ましたし、英語も話せるように努力してきました。目標を立てて、それに対して進む強い精神力を学ぶべきだと思います。もう一つ、自分自身の為だけに生きた人生は価値がないと思うのです。得居ガバナー・エレクトも挨拶の文章の中に「徳を積む」「品性を高める」「利己と利他」など、2790 地区を理念を持って運営し、人生を豊かにしていこうとしている。委員会構成、予算構成でもドラスティックに変えるという改革を成し遂げました。職業奉仕という考え方はロータリーの心棒であり、ロータリーの樹では、クラブ奉仕は根っこの部分であり、職業奉仕が幹であり、それに社会奉仕とか世界奉仕とか新世代とかが枝となり、花を咲かせる絵(図柄)が描いてあります。そういう意味でこの米山の目標を達成し、人様のために何かやるということで、皆様のご協力をいただき、自分の人生や仲間の人生を豊かにするためにも自己犠牲を払っていただくことをお願いし、話を終わらせていただきます。

### 4) 質疑応答

○我孫子 R C 米山記念奨学会委員会委員長

上村 文明

Q: CLP の基本は 3 年間継続していくことと考えるが、それについてどう考えているか?

A: 平山 P G

委員会のこの場では答えられない。会長部会でこんな質問が出ているのではないか?

Q: 得居次年度は組織など一転して行っていく。奨学事業は基本を変えず継続している。その辺をどう考えたらよいのか?

A: 平山 P G

ガバナーの専決事項でスタートしているので、意見を挟まない様になっているのでご理解ください。

○勝浦 R C 国際奉仕担当理事 村石 愛二

Q: 当地区の指定校選定について指定校を教えてください。



A：平野委員長

2012年度の指定校

神田外語大学、国際武道大学、城西国際大学、聖徳大学、千葉大学、千葉科学大学、千葉工業大学、千葉商科大学、東京情報大学、東京理科大学、日本大学、明海大学、流通経済大学、麗拓大学。

Q：指定校の資料はいつただけるのか？勝浦としては2つの大学があったので安心したが実績はあるのか？

A：平野委員長

資料は今回はない。実績として今年度は国際武道大学で1名、世話クラブは大原ロータリークラブ。全国の大学にアンケートを出し、留学生のいる大学全てに指定校として登録するかを伺っている。米山記念奨学事業をよく説明し、申請してきた大学にはその制度をお話しして、最終的に指定校になるか話し合いを行い決めていく。大学の意志があればおおむね指定校となる。

Q：どれくらいの人数が申請選考されるのか？

A：平野委員長

選考決定された人数の倍の応募申請がある。各学校において学内選考していただくこともある。

Q：奨学金はいくらですか？

A：平野委員長

4年制大学一般学生は月額10万円、修士、博士課程の留学生は月額14万円。先の質問の指定校はホームページから情報が得られます。

A：平山金吾PG

今回の質問にはないが、「学費に困っている人を助けるのがロータリー精神ではないか？」とか「中国の方に多く奨学金を出しては？」などの質問がある。米山としては、国際理解と平和を目的としているので、学問の内容やコミュニケーション能力などを基準とし、祖国や日本において将来リーダーシップを発揮していける人格かどうかを常に考えて選考しているので、ご理解ください。学費に困っていると、成績が良いだけで選考していません。奨学生を卒業して祖国や日本に在住している学友を見渡しますと、各国でリーダーシップを発揮している学友がかなり多いことをお伝えします。例えば韓国や中国においてかなり中枢の役につ

いている方が増えている。このことは将来の世界平和や2国間の平和などに資するのではないかと考えています。

以下に掲げる諸原則は、ロータリアンおよびロータリー・クラブの指針として、また、社会奉仕活動に対するロータリーの方針を明確に表すものとして適切であり、また管理に役立つものであることを認め、これを採用するものである。

1) ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕—「超我の奉仕」の哲学であり、これは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。

2) 本来ロータリー・クラブは、事業および専門職務に携わる人の代表として、ロータリーの奉仕の哲学を受け入れ、次の四つのことを実行することを目指している人々の集まりである。

まず第1に、奉仕の理論が職業および人生における成功と幸福の真の基礎であることを団体で学ぶこと。第2に、自分たちのあいだにおいても、また地域社会に対しても、その実際例を団体で示すこと。第3に、各人が個人としてこの理論をそれぞれの職業および日常生活において実践に移すこと。そして第4に、個人として、また団体としても大いにこの教えを説き、その実際例を示すことによって、ロータリアンだけでなく、ロータリアン以外のすべての人々が、理論的にも実践的にも、これを受け入れるように励ますことである。

3) RIは次の目的のために存在する団体である。

a) ロータリーの奉仕の理想の擁護、育成および全世界への普及。

b) ロータリー・クラブの設立、激励、援助および運営の管理。

c) 一種の情報交換所として、各クラブの問題を研究し、また、強制でなく有益な助言を与えることによって各クラブの運営方法の標準化を図り、社会奉仕活動についても、既に広く多くのクラブによってその価値が実証されており、RI定款に掲げられているロータリーの綱領の趣旨にかない、これを乱すような恐れのない社会奉仕活動によってのみ、その標準化を図ること。

4) 奉仕するものは行動しなければならない。従って、ロータリーとは単なる心構えのことをいうのではなく、また、ロータリーの哲学も単に主観的なものであってはならず、それを客観的な行動に表さなければならない。そして、ロータリアン個人もロータリー・クラブも、奉仕の理論を実践に移さなければならない。そこで、ロータリー・クラブの団体的行動は次のような条件の下に行うように勧められている。いずれのロータリー・クラブも、毎年度、何か一つの主だった社会奉仕活動を、それもなるべく毎年度異なっていて、できればその会計年度内に完了できるようなものを、後援することが望ましい。この奉仕活動は、地域社会が本当に必要としているものに基づいたものであり、かつ、クラブ会員の一致した協力を必要とするものでなければならない。これは、クラブ会員の地域社会における個々の奉仕を奨励するためにクラブが継続的に実施しているプログラムとは別に行われるべきものとする。

5) 各ロータリー・クラブは、クラブとして関心があり、またその地域社会に適した社会奉仕活動を自主的に選ぶことについて絶対的な権利をもっている。しかし、いかなるクラブも、ロータリーの綱領を無視したり、ロータリー・クラブ結成の本来の目的を危うくするような社会奉仕活動を行ってはならない。そしてRIは、一般的な奉仕活動を研究し、標準化し、推進し、これに関する有益な示唆を与えることはあっても、どんなクラブのどんな社会奉仕活動にせよ、それを命じたり禁じたりすることは絶対にしてはならないものとする。

6) 個々のロータリー・クラブの社会奉仕活動の選択を律する規定は別に設けられていないが、これに関する指針として以下の準則が推奨されている。

a) ロータリーの会員の数には限りがあるので、ロータリー・クラブは、市民全体の積極的な支持なくしては成功しえないような広範囲の社会奉仕活動は、他に地域社会全体のために発言し、行動する適切な市民団体などの存在しない土地の場合に限り、こ

れを行うこととすべきであり、商工会議所のある土地では、ロータリー・クラブはその仕事の邪魔をしたり、横取りをしたりすることのないようにしなければならない。しかし、ロータリアンとしては、奉仕を誓い、その理念の教えを受けた個人として、その土地の商工会議所の会員となって活動すべきであり、また、その土地の市民として、他の善良な市民と一緒に、広くすべての社会奉仕活動に関与し、その能力の許す限り、金銭や仕事の上でその分を果たすべきである。

- b) 一般的に言って、ロータリー・クラブは、どんな立派な事業であっても、クラブがその遂行に対する責任の全部または一部を負う用意と意思のない限り、その後援をしてはならない。
- c) ロータリー・クラブが奉仕活動を選ぶ場合に宣伝をその主たる目標としてはならないが、ロータリーの影響力を拡大する方法として、クラブが立派に遂行した有益な事業については正しい広報が行われるべきである。
- d) ロータリー・クラブは、仕事の重複を避けるようにする必要があり、総じて、他に機関があり、それによって既に立派に行われている事業に乗り出すようなことをしてはならない。
- e) ロータリー・クラブの奉仕活動は、なるべく現存の機関に協力する形で行うことが望ましいが、現存機関の設備や能力が目的の遂行に不十分である場合には、必要に応じ、新たに機関を設けることにしても差し支えない。ロータリー・クラブとしては、新たに重複した機関をつくるよりも、現存の機関を活用することのほうが望ましい。
- f) ロータリー・クラブはそのすべての活動において、宣伝者として優れた働きをし、多大の成功を収めている。ロータリー・クラブは地域社会に存在する問題を見つけ出すことはしても、それがその地域社会全体の責任にかかわるものである場合には、単独でそれに手を下すようなことはしないで、他の人々にその解決の必要を悟らせる努力をし、地域社会全体にその責任を自覚させて、この仕事がロータリーだけの責任にならないで、本来その責任のある地域社会全体の仕事になるようにしている。また、

ロータリーは、事業を始めたり、指導したりするが、一方、当然それに関心をもっていていると考えられるほかのすべての団体の協力を得るように努力すべきであり、そして、当然ロータリー・クラブに帰すべき功績であっても、それに対する自分のほうの力を最小限度に評価して、そのすべてを協力者の手柄にするようにしなければならない。

- g) クラブがひと固まりとなって行動するだけで足りるような事業よりも、広くすべてのロータリアンの個々の力を動員するものほうがロータリーの精神によりかなっていると言える。それは、ロータリー・クラブでの社会奉仕活動は、ロータリー・クラブの会員に奉仕の訓練を施すために考えられたいわば研究室の実験としてのみこれを見るべきであるからである (23-34、26-6、36-15、51-9、66-49)。

